CLS-CLASS
取扱説明書

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツをお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をお使いになる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- オプションや仕様により異なる装備には＊マークがついています。
- 関連する内容が他のページにもある場合は、該当ページを（3-50）のようなかたちで示しています。
- 操作手順などは、文頭に▶を記しています。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店または指定サービス工場におたずねください。

メルセデス・ベンツ日本株式会社

表記と記載内容について

警　告

重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。

注　意　！

けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。

知　識

知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。

環　境

環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことを記載しています。

環境保護について

ダイムラー社では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の2/3（許容限度が6,000回転のときは約4,000回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- 指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。

環　境

ダイムラー社は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

警　告

車両には警告ラベルが貼付されています。これらの警告ラベルには危険な状況を回避するための情報をはじめ、車を安全に使用するための情報が記されています。

警告ラベルは絶対にはがさないでください。

1.安全のために

2.安全装備

3.運転する前に

4.マルチファンクションディスプレイ

5.運転するとき

6.快適・室内装備

7.万一のとき

8.点検と整備

9.サービスデータ

10.こんなときは

11.さくいん

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

燃料の給油

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を補給してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。
- セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

◇ エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。

◇ 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。

◇ 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。

◇ 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。

◇ 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。

◇ キャップの取り外し / 取り付け（**3-41**）は確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。

◇ 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。

◇ 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。

◇ 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料を入れすぎると、燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

◇ 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。

◇ 気化した燃料を吸い込まないように注意してください。

◇ ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけトランクに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 後席ヘッドレストの後方に荷物を置かないでください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストよりも、高く積み上げないでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用して、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、ひざの上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（2-17）を使用することが法律で義務付けられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置をさわるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席に装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートを最後部に移動してください。
- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートを最後部にし、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- リアドアのチャイルドプルーフロック（3-29）やドアウインドウのセーフティスイッチ（3-47）を活用してください。

ドアウインドウやスライディングルーフ＊の開口部から身体を出さない

子供がドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。

◇ 運転装置に触れてけがをするおそれがあります。

◇ 誤ってドアを開き、事故の原因になるおそれがあります。

◇ 炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

◇ 寒冷時には車内が低温になり、命にかかわるおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

慣らし運転

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

知　識

新車時の高速走行後など、エンジンルームからわずかに白煙が出たり、独特の臭いがすることがあります。これは防錆保護ワックスが加熱されて発生するもので、故障や異常ではありません。走行距離が増すと臭いはなくなります。

最初の1,500kmまでは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の2/3（許容限度が6,000回転のときは約4,000回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ位置およびギア位置 3 、 2 、 1 は山道などを低速で走行するときだけ使用してください。
- できるだけ、走行モードをCモードにして走行してください。

走行距離が1,500kmを超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

知　識

- CLS 63 AMGは以下の注意事項を守ってください。

  ◇走行速度が140km/hを超えないようにしてください。

  ◇エンジン回転数が4,500回転を超えた状態で長時間走行しないでください。
- エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。
- **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。
- **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッション、駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保して、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

知　識

エンジンブレーキ：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。

自動車電話、携帯電話

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になることがあります。安全な場所に停車してから使用してください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進して、事故を起こすおそれがあります。

  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

道路冠水や車が水没したとき

- 冠水した道路を走行するときに許容されている最大水深は約25cmです。
- 波が立たないような速度で走行してください。
- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、指定サービス工場に連絡してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯や故障 / 警告メッセージが消灯しないときは、指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止して指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウインドウ周辺やボンネットの吸気口に枯れ葉や異物がある場合は必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、車内に水が侵入するおそれがあります。

雪が降っているときは

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道では

急な坂道で駐車するときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをしてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出して事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になることがあります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意し、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいので、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いので歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分にとってください。

- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、ホールド機能やクルーズコントロール、ディストロニック＊は使用しないでください。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。またはエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「オートマチック車の運転」もあわせてお読みください(5-16)。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーがＰ、Ｎ以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

セレクターレバーがＰに入っていることを確認し、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- セレクターレバーをＤ、Ｒに入れるときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

走行中

- 走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが走行位置に入ると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂での停車時、後退しようとする車を、アクセルペダルを踏むことにより停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 完全に停車する前に、セレクターレバーを P に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずセレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにセレクターレバーを P か N に戻すように心がけてください。 R に入っていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。
- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。

違法改造はしない

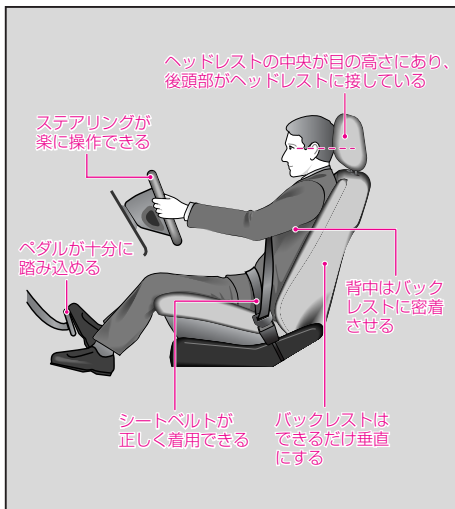
- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- 定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 承認されていない燃料やオイルの添加剤などは使用しないでください。故障の原因になります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、指定サービス工場におたずねください。

ナビゲーションシステムの操作

ナビゲーションシステムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に画面を見るときは、必要最小限（約1秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、オイル、フィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢になるように上記の点に注意してシートを調整してください。

警　告

- 運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- シートのバックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

注　意　！

- シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。
- シートの一部が身体や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。
- 誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

※車種や仕様によりシートの形状などは異なります。

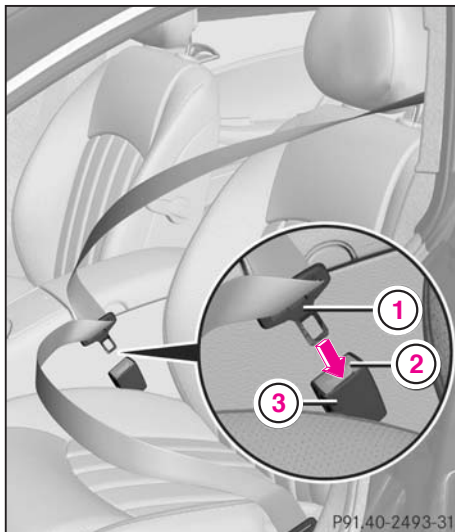
シートベルト

シートベルトは、万一の衝突時などに乗員が受けるけがの被害を軽減させる乗員保護装置です。

急ブレーキや衝撃などを感知するとシートベルトをロックして乗員がシートから放り出されないように拘束します。

シートベルトの効果を十分に発揮させるためには、走行前に正しく着用し、正しく取り扱うことが必要です。

※車種や仕様によりシートの形状などは異なります。

シートベルトの着用

① プレート
② 解除ボタン
③ バックル

シートベルトを着用する

▶ プレート①を持ってシートベルトをゆっくり引き出します。シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、プレート①の先端をバックル③に差し込みます。

▶ 腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして、ベルトにたるみがないように身体に密着させます。

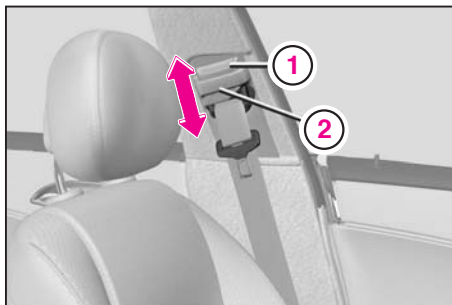
▶ 肩を通るベルトが肩の中央にかかっていることを確認します。

シートベルトを外す

▶ 手でプレート①を持ち、バックル③の解除ボタン②を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

フロントシートベルトの高さ調整

シートベルトが首にかかったり、肩から外れたりしないように高さを調整します。

高さは3段階に調整できます。

① ロック解除ボタン
② アンカー

フロントシートベルトの高さを調整する

▶ 上げるときは、アンカー②をそのまま上げます。

▶ 下げるときは、ロック解除ボタン①を押しながらアンカー②を下げます。

調整後はアンカーが確実にロックしていることを確認してください。

警　告

- すべての乗員がシートベルトを着用してください。シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトのプレートがバックルに確実に差し込まれていないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトの機能が十分発揮できるように、以下の点に注意して正しく着用してください。

◇ バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。

◇ コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。

◇ シートに深く腰かけてください。

◇ 肩を通るベルトを脇の下に通さないでください。上体を固定できず、衝突したときなどに強い衝撃を受けます。

◇ 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。腹部にかけると衝突したときなどに腹部が強く圧迫されます。

◇ シートベルトがねじれた状態で着用しないでください。衝撃を分散できなくなります。

◇ 1本のシートベルトを2人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。

◇ シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。

◇ 子供が着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

◇ 子供をひざの上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。

◇ 着用前に、シートベルトやバックルに損傷や汚れがないことを確認してください。

注 意！

- シートベルトを正しく機能させ、損傷を防ぐために以下の点に注意してください。
  - ◇ ドアに挟んだり、鋭利な部分に当てない
  - ◇ たばこの火など、熱いものを近付けない
  - ◇ バックル部分に異物を入れない
  - ◇ ペンや眼鏡など、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にかけない
  - ◇ 分解や改造などをしない
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるので清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

シートベルトテンショナーは、エンジンスイッチが**2**の位置のときに作動します。

フロントのシートベルトテンショナーは、シートベルトがバックルに確実に差し込まれているときに作動します。

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターはシートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を軽減します。

注 意 ！

- シートベルトテンショナーが作動すると、シートベルトに強く締め付けられることがあります。
- シートベルトに強く締め付けられている状態でシートベルトを外すときは、シートベルトのプレートを確実につかみながらバックルの解除ボタンを押してください。シートベルトの張力により、解除したプレートが跳ね返り、けがをするおそれがあります。
- バックル部分に作動の妨げになるようなものがないことを確認してください。
- 作動したシートベルトテンショナーは、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。
- 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突時などに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

知 識

- シートベルトテンショナーの作動時にわずかながら白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  また、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- シートベルトテンショナーの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。
- シートベルトテンショナーが作動すると、エアバッグシステム警告灯が点灯します。
- 助手席に乗員がいないときも、シートベルトのプレートをバックルに差し込んでいるときは、助手席シートベルトテンショナーが作動することがあります。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。
- シートベルトテンショナーは、車が横転したときに作動することがあります。
- 未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

シートベルト着用警告

シートベルト警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかに指定サービス工場で点検してください。

エンジンがかかっているときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用せずにエンジンスイッチを**2**の位置にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

走行速度が約25km/h以上になったときに、運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないかシートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約60秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みますが、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約25km/h以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

知　識

助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

PRE-SAFE

PRE-SAFE（プレセーフ）は、緊急ブレーキや横滑りなどにより車が不安定な状態にあることを感知したときに、万一の衝突や横転に備えて乗員保護機能を高める装置です。

PRE-SAFEの作動

PRE-SAFEは、約35km/h以上で走行しているとき、以下のように作動します。

◇ 衝突に備え、PRE-SAFE用の電動式シートベルトテンショナーが前席シートベルトを引き込み、シートベルトテンショナーの効果を高めます。

◇ 助手席が、エアバッグの作動に対し不適切な位置にある場合は、シートを適正な位置に自動的に調整します。

◇ 車の横滑りを感知すると、万一の横転時に乗員が車外に放出されることを防ぐため、ドアウインドウとスライディングルーフ＊が少し開いた状態まで自動的に閉じます。

車が不安定な状態から脱したときは、助手席シートの位置、ドアウインドウやスライディングルーフ＊の開き具合を再度調整してください。

注　意　！

助手席の位置を調整するときは、シート下部や後方に物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

知　識

- 車が不安定な状態から脱すると、電動式シートベルトテンショナーの張力が緩みます。
- 電動式シートベルトテンショナーが解除されてもシートベルトが緩まないときは、シートの前後位置やバックレストの角度を少し後方に移動させると、シートベルトが緩みます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

SRSエアバッグ

エアバッグは、シートベルトの効果を補助する装置です。

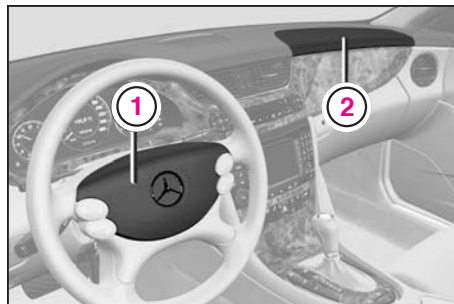
エアバッグの効果を発揮させるためには、シートベルトの正しい着用が条件になります。

衝突時のように車が強い衝撃を受けると、収納されているエアバッグが瞬時にふくらんで乗員の前面や周囲にエアクッションを作り、乗員への衝撃を分散・軽減します。

衝撃を受ける状況によって、作動するエアバッグが異なります。

知　識

SRSはSupplemental Restraint System（乗員保護補助装置）の略です。

運転席 / 助手席エアバッグ

左ハンドル車

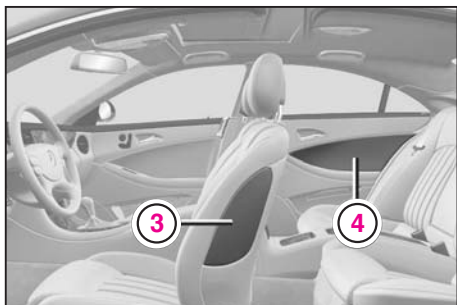
① 運転席エアバッグ
　ステアリングパッド部

② 助手席エアバッグ
　助手席ダッシュボードパネル部

前方からの強い衝撃を受けると作動し、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

また、車が横転したときも、運転席 / 助手席エアバッグは作動することがあります。

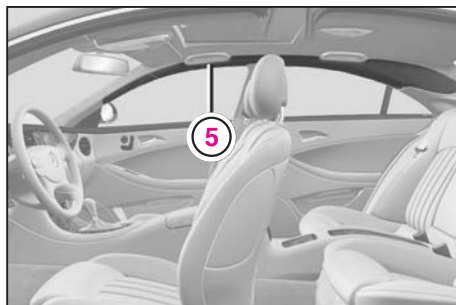
運転席 / 助手席エアバッグは、シートベルトを着用しているときに作動します。

ただし、衝撃の強さなどにより、シートベルトを着用していないときも作動することがあります。

フロント / リアサイドバッグ

③ フロントサイドバッグ
　運転席 / 助手席シートのバックレスト側面
④ リアサイドバッグ
　左右のリアドア内張り部

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のサイドバッグが作動し、上体への衝撃を分散・軽減します。

また、車が横転したときもサイドバッグは作動することがあります。

ウインドウバッグ

⑤ ウインドウバッグ
　フロントピラーからリアピラー間のルーフライニング部

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のウインドウバッグが作動し、頭部などへの衝撃を分散・軽減します。

また、車が横転したときもウインドウバッグは作動することがあります。

SRS エアバッグシステム警告灯

エンジンスイッチを1の位置にすると数秒間点灯します。また、2の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

点灯しないときや、点灯後またはエンジン始動後に消灯しないとき、走行中に点灯したときはエアバッグシステムやシートベルトテンショナー、助手席の乗員検知機能 / チャイルドセーフティシート検知システム＊の故障です。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

エアバッグやシートベルトテンショナーが作動したときは、エアバッグシステム警告灯が点灯します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

警　告

- エンジン始動後もエアバッグシステム警告灯が点灯するときは、事故などの衝撃があってもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれがあります。また、不意に作動するおそれもあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後部に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。
- ウインドウやピラーの周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- アシストグリップやコートフックにかたい物や鋭利な物をかけないでください。
- ステアリングのパッド部やエアバッグ収納部に、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。
- フロントシートには市販のシートカバーを使用しないでください。フロントサイドバッグの作動が妨げられるおそれがあります。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間に、ペットや荷物を置かないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。

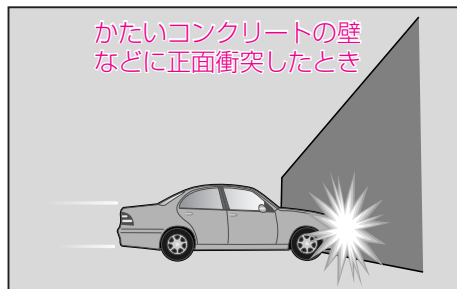
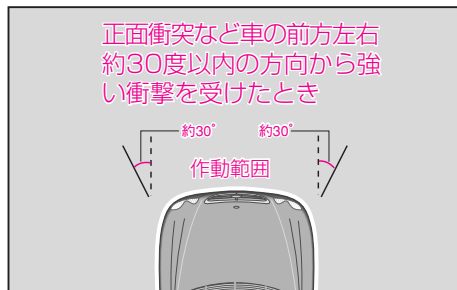
注 意 !

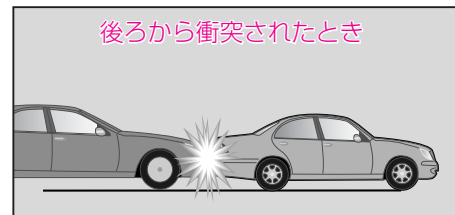
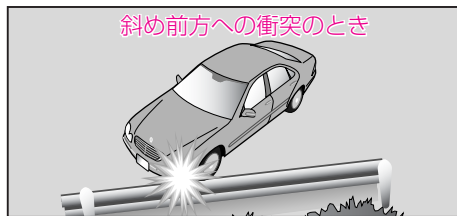
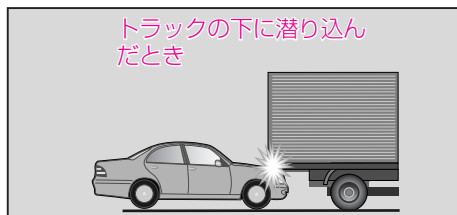
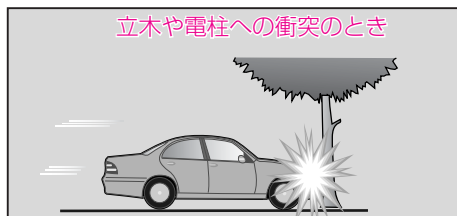
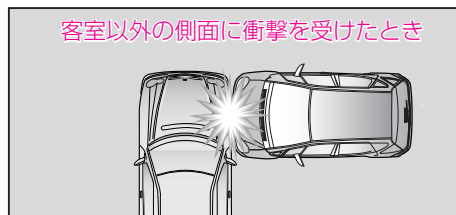
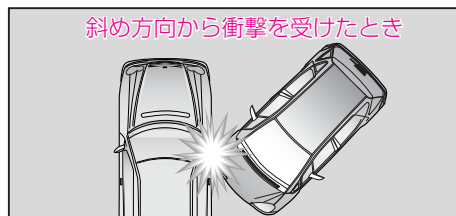
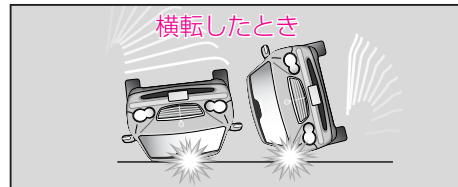
- エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。
- エアバッグの作動後はエアバッグや関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- エアバッグが作動した後は、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。正しく作動しなくなったり、誤作動でけがをするおそれがあります。

知 識

- 車の前方からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。
- 助手席に乗員がいないときも、シートベルトのプレートをバックルに差し込んでいるときは、衝突時などに助手席エアバッグが作動することがあります。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動すると、自動的に解錠されます。
- エアバッグが作動すると、エアバッグシステム警告灯が点灯します。
- エアバッグが作動すると非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。
- エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  また、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- エアバッグの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。
- ボディの部位によって受けた衝撃を吸収する度合いが異なるので、損傷の大きさとエアバッグの作動は必ずしも一致しません。
- 未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しない場合があるとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

チャイルドセーフティシート

シートベルトは身長150cm以上の人が使用することを前提にしています。シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。

警　告

- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- 6歳未満の子供を乗せるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 6歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できない子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 身長150cm未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用し、子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは、後席に装着してください。
- やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 後向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。またタイプにかかわらず助手席ではチャイルドセーフティシートを後向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

  この危険を知らせるラベルがサンバイザーに貼付されています。
- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。

- チャイルドセーフティシートは確実に装着してください。急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが放り出されて乗員がけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートが確実に装着されないおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実に固定してください。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。

- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。
  ◇ 運転装置に触れてけがをするおそれがあります。
  ◇ 誤ってドアを開き、事故の原因になることがあります。
  ◇ 寒冷時には車内が低温になり、凍傷を起こすおそれがあります。
  ◇ 炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

純正チャイルドセーフティシート

ダイムラー社の純正チャイルドセーフティシートには、チャイルドセーフティシート検知システム装備車の助手席に装着すると、助手席エアバッグの作動を解除する、センサー付きシート（ベビーセーフ プラス、デュオ プラス、キッド）があります。

純正チャイルドセーフティシートには、以下のタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフ プラス	約10kg以下	新生児~9カ月位
デュオ プラス	9~18kg	8カ月~4歳位
キッド	15~36kg	3歳半~12歳位

※チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

チャイルドセーフティシート検知システム＊（CLS 63 AMG）

助手席シートの座面に検知システムが装備されており、センサー付き純正チャイルドセーフティシートとの間で自動的に信号の発信 /受信を行ない、チャイルドセーフティシートの有無を判断し、助手席エアバッグの機能を解除するシステムです。

助手席エアバッグの機能が解除されると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯します。

警　告

チャイルドセーフティシート検知システム非装備車にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着したとき、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されません。

必ず以下の点に注意してください。

- 純正チャイルドセーフティシートであっても、必ず後席に装着してください。
- やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着し、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 後向きに装着するタイプの純正チャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

注　意　！

助手席のシート座面とセンサー付き純正チャイルドセーフティシートの間に物を入れないでください。チャイルドセーフティシートを検知できなくなるおそれがあります。

知　識

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着して、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しても、サイドバッグ、ウインドウバッグ、シートベルトテンショナーの機能は解除されません。
- 純正チャイルドセーフティシートには、チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

助手席エアバッグオフ表示灯（CLS 63 AMG）

① 助手席エアバッグオフ表示灯

センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着しているときにエンジンスイッチを**1**か**2**の位置にすると、助手席エアバッグオフ表示灯①が点灯し、助手席エアバッグの機能が解除されます。

点灯しないときは、チャイルドセーフティシート検知システムが故障しています。助手席でチャイルドセーフティシートを使用せずに、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

注　意　！

センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着していないときは、エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にすると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときや点灯後に消灯しないときは、システムの故障です。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

警　告

センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着するときは、以下の点に注意して正しく使用してください。

- **チャイルドセーフティシート検知システム非装備車の場合（CLS 63 AMGを除く車種）**

  ◇純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。

  ◇やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着し、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。

  ◇後向きに装着するタイプの純正チャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

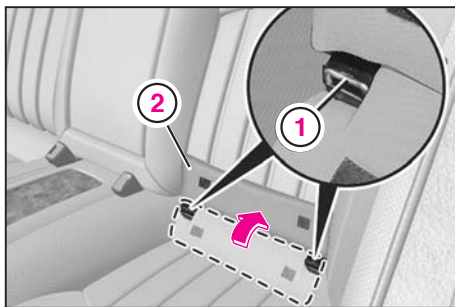
  ◇チャイルドセーフティシート検知システム非装備車にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着したとき、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されていません。純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。

- **チャイルドセーフティシート検知システム装備車の場合（CLS 63 AMG）**

  ◇センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着したときは、必ず助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。

  ◇助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。また、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

  ◇助手席のシートクッションに、電源の入ったパソコンや携帯電話などの電子機器、またはICカードなどを置かないでください。チャイルドセーフティシート検知システムが誤作動して、事故のときに助手席エアバッグが作動しないおそれや、センサー付き純正チャイルドセーフティシートを検知できずに助手席エアバッグが作動するおそれがあります。

ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート固定装置

① 固定装置
② カバー

左右の後席に、ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート用の固定装置①を装備しています。

チャイルドセーフティシートを装着する

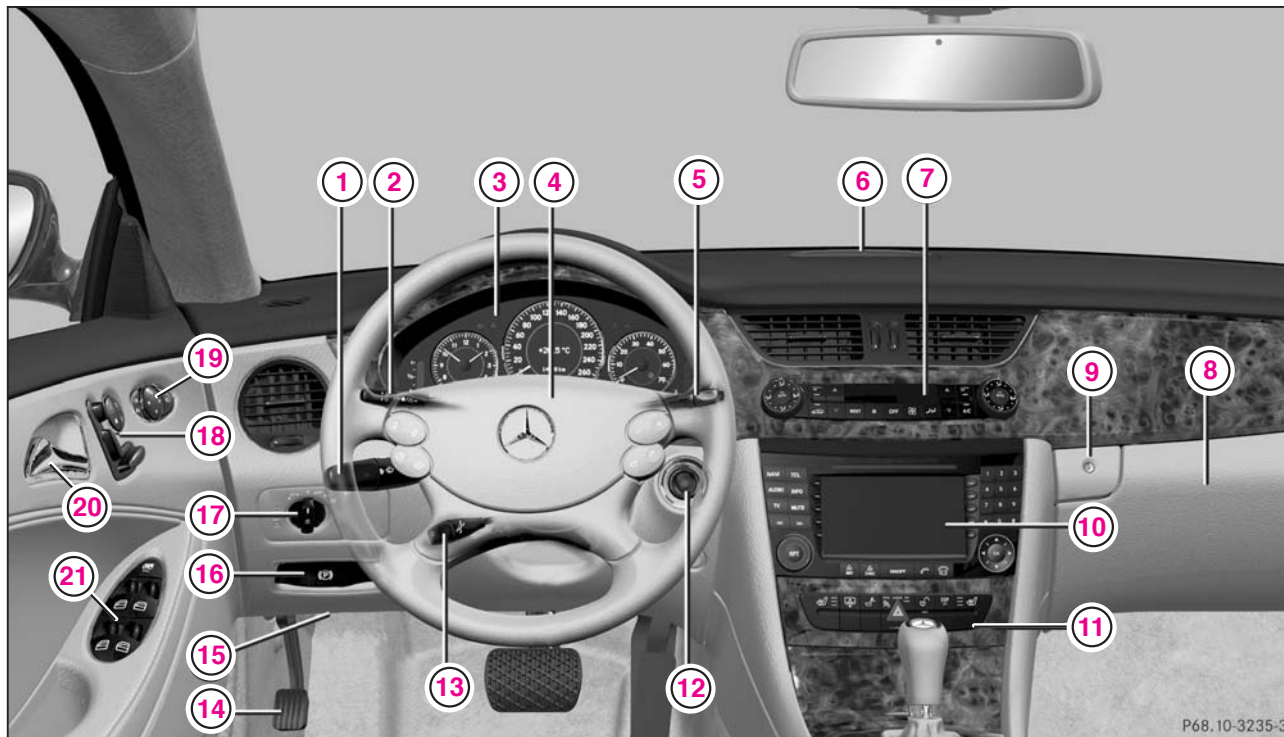
▶ シートクッション後端のカバー②を開きます。

▶ 固定装置①にチャイルドセーフティシートを装着します。

警　告

- この固定装置は、体重22kg以下の子供を乗せるときに使用してください。
- チャイルドセーフティシートは、必ず製品の取扱説明書の指示に従い、左右の固定装置に装着してください。装着のしかたを誤ると、事故のとき、十分な効果が得られなかったり、チャイルドセーフティシートが外れるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、指定サービス工場で新品に交換してください。

インストルメントパネル

インストルメントパネル

左ハンドル車

※装備、仕様の違いにより、スイッチなどの位置や形状が実際の車両と異なることがあります。

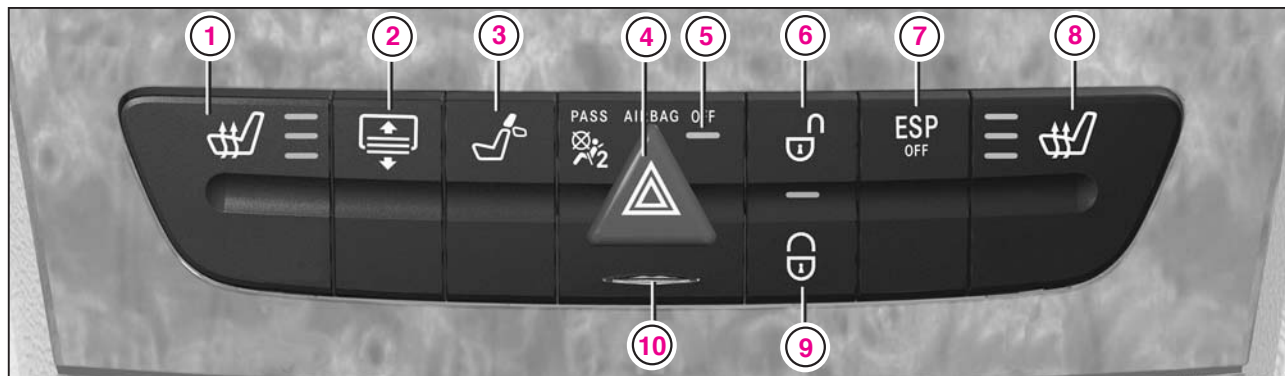
	名称	ページ
①	コンビネーションスイッチ（ヘッドランプ / 方向指示 / ワイパー）	5-25 5-28 5-30
②	クルーズコントロール / ディストロニック＊ / 可変スピードリミッターレバー	5-52 5-58 5-69
③	メーターパネル	3-61
④	ホーン / 運転席エアバッグ	2-11
⑤	ボイスコントロールレバー	別冊
⑥	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯	5-74

	名称	ページ
⑦	エアコンディショナーコントロールパネル	6-3
⑧	グローブボックス	6-28
⑨	グローブボックスオープナーボタン グローブボックスキーシリンダー	6-28
⑩	マルチファンクションコントローラー	別冊
⑪	センターコンソール操作部 CDチェンジャーカバー	3-4 6-39
⑫	エンジンスイッチ	5-2
⑬	ステアリング調整レバー	3-60
⑭	パーキングブレーキペダル	5-33

	名称	ページ
⑮	ボンネットロック解除レバー	3-38
⑯	パーキングブレーキ解除ハンドル	5-33
⑰	ランプスイッチ	5-22
⑱	シート調整スイッチ ポジションスイッチ メモリースイッチ	3-15 3-18 3-18
⑲	ドアミラー調整スイッチ ドアミラー選択ボタン ドアミラー格納 / 展開スイッチ	3-56 3-56 3-57
⑳	ドアレバー	3-23
㉑	ドアウインドウスイッチ セーフティスイッチ	3-45 3-47

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

センターコンソール

センターコンソール

	名称	ページ
①	シートヒータースイッチ（左側フロントシート）	3-19
②	リアブラインドスイッチ	6-24
③	リアヘッドレスト格納スイッチ	3-22
④	非常点滅灯スイッチ	5-29
⑤	助手席エアバッグオフ表示灯	2-20

	名称	ページ
⑥	ドアロックスイッチ（解錠）	3-28
⑦	ESPオフスイッチ	5-47
⑧	シートヒータースイッチ（右側フロントシート）	3-19
⑨	ドアロックスイッチ（施錠）	3-28
⑩	CDチェンジャーカバー開閉ボタン	6-39

警　告

チャイルドセーフティシート検知システム非装備車にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着したとき、助手席エアバッグオフ表示灯⑤が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されません。詳しくは**（2-21）**をご覧ください。

キー

リモコン機能付きのキーが2本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。

警　告

- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。
- 短時間でも、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- キーに重い物や必要以上に大きなキーホルダーなどを取り付けないでください。走行中にキーホルダー自体の重みでキーがまわったり、キーが抜けてしまい、エンジンが停止すると、事故を起こすおそれがあります。

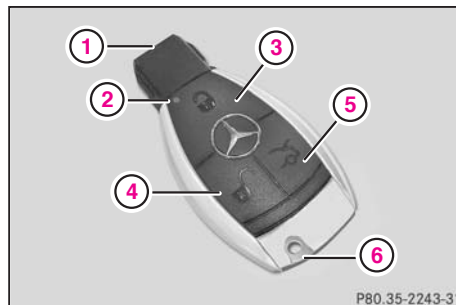
注　意　！

- キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。
- キーを強い電磁波にさらすと、リモコンに障害が発生するおそれがあります。
- キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。
- キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。

キー

知　識

- ２つのキーを見わけるため、キーのストッパー(3-10)の色は異なります。
- 新たにキーをつくる場合は、指定サービス工場におたずねください。

リモコン機能

① 発信部
② 表示灯
③ 施錠ボタン
④ 解錠ボタン
⑤ トランクオープナーボタン
⑥ エマージェンシーキー

エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- ドア、トランク、燃料給油フラップの解錠 / 施錠
- トランクを開く
- ドアウインドウとスライディングルーフ＊の開閉（3-11）

操作時に表示灯②が１回点滅します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

解錠する

▶ 解錠ボタン④を押します。

ドア、トランク、燃料給油フラップが解錠され、非常点滅灯が1回点滅します。

トランクが独立施錠（3-33）されているときは、解錠ボタン④を押してもトランクは解錠されません。

施錠する

▶ 施錠ボタン③を押します。

ドア、トランク、燃料給油フラップが施錠され、非常点滅灯が3回点滅します。

トランクを開く

▶ トランクオープナーボタン⑤を押し続けます。

トランクが開きます。

トランクが独立施錠（3-33）されているときは、トランクオープナーボタン⑤を押し続けてもトランクは開きません。

注 意 ！

- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- リモコン操作でドアウインドウやスライディングルーフ＊を閉じるときは、開口部に異物がないことを確認してください。
- リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が3回点滅したこと、ドア、トランク、燃料給油フラップが確実に施錠されたことを確認してください。
- 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

リモコン機能の設定切替

リモコン操作での解錠時に、運転席ドアと燃料給油フラップだけを解錠するように設定できます。

リモコン機能の設定を切り替える

▶ 施錠ボタン③と解錠ボタン④を同時に約6秒間押し続けます。

キーの表示灯②が2回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では以下のように作動します。

- 解錠ボタン④を1回押すと、運転席ドアと燃料給油フラップのみが解錠され、非常点滅灯が1回点滅します。
- 続けて約40秒以内に解錠ボタン④を押すと、助手席ドア、リアドア、トランクが解錠され、非常点滅灯が1回点滅します。

  トランクが独立施錠（3-33）されているときは、解錠ボタン④を押してもトランクは解錠されません。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

リモコン機能の設定を元に戻す

▶ 再度、施錠ボタン③と解錠ボタン④を同時に約6秒間押し続けます。

キーの表示灯②が2回点滅し、元の設定に戻ります。

知 識

- リモコン操作での解錠後約40秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。
  - ◇ ドアを開く
  - ◇ トランクを開く
  - ◇ エンジンスイッチにキーを差し込む
  - ◇ ドアロックスイッチ（解錠）を押す
- 車がバッテリーあがりを起こしたときは、キーの電池が正常でもリモコン操作での解錠 / 施錠はできません。
- キーの電池が消耗すると操作時に表示灯が点灯せず、リモコン操作ができなくなりますが、エンジンは始動できます。
- CDチェンジャーカバー(6-39)が開いているときにリモコン操作で施錠すると、CDチェンジャーカバーも閉じます。

施錠時のドアミラーの格納

リモコン操作で施錠するときにドアミラーも併せて格納できます。

格納されたドアミラーは、フロントドアを開くと展開します。

この機能の設定と解除については**（4-45）**をご覧ください。

知 識

- フロントドアを開かなくても、格納されたドアミラーの位置が少し動いている場合は、ドアミラー格納 / 展開スイッチ**（3-57）**を押して、展開してください。
- ドアミラー格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納してから施錠したときは、フロントドアを開いてもドアミラーは展開しません。

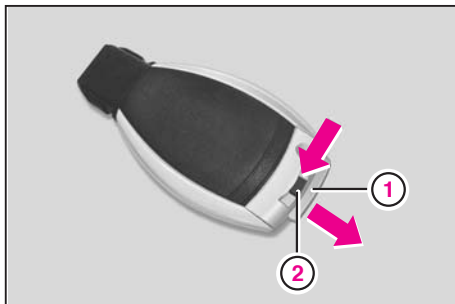
ロケイターライティング

周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。

点灯したランプは、運転席ドアを開いたとき、または約40秒後に消灯します。

この機能の設定と解除については**（4-36）**をご覧ください。

キー

エマージェンシーキー

① エマージェンシーキー
② ストッパー

キーに収納されています。

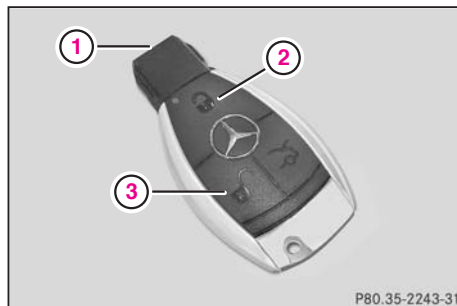
グローブボックスを施錠 / 解錠する **(6-28)** ときに使用します。

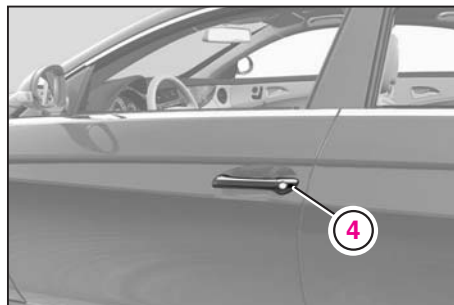
また、運転席ドアやトランクを解錠 / 施錠する **(3-26、34)** ときなどに使用します。

エマージェンシーキーを使用する

▶ ストッパー②を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー①を矢印の方向に抜きます。

収納するときは元の位置に差し込みます。

リモコン操作でドアウインドウとスライディングルーフ＊を開閉する

① 発信部
② 施錠ボタン
③ 解錠ボタン

リモコン操作でドアウインドウとスライディングルーフ＊を開閉できます。

④ 受光部

ドアウインドウとスライディングルーフを開く

▶ キーの発信部①を運転席ドアのドアハンドルの受光部④に向けて、解錠ボタン③を押し続けます。

ドアウインドウとスライディングルーフが開きます。

解錠ボタン③から手を放すと、作動中のドアウインドウとスライディングルーフはその位置で停止します。

ドアウインドウとスライディングルーフを閉じる

▶ キーの発信部①を運転席ドアのドアハンドルの受光部に向けて、施錠ボタン②を押し続けます。

ドアウインドウとスライディングルーフが閉じます。

施錠ボタン②から手を放すと、作動中のドアウインドウとスライディングルーフはその位置で停止します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

注　意　！

- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- リモコン操作でドアウインドウやスライディングルーフを閉じているときに身体などが挟まれそうになったときは、ただちに施錠ボタン②から手を放し、解錠ボタン③を押し続けて、ドアウインドウとスライディングルーフを開いてください。
- リモコン操作でドアウインドウやスライディングルーフを閉じるときは、開口部に異物がないことを確認してください。
- リモコン操作でドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。
- リモコン操作で施錠したときは、車から離れる前に、すべてのドアウインドウとスライディングルーフが閉じていることを確認してください。

知　識

- リモコン操作時は、キーの発信部を運転席ドアのドアハンドルの受光部に向けて操作してください。
- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

電池の交換

リモコンの作動可能距離が短くなったり、キーのいずれかのボタンを押しても作動しない場合は、電池の消耗が考えられます。指定サービス工場で点検を受けてください。

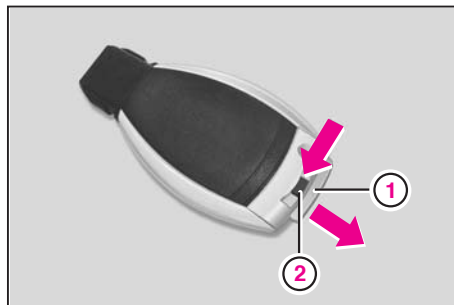
電池の交換は指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

警　告

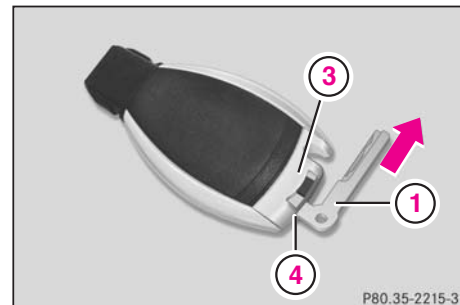
電池は子供の手の届かないところに保管してください。誤って電池を飲み込むおそれがあります。

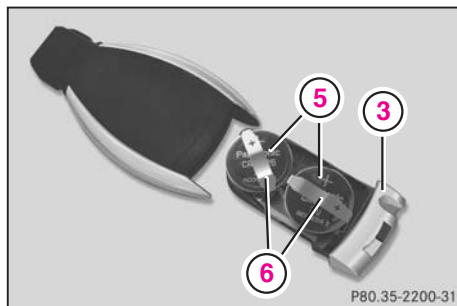
もし電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

知　識

キーのいずれかのボタンを押したときに表示灯（3-6）が1回点滅すれば電池は正常です。

① エマージェンシーキー
② ストッパー

電池の交換手順

▶ ストッパー②を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー①を矢印の方向に抜き取ります。

① エマージェンシーキー
③ 電池ケース
④ 凹部

▶ エマージェンシーキー①を凹部④にかけて矢印の方向に押しながら、電池ケース③を引きます。

③ 電池ケース
⑤ 電池
⑥ 電極板

▶ 電池⑤を外し、新しい電池と交換します。

電池は2個とも⊕を上にして、電極板⑥の間に取り付けます。

▶ 電池ケース③を本体の溝に合わせ、押し込んでロックします。

▶ エマージェンシーキー①をキーに収納します。

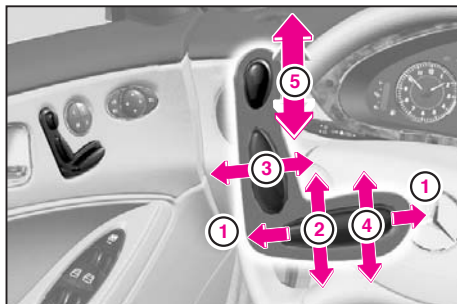
知 識

- リチウム電池（CR2025）を2個使用しています。
- 電池を交換するときは2個同時に交換してください。
- 電池の表面に、汚れや脂分などが付着していないことを確認してください。

環 境

環境保護のため、使用済みの電池を廃棄するときは、新しい電池をお買い求めになった販売店で処分を依頼してください。

フロントシート

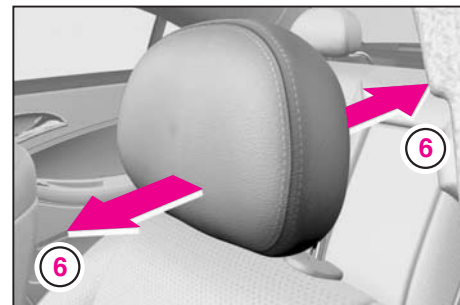
シートの調整

左側フロントドアのスイッチ

警　告

運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

シートを調整する

▶ シート調整スイッチを矢印①～⑤の方向に動かして調整します。

矢印の方向	調整内容
①	シートの前後位置 ヘッドレストの高さも連動して上下します。
②	シートの高さ
③	バックレストの角度
④	シートクッションの角度
⑤	ヘッドレストの高さ ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整します。 シートの前後位置に連動してヘッドレストが上下します。

⑥ ヘッドレストの前後位置調整

ヘッドレストの前後位置を調整する

▶ ヘッドレストを持って矢印⑥の方向に動かします。

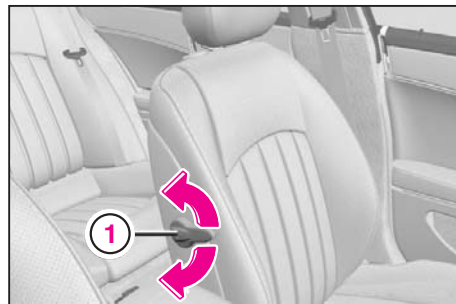
ヘッドレストが後頭部に接するように調整します。

注　意　！

- シートの調整をするときは他の乗員の身体や物などが挟まれないように注意してください。
- シートの前後位置を調整したときは、ヘッドレストの中央が目の高さになっていることを確認してください。必要に応じてヘッドレストの高さを調整してください。
- 誤ってドアのシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

知　識

フロントシートのヘッドレストを取り外すことはできません。

ランバーサポート＊

① 調整レバー

腰部のサポートを調整できます。

サポートを増加させる

▶ 調整レバー①を下方に操作します。

サポートを減少させる

▶ 調整レバー①を上方に操作します。

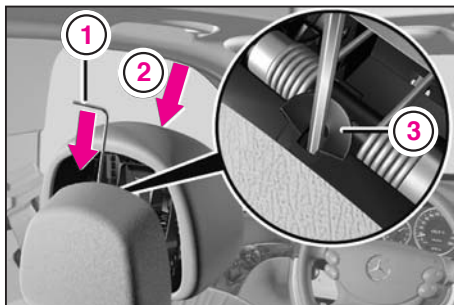
NECK PROアクティブヘッドレスト

NECK PROアクティブヘッドレストは、追突など後方からの衝撃を受けたときに、フロントシートのヘッドレストが前方に動くことにより、乗員の頭部をより効果的に支持します。

衝撃の大きさや衝撃を受けた方向によっては、NECK PROアクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

警　告

フロントシートには市販のシートカバーを使用しないでください。NECK PROアクティブヘッドレストの作動が妨げられるおそれがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

① リセットツール
② ヘッドレストを押す方向
③ ガイド

作動したNECK PROアクティブヘッドレストをリセットする

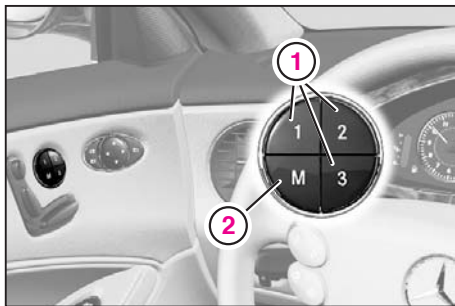
事故などのときにNECK PROアクティブヘッドレストが作動した場合、リセットをしないと次に衝撃を受けたときにNECK PROアクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頸部を保護することができません。

このリセット作業は、指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

- ▶ ガイド③に合わせて、車載のリセットツール①を差し込みます。
- ▶ ロックする音が聞こえるまで、リセットツールを押し込みます。
- ▶ リセットツールを抜き、ヘッドレストを②の方向に強く押し戻して確実にロックさせます。

注　意　！

安全のため、追突など後方からの衝撃を受けたときは、NECK PROアクティブヘッドレストの点検を受けてください。

シート位置のメモリー機能

左側フロントドアのスイッチ
① ポジションスイッチ
② メモリースイッチ

警　告

運転席のシート位置の記憶 / 呼び出しは、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、事故を起こすおそれがあります。

シート位置を記憶させる

▶ 正しいシート位置に調整します。

運転席では、さらにステアリングの位置、ドアミラーの角度を調整します。

ドアミラーの角度を調整するときは、エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしてください。

▶ メモリースイッチ②を押します。

▶ 3秒以内にポジションスイッチ①の1～3のいずれかを押します。

確認音が鳴り、そのポジションスイッチにシート位置が記憶されます。

他のポジションスイッチにも同様の方法でシート位置などを記憶させることができます。

記憶させたシート位置を呼び出す

▶ 呼び出したいポジションスイッチ①の1～3のいずれかを押し続けます。

シートなどが動きはじめ、記憶させた位置になると停止します。

注　意 ！

バックレストを大きく後方に傾けた位置にしているときは、記憶位置を呼び出す前に、バックレストを起こしてください。

知　識

安全のため、ポジションスイッチから手を放すと、シートの動きが停止します。

シートヒーター

① シートヒータースイッチ
② 表示灯

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに使用できます。

シートヒーターを使用する

▶ シートヒータースイッチ①を押します。

シートヒータースイッチを押すごとに点灯する表示灯②の数が変わり、シートヒーターの作動内容が切り替わります。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ①を押して、表示灯②を消灯させます。

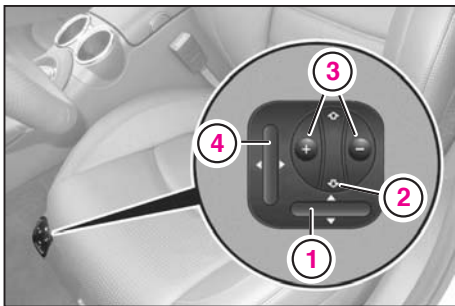
点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートヒーターが強で作動します。 約５分後に自動的に中に切り替わります。
2	シートヒーターが中で作動します。 約10分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約20分後に自動的に停止します。
0	停止しています。

注　意　！

- コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用しないでください。また、シートヒーターを連続して使用しないでください。異常過熱により低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こしたり、シートヒーターが故障するおそれがあります。
- 以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。
  ◇ 乳幼児、お年寄り、病人、身体が不自由な方
  ◇ 皮膚の弱い方
  ◇ 疲労の激しい方
  ◇ 眠気をさそう薬を服用された方
  ◇ 飲酒した方
- シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

知　識

多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。このときはスイッチの表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的に作動し、表示灯が点灯します。

マルチコントロールシートバック＊

① シートクッション前部のサポート調整
② ランバーサポートの位置の調整
③ ランバーサポートの強さの調整
④ バックレスト横方向のサポート調整

シートのサポートを調整できます。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに調整できます。

スイッチはシート下部にあります。

シートクッション前部のサポートを調整する

▶ スイッチ①を上下に操作します。

ランバーサポートを調整する

腰部のサポートを調整できます。

▶ スイッチ②を押して、サポートの位置を調整します。

▶ スイッチ③を押して、サポートの強さを調整します。

バックレスト横方向のサポートを調整する

▶ スイッチ④を左右に操作します。

知　識

スイッチを操作しても調整できないときは、エアタンクの圧力が低下しています。エンジンを始動してから再度調整してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

リアシート

ヘッドレストの格納

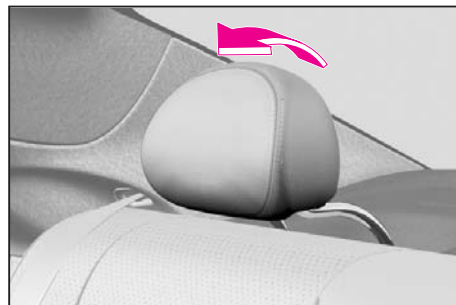
① ヘッドレスト格納スイッチ

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに操作できます。

ヘッドレストを格納する

▶ ヘッドレスト格納スイッチ①を押します。

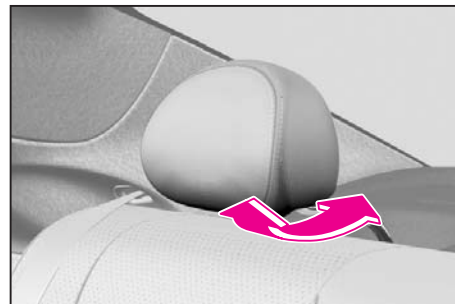
知　識

空気圧によりヘッドレストを格納するため、左右のヘッドレストは同時に格納されないことがあります。

ヘッドレストを起こす

▶ ヘッドレストを手で引き起こしてロックさせます。

警　告

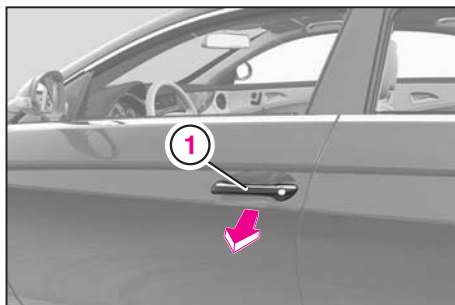
乗車するときは、必ずヘッドレストを起こしてください。衝突時に重大なけがをするおそれがあります。

ヘッドレストの角度調整

ヘッドレストの角度を調整する

▶ ヘッドレストの下側を押して / 引いて調整します。

ヘッドレストが後頭部に接するように調整します。

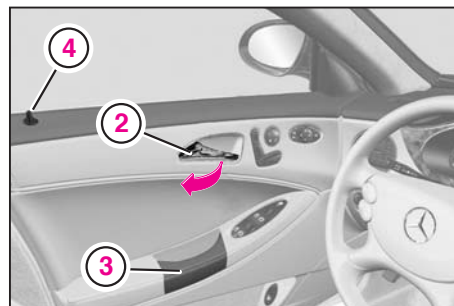
ドア

ドアの開閉

① ドアハンドル

車外から開く

▶ ドアハンドル①を引きます。

車外から閉じる

▶ ドアハンドル①を持って確実に閉じます。

② ドアレバー
③ インナーグリップ
④ ロックノブ

車内から開く

▶ ドアレバー②を矢印の方向に引きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ④が上がり、解錠されます。

車内から閉じる

▶ インナーグリップ③を持って確実に閉じます。

警　告

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。

注　意　！

- 車から離れるときは、エンジンを停止して、必ずドアを施錠してください。
- ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- チャイルドプルーフロック（**3-29**）を設定しているときは、車内のドアレバーを引いてリアドアを開くことはできません。

知　識

- ドアウインドウが全閉のとき、ドアを開くとドアウインドウが少し下降し、閉じると上昇します。
- 助手席のドアとリアドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。
- ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます（**10-8**）。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。

イージーエントリー

運転席への乗り降りを容易にするため、次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- エンジンスイッチが**0**か**1**の位置のときに運転席ドアを開く

ステアリングは、次のいずれかの操作をすると、元の位置に戻ります。

- 運転席ドアが閉じている状態で、エンジンスイッチにキーを差す
- エンジンスイッチが**0**の位置のときは、運転席ドアを閉じてから**1**か**2**の位置にする
- エンジンスイッチが**1**の位置のときは、運転席ドアを閉じて、**2**の位置にする

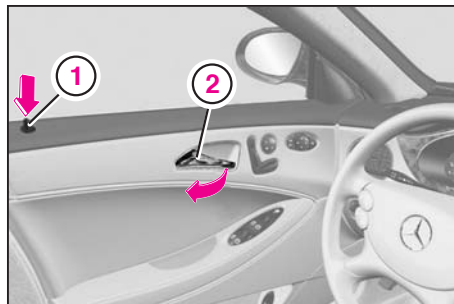
この機能の設定と解除については（**4-44**）をご覧ください。

注　意　!

- 子供だけを残して車から離れないでください。誤ってエンジンスイッチからキーを抜いたり、運転席ドアを開くとイージーエントリーが作動し、けがをするおそれがあります。
- イージーエントリーの作動中に身体や物が挟まれないように注意してください。

知　識

- イージーエントリーの作動を停止するときは、ステアリング調整レバーか運転席ドアのシートポジションスイッチを操作してください。
- ステアリングの位置によっては、ステアリングが上方に移動しないことがあります。

ドアごとに解錠 / 施錠する

① ロックノブ
② ドアレバー

解錠する

▶ ドアレバー②を矢印の方向に引きます。

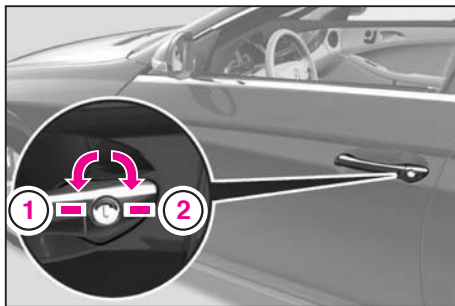
このときドアも開きます。

施錠する

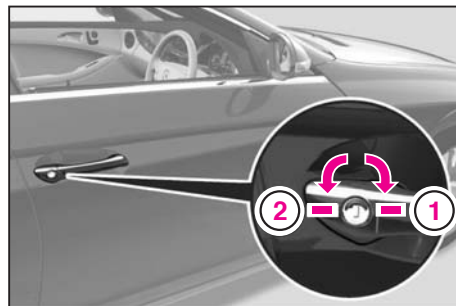
▶ ロックノブ①を押し込みます。

注　意　!

- 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。
- ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

エマージェンシーキーでの運転席ドアの解錠 / 施錠

左ハンドル車
① 解錠位置
② 施錠位置

右ハンドル車
① 解錠位置
② 施錠位置

リモコン操作ができないときは、運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込み、解錠 / 施錠することができます。

エマージェンシーキーでの運転席ドアの解錠

▶ エマージェンシーキー（3-10）を運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

▶ 解錠位置①にまわします。

ロックノブが上がり、運転席ドアが解錠されます。

注　意　！

- リモコン操作で施錠した後に、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、盗難防止警報が作動します。警報を停止するには、キーをエンジンスイッチに差し込むか、キーの解錠ボタンか施錠ボタンを押します。
- エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠しても、他のドア、トランク、燃料給油フラップは解錠 / 施錠されません。

知　識

助手席ドアのドアハンドルにはキーシリンダーはありません。

非常時の車の施錠

▶ 助手席ドア、リアドア、トランクを閉じます。

▶ 運転席ドアを開きます。

▶ ドアロックスイッチ **(3-28)** の下側を押して施錠します。

ドアロックスイッチが作動しないときは、助手席ドアとリアドアのロックノブを押し込みます。

▶ 車を降りて運転席ドアを閉じます。

▶ エマージェンシーキーを運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

▶ 施錠位置②にまわします。

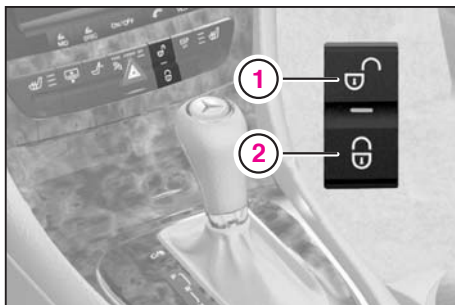
ロックノブが下がり、車が施錠されます。

▶ トランクが施錠されていることを確認します。

施錠されていないときは、トランクを独立施錠 **(3-33)** します。

ドアロックスイッチ

① 解錠
② 施錠

※ 車種や仕様により、ドアロックスイッチの解錠位置と施錠位置が逆の場合があります。

車内から、すべてのドアとトランクをスイッチ操作で解錠 / 施錠することができます。

解錠する

▶ スイッチの上側①を押します。

施錠する

▶ スイッチの下側②を押します。

運転席ドアが開いているときは、運転席ドア以外のドアとトランクが解錠 / 施錠されます。

次のような場合はドアロックスイッチで解錠 / 施錠できません。

- リモコン操作で施錠しているとき
- 助手席ドアが開いているとき

注 意 !

ドアロックスイッチで施錠してドアのロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供が乗車しているときは特に注意してください。

知 識

- チャイルドプルーフロック（3-29）を設定しているときは、ドアロックスイッチで解錠しても、車内のドアレバーを引いてリアドアを開くことはできません。
- ドアロックスイッチで施錠しているとき、車内のドアレバーを引いてフロントドアを開くと、他のドア、トランクも解錠されます。
- ドアロックスイッチで施錠しても、燃料給油フラップは施錠されません。
- トランクが独立施錠（3-33）されているときは、ドアロックスイッチで解錠しても、トランクは解錠されません。

車速感応ドアロック

走行速度が約15km/h以上になると、ドアとトランクを自動的に施錠します。

この機能の設定と解除については（4-42）をご覧ください。

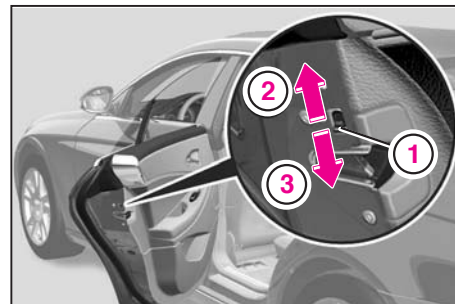
注　意　！

- 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときやシャシーダイナモに載せるときは、エンジンスイッチを0の位置にしてください。

  車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアまたはトランクを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

知　識

車速感応ドアロックにより施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動すると自動的に解錠されます。

チャイルドプルーフロック（リアドア）

① チャイルドプルーフロックレバー
② 設定側
③ 解除側

車内のドアレバーを引いてもリアドアが開かなくなります。

チャイルドプルーフロックを設定する

▶ チャイルドプルーフロックレバー①を設定側②（上）にします。

車内のドアレバーを引いて、ドアが開かないことを確認してください。

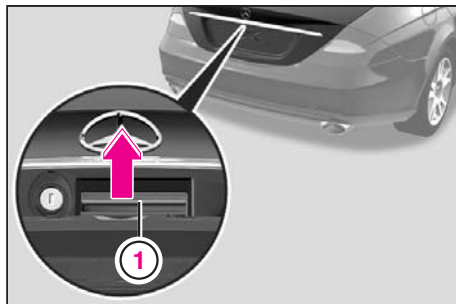
チャイルドプルーフロックを解除する

▶ チャイルドプルーフロックレバー①を解除側③（下）にします。

トランク

警　告

エンジンをかけた状態でトランクを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

車外から開閉する

① ハンドル

トランクを開く

▶ ハンドル①を手前に引きます。

トランクが自動で開きます。

または

▶ トランクが開き始めるまで、キーのトランクオープナーボタン（3-6）を押します。

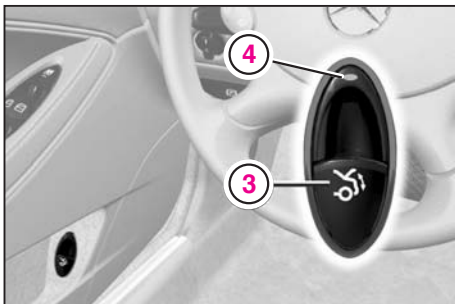
トランクが自動で開きます。

② トランククローザースイッチ

トランクを閉じる

▶ トランククローザースイッチ②を押します。

トランクが自動で閉じます。

車内から開閉する

左ハンドル車
③ トランクスイッチ
④ 表示灯

トランクスイッチ③は運転席ドアにあります。

トランクを開く

▶ トランクが開き始めるまで、トランクスイッチ③を引きます。

トランクが自動で開きます。

トランクを閉じる

▶ トランクスイッチ③を押し続けます。

押している間、トランクが閉じます。

スイッチから手を放すと、その位置で停止します。

注 意 !

- トランクを開くときは、トランクの周りに障害物がなく、人や物に当たるおそれがないことを確認してください。
- トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。
- 強風のときにトランクを開くと、風にあおられて、トランクが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

  また、トランクに雪が積もっているときも同様に注意してください。
- トランクスイッチは、安全のため、必ず完全に停車した状態で操作してください。
- トランクを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

トランク

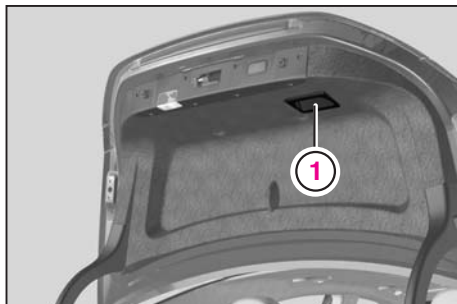
- トランククローザースイッチでトランクを閉じているときに、身体や物が挟まれそうになったときは、ただちに以下のいずれかの操作を行なってください。トランクの作動が停止します。
  - ◇ トランクのハンドル①を引く
  - ◇ トランクのトランククローザースイッチ②を押す
  - ◇ 運転席ドアのトランクスイッチ③を操作する

  また、キーのトランクオープナーボタンを押すと、閉じているトランクが開きます。
- トランクスイッチでトランクを閉じているときに、身体や物が挟まれそうになったときは、ただちにトランクスイッチから手を放してください。トランクの動きが停止します。
- トランクを閉じたときは、確実に閉じていることを確認してください。
- トランクに乗車しないでください。事故などのとき、けがをするおそれがあります。
- 子供などがトランクに閉じ込められないように注意してください。
- トランクが開いているときにリモコン操作で施錠し、トランクを閉じるとトランクは施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

知 識

- 走行中は、トランクスイッチでトランクを開くことはできません。
- トランクが開いているときは、運転席ドアのトランクスイッチの表示灯④が点灯します。

  トランクを閉じると、表示灯は消灯します。
- トランクが自動で開いているときに、トランククローザースイッチまたはキーのトランクオープナーボタンを押すか、トランクのハンドルを引く、または運転席ドアのトランクスイッチを操作すると、トランクの動きが停止します。
- トランクが自動で開いているときに障害物などとの接触を感知すると、トランクはその位置で停止します。
- トランククローザースイッチやトランクスイッチでトランクを閉じているときに、身体や物などがトランクに接触したときは、トランクの動きが停止し、自動で少し開きます。
- トランクが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

トランクが自動で閉じないとき

① 凹部

トランクが自動で閉じているときに身体や物と接触したときやトランクの開閉操作を繰り返し行なったときなどは、一定時間、トランククローザースイッチやトランクスイッチでトランクが操作できなくなる場合があります。

このときは、トランクを手動で閉じます。

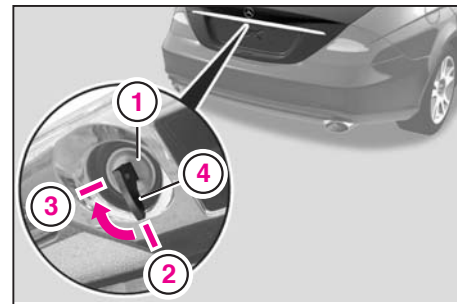
トランクを手動で閉じる

▶ 凹部①に手をかけてトランクを引き下げてから押さえます。

トランクが閉じなかったときは、少し強めに押さえます。

注 意 !

- トランクを閉じるときは、身体や物が挟まれないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- トランクを閉じたときは、確実に閉じていることを確認してください。

トランクの独立施錠

① キーシリンダー
② リモコン連動位置
③ 独立施錠位置
④ キーの凸部

リモコン操作での車の解錠 / 施錠に関わらず、トランクを独立して施錠することができます。

トランクを独立施錠しているときは、トランクスイッチやキーのトランクオープナーボタンでトランクを操作することはできません。

トランクを独立施錠する

▶ トランクを閉じます。

▶ トランクのキーシリンダー①にエマージェンシーキー（3-10）を差し込みます。

このとき、キーの凸部④を車体側に向けて差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを独立施錠位置③にまわします。

▶ キーシリンダー①からエマージェンシーキーを抜きます。

注　意　！

トランクを開いた状態でも、上記の操作を行なってトランクを閉じると独立施錠されます。このときは、エマージェンシーキーの閉じ込みに注意してください。

知　識

駐車場などでキーを預ける場合に、この機能を使用してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外して携帯してください。

独立施錠を解除する

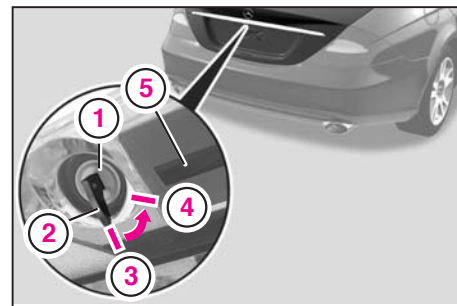
▶ トランクのキーシリンダー①にエマージェンシーキー（3-10）を差し込みます。

このとき、キーの凸部④を左側に向けて差し込みます。

▶ エマージェンシーキーをリモコン連動位置②にまわします。

▶ キーシリンダー①からエマージェンシーキーを抜きます。

リモコン操作での解錠 / 施錠に連動して、トランクが解錠 / 施錠します。

エマージェンシーキーでのトランクの解錠

① キーシリンダー
② キーの凸部
③ 差し込む / 抜く位置
④ 解錠位置
⑤ ハンドル

リモコン操作でトランクを開いたり、解錠できないときはエマージェンシーキー（3-10）で解錠します。

エマージェンシーキーでトランクを解錠する

▶ トランクのキーシリンダー①にエマージェンシーキーを差し込みます。

このとき、キーの凸部②を車体側に向けて差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを解錠位置④にまわします。

▶ ハンドル⑤を引いてトランクを開きます。

▶ エマージェンシーキーを④の位置から③の位置に戻します。

▶ キーシリンダー①からエマージェンシーキーを抜きます。

注　意　！

- リモコン操作で施錠した後に、エマージェンシーキーでトランクを解錠して開くと、盗難防止警報が作動します。警報を停止するには、キーをエンジンスイッチに差し込むか、キーの解錠ボタンか施錠ボタンを押します。
- エマージェンシーキーで解錠した後に、エマージェンシーキーをキーシリンダーから抜いてトランクを閉じると再び施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

知　識

エマージェンシーキーでトランクを解錠しても、ドアと燃料給油フラップは解錠されません。

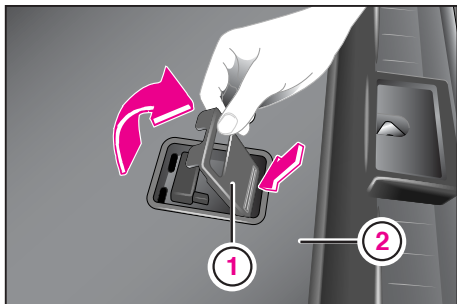
トランクランプ＊

トランクルーム内の手前左側とトランクリッド内側にトランクランプがあります。

トランクを開くと点灯し、閉じると消灯します。

知　識

トランクを開いたままでもトランクランプは約10分後に消灯します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

トランクフロアボード

① ハンドル
② トランクフロアボード

トランクフロアボードの下にはラゲッジトレイ＊や車載工具、応急用スペアタイヤなどが収納されています。

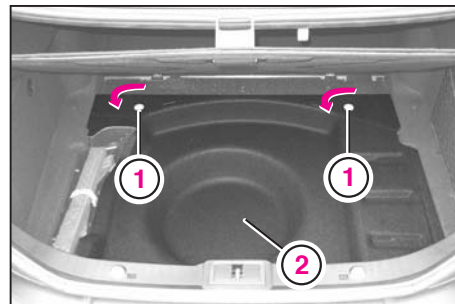
トランクフロアボードを開く

▶ ハンドル①を起こし、トランクフロアボード②を引き上げます。

▶ トランクフロアボード②を支えながら、ハンドル①をリアウインドウ下側のトランクの縁にかけます。

注 意 ！

トランクフロアボードのハンドル①をリアウインドウ下側のトランクの縁にかけたままトランクを閉じないでください。ハンドルを損傷します。

ラゲッジトレイ＊

① 固定キャップ
② ラゲッジトレイ

トランクフロアボード下のラゲッジトレイには、小物を収納できます。

ラゲッジトレイを取り外す

▶ 固定キャップ①をドライバーやエマージェンシーキーなどで反時計回りにまわして外します。

▶ ラゲッジトレイ②を引き上げながら前方にずらし、取り外します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

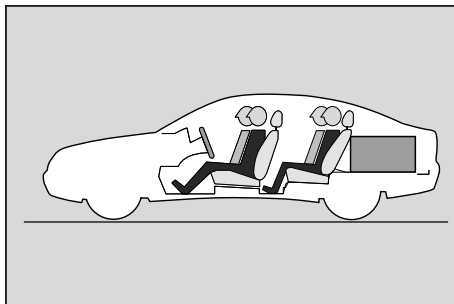
注　意！

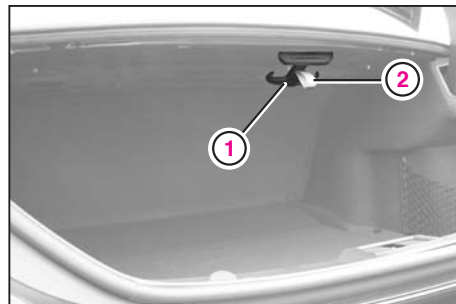
ラゲッジトレイには重量の軽い物（約20kg以下）だけを収納してください。ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。

知　識

ラゲッジトレイの下には応急用スペアタイヤや電気装備用のバッテリーが収納されています。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

トランクに荷物を積むとき

荷物の積みかたは車の走行安定性に大きく影響します。荷物はできるだけトランクに積み、以下の点に注意してください。

- 重い物は車の中心近く（トランクルームの前方）に積み、確実に固定してください。確実に固定していないと、急ブレーキ時などに荷物が動き、トランクルーム内部を損傷するおそれがあります。
- 荷物が偏らないように均等に積んでください。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。

トランクフック＊

① フック
② ストラップ

トランクルームの上部に、バッグなどをかけるフックがあります。

トランクフックを使用する

▶ ストラップ②を引いて、フック①を下げます。

注　意！

重い物や割れやすい物、鋭利な物などをフックにかけないでください。

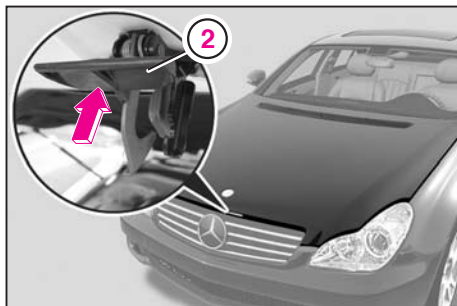
ボンネット

警　告

- ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。
- 走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。
- エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが2の位置のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。
- エンジンスイッチからキーを抜いていても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

ボンネットを開く

左ハンドル車
① ボンネットロック解除レバー

▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー①を引きます。

② ロック解除ノブ

▶ ボンネットの裏側にあるロック解除ノブ②を矢印の方向に押しながらボンネットを開きます。

注　意！

- ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。
- 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられて、ボンネットが不意に下がるおそれがあります。風の強い日には十分に注意してください。

  また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

ボンネットを閉じる

▶ ボンネットを引き下げ、グリル上部から約20cm〜30cmの位置で手を放して閉じます。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

警　告

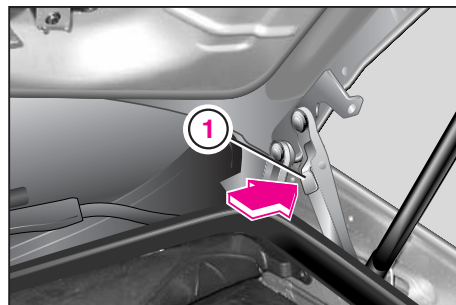
走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

注　意　！

- エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変形するおそれがあります。
- ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。

知　識

ボンネットが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

ボンネットを垂直に開く

① ロック解除レバー

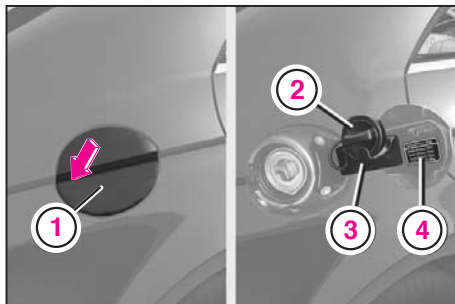
垂直位置まで開く

▶ ボンネットを手で少し下げながら、向かって右側のヒンジにあるロック解除レバー①を矢印の方向に押してロックを解除します。

▶ ボンネットを垂直の位置に起こします。

垂直位置から閉じる

▶ ボンネットを少し押し上げながら、向かって右側のヒンジにあるロック解除レバーを押して、ロックを解除し、ボンネットを閉じます。

燃料給油口

① 燃料給油フラップ
② キャップ
③ ホルダー
④ タイヤ空気圧ラベル

燃料給油フラップを開く

▶ 燃料給油フラップ①の矢印の部分を押します。

キャップを外す

▶ キャップ②を反時計回りに少しゆるめてタンク内の圧力を抜きます。

圧力が抜けたら、さらに反時計回りにまわして外します。

外したキャップ②を燃料給油フラップの裏側にあるホルダー③に差し込みます。

キャップを取り付ける

▶ キャップ②を燃料給油口に合わせ、時計回りにいっぱいまでまわします。

燃料給油フラップを閉じる

▶ 燃料給油フラップ①を押します。

警　告

- エンジンをかけたまま給油しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- 周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決してたばこや火気を近付けないでください。火災が発生するおそれがあります。
- 燃料を肌に付着させたり、気化した燃料を吸い込まないようにしてください。健康を害するおそれがあります。

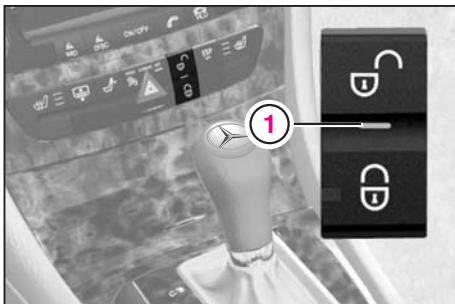
注　意 ！

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。
- 軽油を給油したり、燃料に混ぜないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。
- 給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。燃料を入れすぎると、燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり、停止するおそれがあります。
- 燃料をこぼさないように注意してください。

  燃料が車の塗装面に付着したときは、すぐに拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 燃料給油口が開かない場合は、指定サービス工場に連絡してください。

知　識

- 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベル④が貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（8-17）をご覧ください。
- リモコン操作での解錠 / 施錠に連動して、燃料給油フラップも解錠 / 施錠されます。

盗難防止警報システム

① 表示灯

盗難防止警報システムが待機状態のときに、ドア、トランクが開けられたりボンネットのロックが解除されると警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作で施錠します。

ドアロックスイッチの表示灯①が点滅し、約10秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯①が点滅を続けます。

システムの待機状態を解除する

▶ リモコン操作で解錠します。

表示灯①が消灯します。

注 意 !

- システムを待機状態にするときはボンネットが確実に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態では、システムを待機状態にしてボンネットが開けられても警報は作動しません。
- システムが待機状態のときに車内のレバーを引いてドアを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。
- システムを待機状態にしても、表示灯①が点滅しない場合は、システムが故障しています。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

盗難防止警報システム

警報の作動

システムが待機状態のとき、以下のような状況を感知すると警報が作動します。

- ドアが開けられたとき
- トランクが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき

警報が作動すると、ホーンが約30秒間鳴り、非常点滅灯が通常の約2倍の速さで約5分間点滅します。また、ルームランプとフロントの読書灯も約5分間点灯します。

バッテリーの接続が絶たれたときも、警報が作動します。

知　識

リモコン操作で施錠した後、エマージェンシーキーで運転席ドアやトランクを解錠して開くと、警報が作動します。

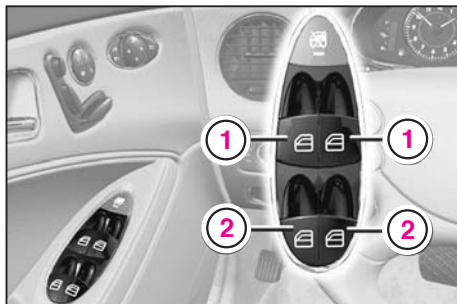
警報が作動したときの解除方法

▶ キーの解錠ボタンか施錠ボタンを押すか、エンジンスイッチにキーを差し込みます。

知　識

ドアやトランクが開けられたり、ボンネットのロックが解除されて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は解除されません。

パワーウインドウ

ドアウインドウの開閉

運転席ドアのスイッチ（左ハンドル車）
① フロントドアウインドウスイッチ
② リアドアウインドウスイッチ

パワーウインドウスイッチは各ドアにあります。

運転席ドアには、すべてのドアウインドウのスイッチがあります。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに、ドアウインドウを開閉できます。

ドアウインドウを開く

▶ スイッチを軽く押します。

押している間だけ開きます。

スイッチをいっぱいまで押すと、自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチを軽く引きます。

引いている間だけ閉じます。

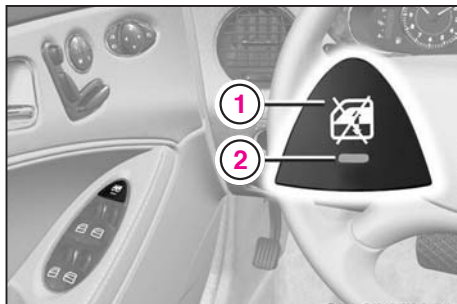
スイッチをいっぱいまで引くと、自動で閉じます。

知　識

- ドアウインドウは車外からリモコン操作で開閉できます（**3-11**）。
- ドアウインドウが自動で開閉しているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。
- エンジンスイッチを**0**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約5分間は、ドアウインドウを開閉できます。5分以内にフロントドアを開くと、ドアウインドウの開閉はできなくなります。
- ドアウインドウには挟み込み防止機能があります。ドアウインドウが自動で閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウがただちに停止し、その位置から少し下降します。
- 運転席側のフロントドアウインドウは、挟み込み防止機能が作動してから約5秒以内に再度閉じたときは、挟み込みを感知しません。
- PRE-SAFE（**2-10**）が作動したときは、ドアウインドウがわずかに開いた状態まで自動的に閉じます。
- 運転席ドアのスイッチで他のドアウインドウを開閉しているときは、助手席ドアやリアドアのスイッチで開閉中のドアウインドウを操作することはできません。

注　意　！

- ドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームのすき間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。
- ドアウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにスイッチを押して、ドアウインドウを開いてください。
- 子供が後席に乗車するときは、セーフティスイッチを設定してください（**3-47**）。
- 挟み込み防止機能には挟み込みを感知しない範囲があります。ドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。

セーフティスイッチ

左ハンドル車
① セーフティスイッチ
② 表示灯

リアドアのスイッチによるリアドアウインドウの操作ができなくなります。

子供が後席に乗車するときに使用してください。

セーフティスイッチを設定する

▶ セーフティスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

リアドアのスイッチからはリアドアウインドウが操作できなくなります。

セーフティスイッチを解除する

▶ 再度、セーフティスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

知　識

セーフティスイッチの表示灯の点灯 / 消灯にかかわらず、運転席ドアのスイッチではリアドアウインドウを操作できます。

ドアウインドウが自動で開閉しないとき

バッテリーあがりやバッテリーの交換などで、一時的に電源が断たれたときは、ドアウインドウが自動で開閉できなくなることがあります。

このときは、ドアウインドウをリセットしてください。

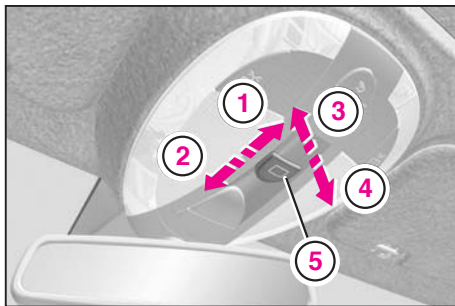
ドアウインドウをリセットする

▶ スイッチを軽く引いて全閉にします。

▶ スイッチを引いたまま約2秒以上保持します。

この操作を他のドアウインドウでも行なってください。再び、ドアウインドウが自動で開閉できるようになります。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

スライディングルーフ＊

① 開く
② 閉じる
③ チルトアップ
④ チルトダウン
⑤ スライディングルーフスイッチ

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに操作できます。

スライディングルーフを開閉する

スライディングルーフを開く

▶ スライディングルーフスイッチを①の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

スライディングルーフスイッチを①の方向にいっぱいまで操作すると、自動で開きます。

スライディングルーフを閉じる

▶ スライディングルーフスイッチを②または④の方向に軽く操作します。

操作している間だけ閉じます。

スライディングルーフスイッチを②または④の方向にいっぱいまで操作すると、自動で閉じます。

スライディングルーフをチルトアップ / チルトダウンする

スライディングルーフをチルトアップする

▶ スライディングルーフスイッチを③の方向に軽く押します。

押している間だけチルトアップします。

スライディングルーフスイッチを③の方向にいっぱいまで押すと、自動でチルトアップします。

スライディングルーフをチルトダウンする

▶ スライディングルーフスイッチを②または④の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトダウンします。

スライディングルーフスイッチを②または④の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトダウンします。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

知　識

- スライディングルーフは車外からリモコン操作で開閉することができます（3-11）。
- スライディングルーフが自動で作動しているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。
- スライディングルーフには挟み込み防止機能があります。スライディングルーフが自動で閉じているときやチルトダウンしているときに挟み込みなどの抵抗があると、スライディングルーフがただちに停止し、その位置から少し開きます。
- エンジンスイッチを0の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約5分間は、スライディングルーフを操作することができます。5分以内にフロントドアを開くと、スライディングルーフの操作はできなくなります。
- スライディングルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、スライディングルーフの開度を変えるかドアウインドウを少し開くと、解消することがあります。
- スライディングルーフが自動で開閉しないときは、スライディングルーフをリセットしてください（3-53）。
- PRE-SAFE（2-10）が作動したときは、スライディングルーフがわずかに開いた状態まで自動的に閉じます。
- スライディングルーフを開閉できないときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

スライディングルーフ

警　告

乗員全員がシートベルトを着用してください。車が横転したときなどにスライディングルーフの開口部から車外に放り出されて、致命的なけがをするおそれがあります。

また、スライディングルーフのガラスは事故などの際の衝撃で割れることがあります。スライディングルーフが閉じていても、シートベルトを着用していないと、車が横転したときなどに車外に放り出されて、致命的なけがをするおそれがあります。

注　意！

- 走行中はスライディングルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。
- スライディングルーフには挟み込み防止機能がありますが、スライディングルーフを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。特に子供には注意してください。
- スライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。
- 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。
- スライディングルーフの開口部から、物を出し入れしないでください。スライディングルーフのシール部を損傷するおそれがあります。
- 降雨後や降雪後にスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。
- スライディングルーフ上に雪や氷が付着した状態で操作しないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

自動チルトアップ機能

スライディングルーフを開いた状態で、エンジンスイッチを0の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下のときにスライディングルーフが自動で閉じ、チルトアップした状態で停止します。

- 降雨などによりレインセンサーが雨滴を感知したとき
- 外気温度が極端に高い、または低いとき
- バッテリーの電圧が低下したとき
- エンジンスイッチを0の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから、約12時間経過したとき

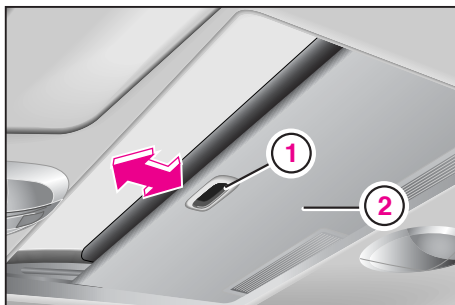
注　意　!

自動チルトアップ機能でスライディングルーフが閉じているときには挟み込み防止機能がありますが、スライディングルーフから身体や物などを出さないでください。

知　識

- 自動チルトアップ機能でスライディングルーフが閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、挟み込み防止機能が作動し、スライディングルーフがただちに停止して、その位置から少し開きます。自動チルトアップ機能は解除されます。
- 濡れたタオルなどでフロントウインドウを拭くと、スライディングルーフが閉じるおそれがあります。
- 自動チルトアップ機能は、エンジンスイッチが1か2の位置のときやスライディングルーフがチルトアップしているときは作動しません。
- エンジンスイッチを0の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約30秒間は、自動チルトアップ機能は作動しません。
- レインセンサーに雨滴がかからないときは、自動チルトアップ機能は作動しません。

スライディングルーフ

サンシェード

① グリップ
② サンシェード

サンシェードを開閉する

▶ グリップ①を持って開閉します。

スライディングルーフを開くと、連動して開きます。

注 意 ！

サンシェードが開いているときに、サンシェードとルーフ内張りの間に身体が挟まれないように注意してください。

知 識

スライディングルーフが開いているときは、サンシェードを閉じることはできません。

スライディングルーフのリセット

以下のときは、スライディングルーフが自動で全開しないことがあります。スライディングルーフのリセットを行なってください。

- バッテリーあがりやバッテリー交換などで電源が断たれたとき
- スライディングルーフがスムーズに作動しないとき
- スライディングルーフを修理したとき

スライディングルーフをリセットする

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ヒューズ一覧（**9-6**）を参照して、スライディングルーフに該当するヒューズを取り外します。

▶ 再度、上記のヒューズを差し込みます。

▶ エンジンスイッチを**2**の位置にします。

▶ スイッチを③の方向（**3-48**）に押して、スライディングルーフを完全にチルトアップし、そのまま約2秒以上保持します。

▶ スライディングルーフが自動で開閉することを確認します。

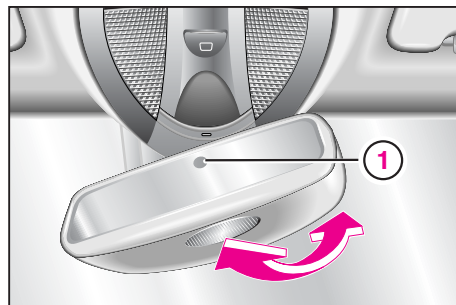
自動で開閉しないときは、再度リセット操作を行なってください。

スライディングルーフのリセットができないときなどは、指定サービス工場で作業を行なってください。

ルームミラー

警　告

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラーの調整

① センサー

ルームミラーを調整する

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

注　意！

ルームミラーには死角があります。車線変更をするときは、必ずドアミラーでも後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

自動防眩機能

周囲が暗く、エンジンスイッチが1か2の位置のとき、ルームミラーのセンサー①が後続車のライトを感知すると、自動的にルームミラーの色の濃度が変わり眩しさを防止します。

知　識

- ルームミラーのセンサーに後方からのライトが当たらないときは自動防眩機能が作動しないことがあります。
- セレクターレバーが R に入っているときやフロントルームランプが点灯しているときは自動防眩機能が解除されます。
- ルームミラーと連動して運転席側のドアミラーも防眩になります。

注　意　！

- ミラーのガラスが破損すると、液体が漏れ出すことがあります。この液体は物を腐食させる性質がありますので、皮膚や目に直接触れないよう注意してください。
- 万一、液体が目に入ったときや皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 液体が車の塗装面に付着したときは、ただちに水で湿らせた布などで拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- ミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用する場合は、必ず指定サービス工場にご相談ください。ガラスクリーナーによっては、ミラーが変色するおそれがあります。

- リアブラインド（6-24）を使用しているときなど、ルームミラーのセンサーに後続車のライトが当たらないときは、自動防眩機能が作動しないことがあります。十分注意して走行してください。

ドアミラー

ドアミラーの角度調整

左ハンドル車
① 左側ドアミラー選択ボタン
② 右側ドアミラー選択ボタン
③ 調整スイッチ

警　告

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

※右ハンドル車はスイッチ類の配列が異なります。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに調整できます。

ドアミラーの角度を調整する

▶ 調整する側のドアミラー選択ボタン①または②を押します。

▶ 調整スイッチ③を操作してドアミラーの角度を調整します。

注　意　！

- ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。ドアミラーで後方を確認するときは十分注意してください。
- ドアミラーには死角があります。車線変更をするときは、必ずルームミラーでも後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。
- ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。
- ミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用する場合は、必ず指定サービス工場にご相談ください。ガラスクリーナーによっては、ミラーが変色するおそれがあります。

知　識

- ドアミラーにはヒーターが装着されています。リアデフォッガー（**6-14**）を作動させたときや、外気温度が下がったときは自動的に温められ、凍結を防ぎます。
- ドアミラーの角度は、運転席シートやステアリングの位置と併せて記憶させることができます（**3-18**）。
- 運転席側ドアミラーはルームミラーに連動して防眩になります（**3-55**）。

ドアミラーの格納 / 展開

左ハンドル車
① 格納 / 展開スイッチ

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに操作することができます。

ドアミラーを格納する

▶ 格納 / 展開スイッチ①を押します。

ドアミラーを展開する

▶ 再度、格納 / 展開スイッチ①を押します。

注 意 !

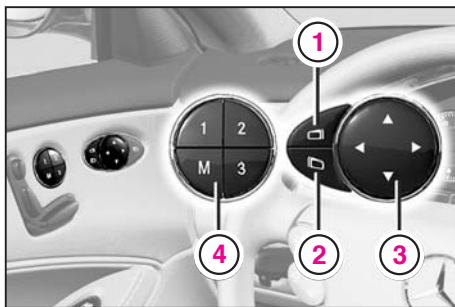
- ドアミラーは手で格納したり、展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。
- 走行するときはドアミラーを走行時の位置にしてください。
- ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。
- 走行時はドアミラーが完全に展開していることを確認してください。後方視界が確保できなくなるおそれがあります。

知 識

- リモコン操作で施錠するときにドアミラーも併せて格納できます。詳しくは（3-9）をご覧ください。
- 走行速度が約50km/h以上のときは、スイッチでドアミラーを格納することはできません。
- エンジンを停止して停車しているときに、歩行者などが当たりドアミラーがわずかに曲がった場合、次にエンジンを始動し、速度が約50km/h以上になると、ドアミラーが走行時の位置に戻ることがあります。

  完全に戻らないときは、格納 / 展開スイッチを押して戻してください。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、ドアミラーの作動などは予告なく変更されることがあります。

助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能

左ハンドル車
① 運転席側ドアミラー選択ボタン
② 助手席側ドアミラー選択ボタン
③ 調整スイッチ
④ メモリースイッチ

※ 右ハンドル車はスイッチ類の配列が異なります。

セレクターレバーを R に入れたときに、助手席側ドアミラーの角度があらかじめ記憶されていた角度になり、車両後方の視界を確保して、後退を容易にします。

エンジンスイッチが**2**の位置のときに作動します。

▶ 助手席側ドアミラー選択ボタン②を押します。

▶ セレクターレバーを R に入れます。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

知　識

運転席側ドアミラー選択ボタンが押されているときは、助手席側ドアミラーの角度は変わりません。

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の位置に戻ります。

- セレクターレバーを R から他の位置に入れて約10秒経過したとき
- 走行速度が約10km/h以上になったとき
- 運転席側ドアミラー選択ボタン①を押したとき

助手席側ドアミラーの角度の記憶

▶ エンジンスイッチを1か2の位置にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択ボタン②を押します。

▶ 調整スイッチ③で、後退時に自分が後方を確認しやすい角度にドアミラーを調整します。

▶ 運転席ドアのメモリースイッチ④を押し、約3秒以内に調整スイッチ③をいずれかの方向に押します（このときは助手席側ドアミラーは動きません）。

助手席側ドアミラーが動いたときは最初からやり直してください。

▶ 調整スイッチ③で、走行時の角度に助手席ドアミラーを調整します。

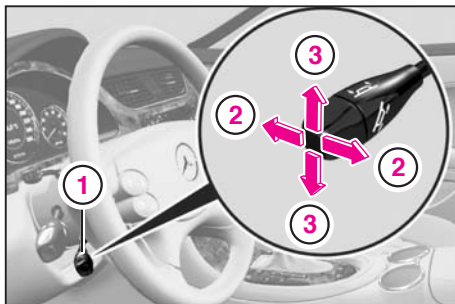
注　意　！

走行する前に、必ずドアミラーの角度を後方が十分確認できるように調整してください。

知　識

助手席側ドアミラーが記憶された角度になっているときに、助手席側ドアミラーの角度を調整すると、調整した角度が新たに記憶されます。

ステアリング

ステアリング位置の調整

① ステアリング調整レバー
② 前後位置の調整
③ 上下位置の調整

知　識

ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶（3-18）させることができます。

前後位置を調整する

▶ ステアリング調整レバー①を②の方向に操作します。

上下位置を調整する

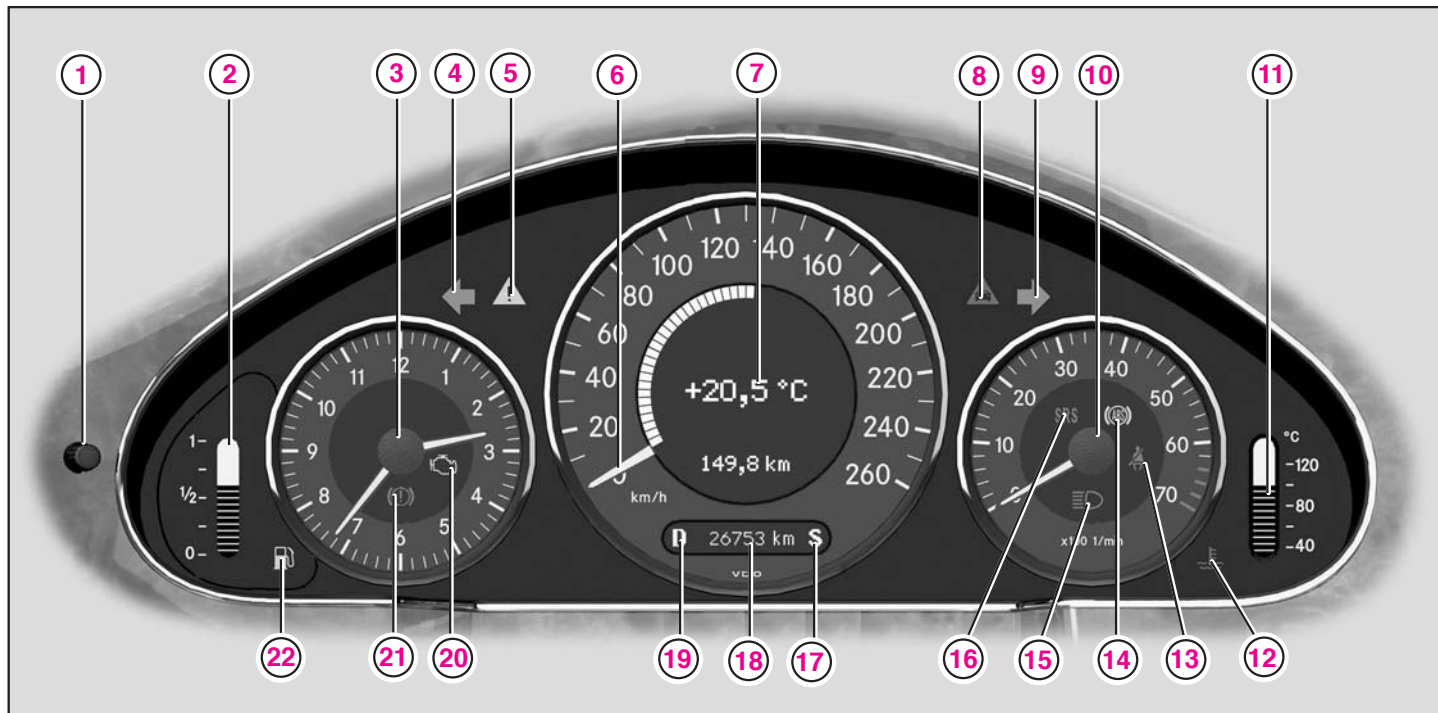
▶ ステアリング調整レバー①を③の方向に操作します。

注　意　！

- ステアリングをいっぱいにまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。
- 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

警　告

- ステアリング位置の調整は、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、事故を起こすおそれがあります。
- 子供だけを残して車から離れないでください。誤って調整レバーを操作すると、ステアリングが動き、けがをするおそれがあります。
- 運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
- ステアリングのパッド部にカバーをしたり、エアバッグの上にバッジ、ステッカー、オーディオのリモコンなどを貼付しないでください。エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

メーターパネル

CLS 350 / CLS 550

メーターパネル

① メーター照度調節ボタン / リセットボタン

メーター照度調節ボタン

メーターパネルが点灯しているときに明るさを調節できます。

ボタンを時計回りにまわすと明るくなり、反時計回りにまわすと暗くなります。

リセットボタン

トリップメーターや各種設定をリセットするときに使用します。

② 燃料計

燃料の残量をバーグラフで表示します。

燃料タンク容量は約80リットルです。

注　意　！

給油のときはエンジンを停止してください。

③ 時計

時刻は、マルチファンクションコントローラーの時刻と連動させたり、個別に調整することができます。

時刻を調整するときは（4-31）をご覧ください。

④⑨ 方向指示表示灯

方向指示灯や非常点滅灯を作動させたときに点滅します。

詳しくは（5-28、5-29）をご覧ください。

⑤ ESP表示灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

ESPの機能を解除したときに点灯します。

また、ABSまたはESPが作動したときに点滅します。

詳しくは（5-45）をご覧ください。

知　識

ESPの機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを感知すると、ESP表示灯が点滅しますがESPは作動しません。ただし、このときにブレーキを効かせると、ESPは自動的に作動します。

⑥ スピードメーター

車の走行速度をkm/hで表示します。

⑦ マルチファンクションディスプレイ

各種設定画面や故障 / 警告メッセージなどを表示します。

マルチファンクションディスプレイは以下のときに点灯します。

- 運転席ドアを開いたときや閉じたとき（約30秒後に消灯）
- リセットボタンを押したとき（約30秒後に消灯）
- エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしたとき（エンジンスイッチを**0**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから、約30秒後に消灯）
- 車外ランプを点灯させたとき

詳しくは **（4-1～）** をご覧ください。

⑧ ディストロニック＊ 車間距離警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

ディストロニック装備車は、先行車との車間距離が短くなると点灯します。

ディストロニック非装備車は、警告灯としての機能はありません。

詳しくは **（5-64）** をご覧ください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

⑩ タコメーター

1分間あたりのエンジン回転数を表示します。

⑪ 水温計

冷却水の温度をバーグラフで表示します。

知　識

- 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約120℃までオーバーヒートを起こしません。
- 暑い日の渋滞時や上り坂が続くときなどに、120℃付近を示すことがありますが、オーバーヒート警告が表示されない限り、問題ありません。
- 万一、オーバーヒートが起きたときは、警告灯が点灯します。

⑫ 冷却水量・冷却水温度警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジンがかかっているときに点灯したときは、冷却水量が減少しています。安全な場所に停車してエンジンを停止し、冷却水が冷えてから、冷却水量を点検してください。

警告灯が点灯し、警告音が鳴ったときは、冷却水温度が約120℃以上になり、オーバーヒートしています。ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して冷却してください。

詳しくは、オーバーヒートしたとき**（7-19）**をご覧ください。

⑬ シートベルト警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、数秒後に消灯します。

詳しくは **（2-9）** をご覧ください。

⑭ ABS警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときはABSに異常があります。通常のブレーキ時の制動力は確保されますが、ABS、BAS、ESPの機能は解除されます。

いつもより慎重に運転し、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは **（5-38）** をご覧ください。

注　意！

ABS警告灯が点灯したときはESP、BASも機能が解除されます。指定サービス工場で点検を受けてください。

⑮ ハイビーム表示灯

ヘッドランプを上向きで点灯させたときに点灯します。

⑯ エアバッグシステム警告灯 SRS

エンジンスイッチを1の位置にすると数秒間点灯します。また、2の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

点灯しないときは警告灯が故障しています。

点灯後 / エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときはエアバッグシステムやシートベルトテンショナー、助手席の乗員検知機能 / チャイルドセーフティシート検知システム＊の故障です。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは（2-12）をご覧ください。

⑰ 走行モード表示

オートマチックトランスミッションの走行モードを表示します（5-7）。

⑱ オドメーター

これまでに走行した距離の総合計を表示します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

⑲ シフト位置表示
ギアレンジ表示
ギア表示＊

オートマチックトランスミッションのシフト位置を表示します（5-6）。

また、ティップシフト（5-9）にしたときのギアレンジや、マニュアルギアシフト＊（5-12）にしたときのギアを表示します。

⑳ エンジン警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジンがかかっているときに点灯したときはエンジンの制御システムに異常があります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

- エンジン警告灯が点灯するとエンジンがエマージェンシーモードになることがあります。エマージェンシーモードではエンジンの回転数が制限され、アクセルペダルを踏んでもエンジンの回転が上昇しなくなります。この場合、低速で走行できることもありますが、ただちに安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。
- 燃料切れによりエンジン警告灯が点灯したときは、燃料を補給した後にエンジン始動を3～4回繰り返すと、エマージェンシーモードが解除されます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

㉑ ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

以下のようなときに点灯します。

- ブレーキ液の量が不足しているとき
- パーキングブレーキを解除していないとき

注 意 ！

- ブレーキ液の量が不足して点灯したときはブレーキシステムに漏れがあることが考えられます。安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。
- パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

㉒ 燃料残量警告灯

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときは燃料の残量が少なくなっています。

警告灯が点灯したときの残量は約8～9リットル（CLS 63 AMGは約14リットル）です。

知 識

- 走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。
- 車種や仕様により、燃料残量が少ないときは、マルチファンクションディスプレイに "ﾈﾝﾘｮｳﾘｻﾞｰﾌﾞ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示されることがあります。

ステアリングスイッチ

	名称
①	マルチファンクション ディスプレイ
②	設定スイッチ / 音量スイッチ ＋ − 各種設定の設定グループ選択画面でグループを選択したり、設定項目画面で機能のオン / オフを選択します。 各メイン画面とオーディオ画面表示中に操作すると、音量を調節できます。 CLS 63 AMGでは、レースタイマーが操作できます **(4-15)**。
③	通話開始 / 終了スイッチ(電話) 電話を受信 / 切断できます。
④	表示切り替えスイッチ メイン画面を選択します。
⑤	スクロールスイッチ 選択したメイン画面内のサブ画面を切り替えます。

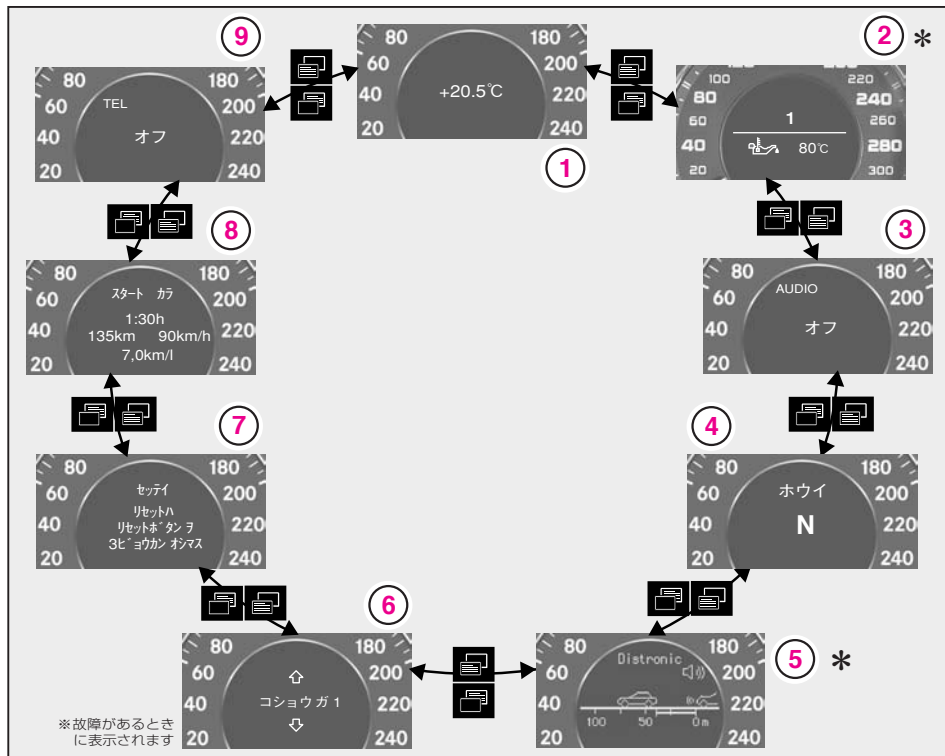
警　告

マルチファンクションディスプレイを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。

注　意 ！

走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながらスイッチを操作すると、事故を起こすおそれがあります。

※電話の操作については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

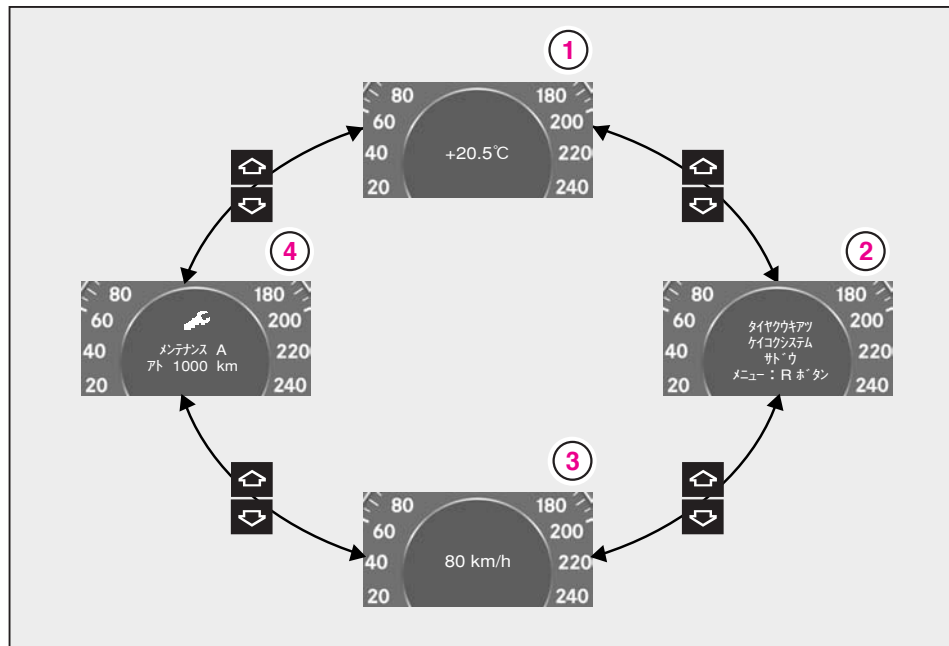
メイン画面一覧

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

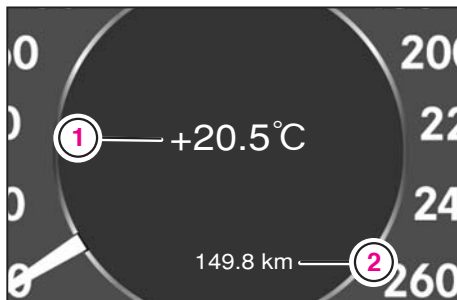
マルチファンクションディスプレイでは、車の情報や故障の表示および各種の設定ができます。

以下のように主要な機能が9種類あります。

①	車両情報	4-4
②	AMG表示＊	4-12
③	オーディオ	4-20
④	ナビゲーション・進行方向方位表示	4-21
⑤	ディストロニック＊	4-21
⑥	故障表示	4-22
⑦	各種設定	4-24
⑧	トリップコンピューター	4-46
⑨	電話	4-50

車両情報

①	車両情報メイン画面（外気温度表示 / 走行速度表示 / トリップメーター）	4-5
②	タイヤ空気圧警告システム画面	4-6
③	走行速度 / 外気温度表示画面	4-9
④	メンテナンスインジケーター画面	4-10

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両情報メイン画面（外気温度表示 / 走行速度表示、トリップメーター）

① 外気温度表示 / 走行速度表示
② トリップメーター

車両情報メイン画面を表示させる

▶ または を押して、車両情報メイン画面を表示させます。

外気温度表示 / 走行速度表示

車両情報メイン画面には、外気温度または走行速度が表示されます。

表示の切り替えは各種設定の "メータークラスタ" の "車両情報メイン画面の表示設定画面"（**4-29**）で行ないます。

トリップメーター

リセット後の走行距離を表示します。

トリップメーターをリセットする（0.0に戻す）

▶ リセットボタン（**3-62**）を、表示が0.0になるまで押し続けます。

警　告

外気温度表示が0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

注　意　！

外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

知　識

温度をフロントバンパー付近で測定しているため、温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

タイヤ空気圧警告システム画面

4輪すべてのタイヤの回転速度をモニターし、タイヤ空気圧が低下することにより他のタイヤとの回転速度に差が生じると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況のときは作動しません。

- カーブを曲がっているとき
- 加速または減速をしているとき
- 砂地や舗装されていない地面などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 積雪路や凍結路などを走行しているとき
- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- ルーフに荷物を積んでいたり、重い荷物を積んで走行しているとき

上記に該当しない条件で20km/h以上の速度で数分間走行した後、異常が検知されると警告が行なわれます。

警　告

- 空気の入れすぎなど、まちがったタイヤ空気圧の調整に対しては警告が行なわれません。燃料給油フラップの裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照して、必ず規定の空気圧に調整してください。
- タイヤ空気圧警告システムは、4本のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。
- 急激な空気圧低下（タイヤに異物が貫通した場合など）に対しては警告を行なうことができません。このときは、急ブレーキや急ハンドルを避け、しっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- ホイールやタイヤを交換したとき
- 新しいホイールやタイヤを装着したとき

▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップの裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベル（**8-17**）を参照して、すべてのタイヤが、適正な空気圧に調整されていることを確認してください。

警　告

タイヤ空気圧警告システムは、タイヤ空気圧が適正に調整されていないときは、正常に作動しません。

▶ エンジンスイッチを**2**の位置にします。

知　識

マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝ ﾃﾞ ｻﾄﾞｳ" と表示されたときは、エンジンスイッチを**2**の位置にしてください。

▶ またはを押して、車両情報メイン画面を表示させます（**4-5**）。

▶ またはを押して、タイヤ空気圧警告システム画面を表示させます。

"ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻﾄﾞｳ ﾒﾆｭｰ: R ﾎﾞﾀﾝ" と表示されます。

▶ リセットボタン(**3-62**)を押します。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

マルチファンクションディスプレイに"ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ?"と表示されます。

▶ ＋ を押して、"ﾊｲ"を反転表示にします。

マルチファンクションディスプレイに"ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ"と表示されます。

数秒後に、タイヤ空気圧警告システムが作動を始めます。

知　識

マルチファンクションディスプレイに"ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ?"と表示されてから、約15秒間何も操作をしないと、再起動は中断されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行速度 / 外気温度表示画面

① 走行速度 / 外気温度表示
② ディスプレイ下段の表示

走行速度 / 外気温度表示①は、走行速度または外気温度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の "メータークラスタ" の "車両情報メイン画面の表示設定画面"**(4-29)**で行ないます。

走行速度 / 外気温度表示画面を表示させる

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、車両情報メイン画面を表示させせます**(4-5)**。

▶ [▲]または[▼]を押して、走行速度 / 外気温度表示画面を表示させます。

ディスプレイ下段の表示②は、外気温度または走行速度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の "メータークラスタ" の "ディスプレイ下段の表示設定画面"**(4-29)**で行ないます。

知 識

- マルチファンクションディスプレイの走行速度の表示単位をkm/hまたはmphに切り替えることができます**(4-28)**。
- "ディスプレイ下段の表示設定画面"**(4-29)**の設定によっては、走行速度表示画面または外気温度表示画面を表示させたときに、ディスプレイ下段の表示②は表示されません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メンテナンスインジケーター画面

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備の約1カ月前になると、エンジンスイッチを**2**の位置にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。

画面は数秒後に表示前の画面に戻ります。

表示中に画面を戻すときは、リセットボタン（**3-62**）を押します。

メンテナンスインジケーター画面は、手動でも表示できます。

手動で表示させる

▶ エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にします。

▶ またはを押して、車両情報メイン画面を表示させます。

▶ またはを押して、メンテナンスインジケーター画面を表示させます。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。#にはAからHまでのアルファベットが入ります。

点検実施前の表示例

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX ﾆﾁ"

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX km"

点検実施時期になったときの表示例

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｦ ｳｹﾃｸﾀﾞｻｲ!"

実施時期を過ぎたときの表示例

実施時期を過ぎたときは、以下のようなメッセージが表示され、警告音が鳴ります。

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX ﾆﾁ ｺｴﾃｲﾏｽ"

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX km ｺｴﾃｲﾏｽ"

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

注 意 !

- メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。
- メーカー指定点検整備を指定の時期までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

知 識

- "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A" "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B" など、"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ" の後に表示されるAからHのアルファベットは、次回のメーカー指定点検の範囲が、点検項目の少ない点検整備から総合的な点検整備まで、どれに該当するかを示すものです。ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲は該当しません。
- "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A+" "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B+" など、AからHのアルファベットの後に[+]の表示があるときは、ブレーキ部品交換などの点検整備が含まれていることを示します。
- ブレーキパッドは次回のメンテナンス以前に摩耗の限界に達することがあります。ブレーキパッドの交換については、指定サービス工場で相談の上、以下のどちらかで対処してください。

  ◇今回のメーカー指定点検整備で交換する

  ◇後日に別途交換する
- メンテナンスインジケーターが自動的に表示される時期は、運転スタイルや走行距離などにより変わります。

  エンジン回転数を適度に保ち、短距離短時間の運転を避けると、次のメーカー指定点検整備の実施時期までの走行距離が伸びることがあります。
- バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備後に、指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

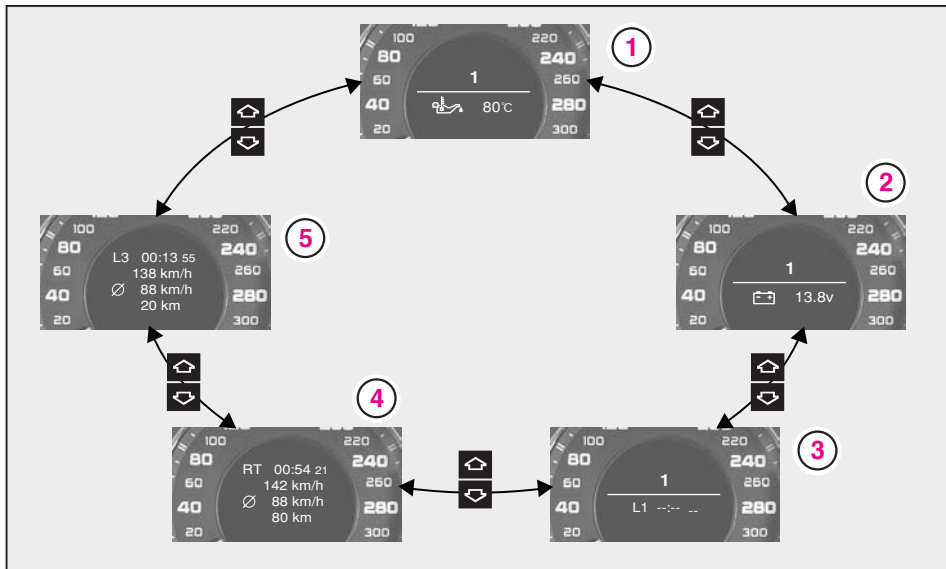
リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では15,000km、日数では365日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

注 意 !

メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

AMG表示

AMG表示＊

①	ギア表示・油温表示画面	4-13
②	ギア表示・電圧表示画面	4-14
③	ギア表示・レースタイマー画面	4-15
④	計測結果表示画面（全ラップ）	4-18
⑤	計測結果表示画面（ラップ別）	4-19

※ AMG表示は、CLS 63 AMGのみ表示されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ギア表示・油温表示画面

① ギア表示
② 油温表示

ギア表示・油温表示画面を表示させる

▶ または を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます。

ギア表示①は、オートマチックトランスミッションの実際のギア位置を表示します。

油温表示②は、エンジンオイルの油温を表示します。

注 意 !

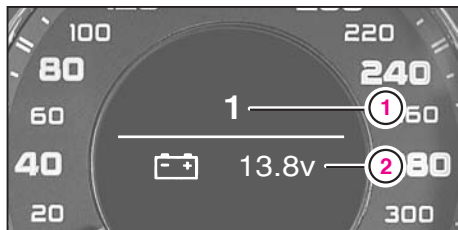
油温表示画面のマークが点滅しているときは、エンジンオイルが温まっていません（油温が約80℃未満になっています）。このときはエンジン回転数を必要以上に上げないように運転してください。

知 識

- エンジンスイッチを**1**の位置から**2**の位置にしたとき、油温表示画面が実際と異なる油温を瞬間的に表示することがありますが、異常ではありません。
- エンジンスイッチが**1**の位置のときは、油温表示画面は表示されません。このときは "−−−℃" が表示されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

AMG表示

ギア表示・電圧表示画面

① ギア表示
② 電圧表示

ギア表示①は、オートマチックトランスミッションの実際のギア位置を表示します。

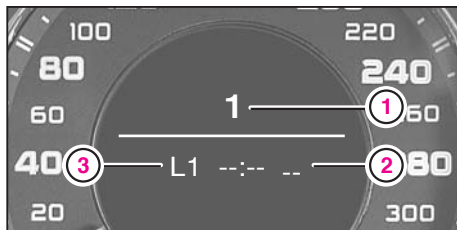
電圧表示②は、バッテリーの電圧を表示します。

ギア表示・電圧表示画面を表示させる

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます(4-13)。

▶ [▲]または[▼]を押して、ギア表示・電圧表示画面を表示させます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ギア表示・レースタイマー画面

① ギア表示
② 計測タイム
③ ラップ表示

ギア表示・レースタイマー画面では、サーキットコースなどで周回ごとのラップタイムを計測・記録したり、その結果を一覧表示できます。

レースタイマーは、エンジンスイッチが**2**の位置のとき、またはエンジンがかかっているときに使用できます。

ギア表示・レースタイマー画面を表示させる

▶ ［ボタン］または［ボタン］を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます（4-13）。

▶ ［▲］または［▼］を押して、ギア表示・レースタイマー画面を表示させます。

知　識

- 計測タイムは1秒単位で表示されます。
- ギア表示・レースタイマー画面を表示させているときは、［＋］または［−］を押してオーディオなどの音量を調節することはできません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

タイム計測を開始する

▶ ＋を押します。

タイム計測が開始されます。

タイム計測を停止する

▶ タイム計測中に＋を押します。

タイム計測が停止します。

知 識

- タイム計測を停止しているときに＋を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。
- タイム計測中に、停車してエンジンスイッチを**1**の位置にすると、タイム計測が停止します。

  その後、エンジンスイッチを**2**の位置にするかエンジンを始動して＋を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

スプリットタイムを表示する

▶ タイム計測中に－を押します。

スプリットタイムが約5秒間表示されます。

約5秒経過後に、タイム計測の表示に戻ります。

知 識

スプリットタイムを表示しているときに再度－を押すと、スプリットタイムがラップタイムとして記録され、次のラップのタイムが表示されます（4-17）。

計測したタイムを消去する

▶ タイム計測が停止しているときに－を押します。

計測タイムが消去され、表示が00:00₀₀に戻ります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ラップタイムを記録する

① ギア表示
② 計測タイム
③ 最速ラップタイム
④ ラップ数

最大9件までの計測タイムをラップタイムとして記録できます。

▶ タイム計測中に ─ を押します。

スプリットタイムが約5秒間表示されます。

知　識

このときから、次のラップタイムの計測が開始されます。

▶ スプリットタイムが表示されているときに、再度 ─ を押します。

スプリットタイムがラップタイムとして記録され、次のラップのタイムが表示されます。

知　識

- ラップタイムが記録されているときは、計測タイム②の下に最速ラップタイム③が表示されます。
- ラップタイムが9件記録されると、それ以上計測ができなくなります。新たにタイム計測を行なうときは、記録したラップタイムを消去してください。

記録したラップタイムを消去する

▶ タイム計測が停止しているときに、リセットボタン（**3-62**）を2回押します。

記録したすべてのラップタイムが消去され、表示が00:00₀₀に戻ります。

知　識

- 記録したラップタイムを個別に消去することはできません。
- エンジンスイッチを**0**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから、約30秒経過すると、計測タイムとラップタイムは消去されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

全ラップの計測結果を確認する

計測結果表示画面（全ラップ）

① 合計時間
② 計測した全ラップでの最高速度
③ 計測した全ラップの総走行距離
④ 計測した全ラップの平均速度

2周以上のラップタイムが記録されているときは、タイム計測後に計測結果を表示できます。

計測結果表示画面（全ラップ）を表示させる

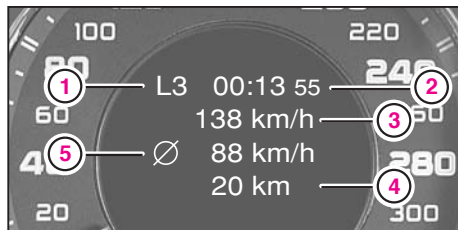
▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます (4-13)。

▶ [上ボタン] または [下ボタン] を押して、計測結果表示画面（全ラップ）を表示させます。

知　識

タイムを計測しているときは、全ラップの計測結果は確認できません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ラップごとの計測結果を確認する

計測結果表示画面（ラップ別）

① ラップ表示
② ラップタイム
③ 表示されているラップでの最高速度
④ 表示されているラップの走行距離
⑤ 表示されているラップの平均速度

ラップタイムが記録されているときは、タイム計測後にラップごとの計測結果を表示できます。

計測結果表示画面（ラップ別）を表示させる

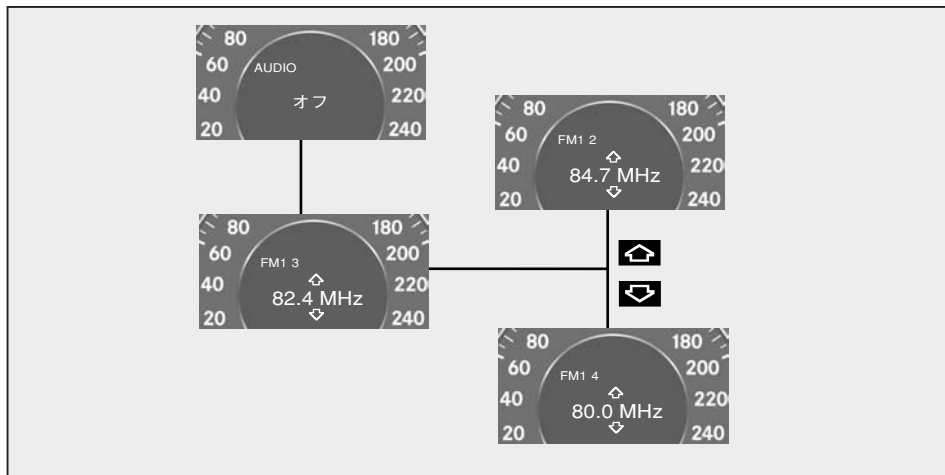
▶ またはを押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます（4-13）。

▶ またはを押して、表示させたいラップの計測結果表示画面を選択します。

知　識

- 表示されているラップが最速ラップのときは、ラップ表示①が点滅します。
- タイムを計測しているときは、ラップごとの計測結果は確認できません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

オーディオ

オーディオの使用時にそれぞれの情報を表示します。

オーディオのメイン画面を表示させる

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、オーディオのメイン画面を表示させせます。

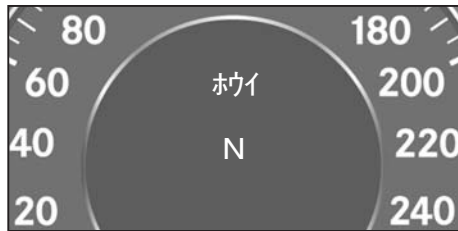
オーディオのメイン画面表示中に、[▲]または[▼]を押すと、ラジオの選局、CDの選曲などができます。

音量調節

▶ [＋]または[－]を押すと、音量を調節できます。

※ 詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

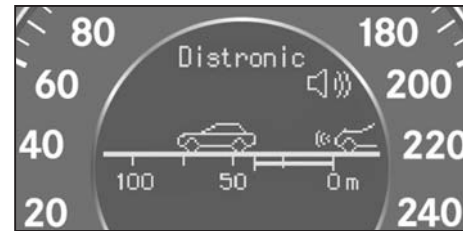
ナビゲーション・進行方向方位表示

マルチファンクションコントローラーのナビゲーション機能で目的地を設定したときに、ルート案内をマルチファンクションディスプレイに表示できます。

ルート案内を行なっていないときは、画面に進行方向の方位が表示されます。

ナビゲーション・進行方向方位表示画面を表示させる

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、ナビゲーション・進行方向方位表示画面を表示させます。

※ 詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

ディストロニック＊

ディストロニック画面の例

ディストロニックの設定や作動の確認をすることができます。

詳しくは(5-56)をご覧ください。

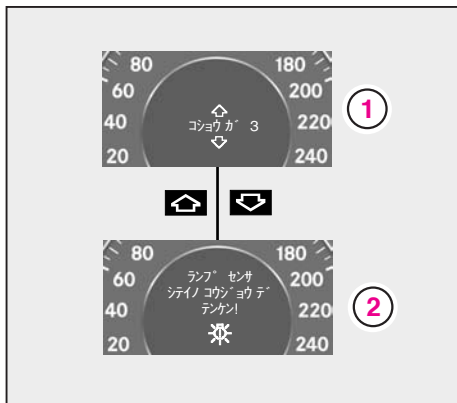
知　識

車間距離表示画面は、ディストロニックを解除しているときも表示できます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

故障表示

故障表示

①	故障件数画面 （この例では、3件故障があります）
②	故障メッセージ画面の例

故障や異常が起きたとき、車の状況をメッセージで表示します。

知　識

故障がないときは、故障表示画面は表示されません。

自動表示機能

エンジンがかかっているときに故障が起きたときは、故障メッセージ画面が自動的に表示されます。

ステアリングのや、またはリセットボタンを押すと、故障メッセージが消えます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

故障メッセージを確認する

エンジンスイッチが1か2の位置のときに表示されます。

▶ または を押して、故障件数画面①を表示させます。

故障件数が数字で表示されます。

▶ または を押して、故障メッセージ画面②を順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面①に戻ります。

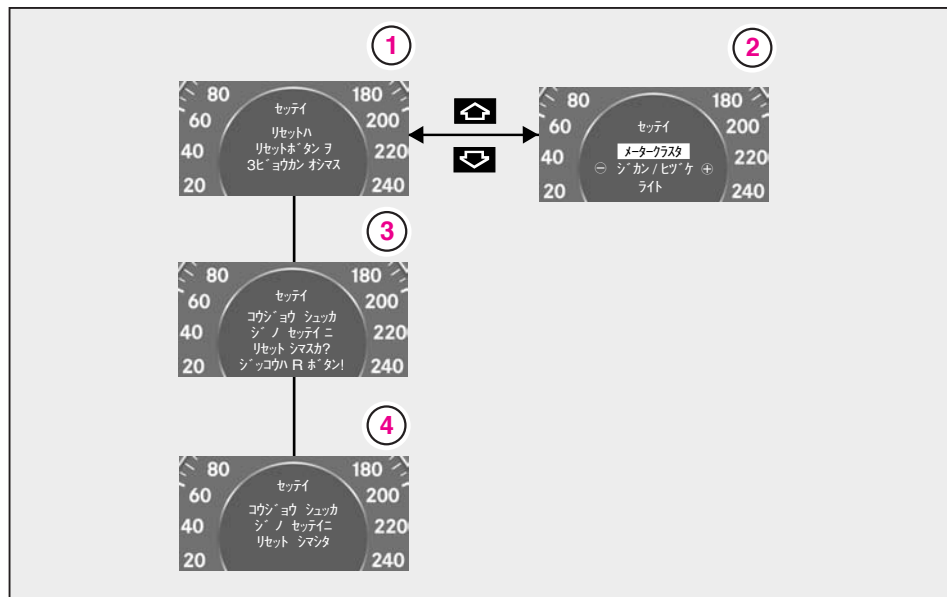
故障表示のリセット

マルチファンクションディスプレイに故障メッセージが表示されているときは、エンジンスイッチを0の位置にすると、故障メッセージの表示が消えます。

ただし、故障状況が変わらない場合は、次にエンジンスイッチを1か2の位置にするか、エンジンを始動したとき、再び故障メッセージが表示されます。

注 意 !

- 表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や異常の表示は運転者を支援するものです。発生した故障に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。
- 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。
- 表示される故障 / 警告メッセージについては （10-2〜）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定

①	各種設定メイン画面	4-25
②	設定グループ選択画面	4-25
③	各種設定項目の初期化画面	4-26
④	各種設定項目の初期化完了画面	4-26

注 意 !

走行中でも設定を変更することができますが、安全のため、必ず停車中に操作してください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定メイン画面

各種設定メイン画面を表示させる

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、各種設定メイン画面を表示させます。

設定グループ選択画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ 各種設定メイン画面表示中に[ボタン]を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [＋]または[－]を押して、設定グループを選択します。

▶ 選択したグループ名を確認して、[ボタン]を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定項目画面を選択する

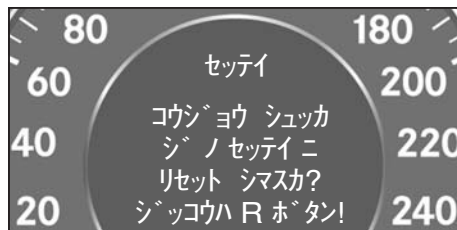
選択した設定項目画面の数値や設定を変更できます。

▶ [↑]または[↓]を押して、設定項目画面を選択します。

設定項目を選択する
機能のオン / オフを選択する

▶ [+]または[−]を押して、設定項目を選択したり、機能のオン / オフを選択します。

選択した設定が記憶されます。

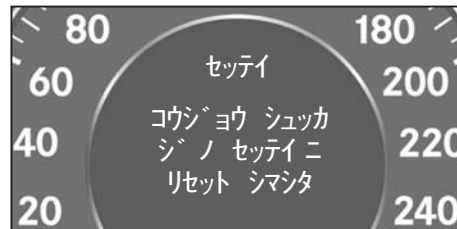
各種設定項目の初期化

初期化画面

各種設定のすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する(戻す)ことができます。

各種設定項目を初期化する

▶ [ ]または[ ]を押して、各種設定メイン画面を表示させます（4-25）。

▶ リセットボタン(3-62)を約3秒間押し続けます。

上記の初期化画面が表示されます。

初期化完了画面

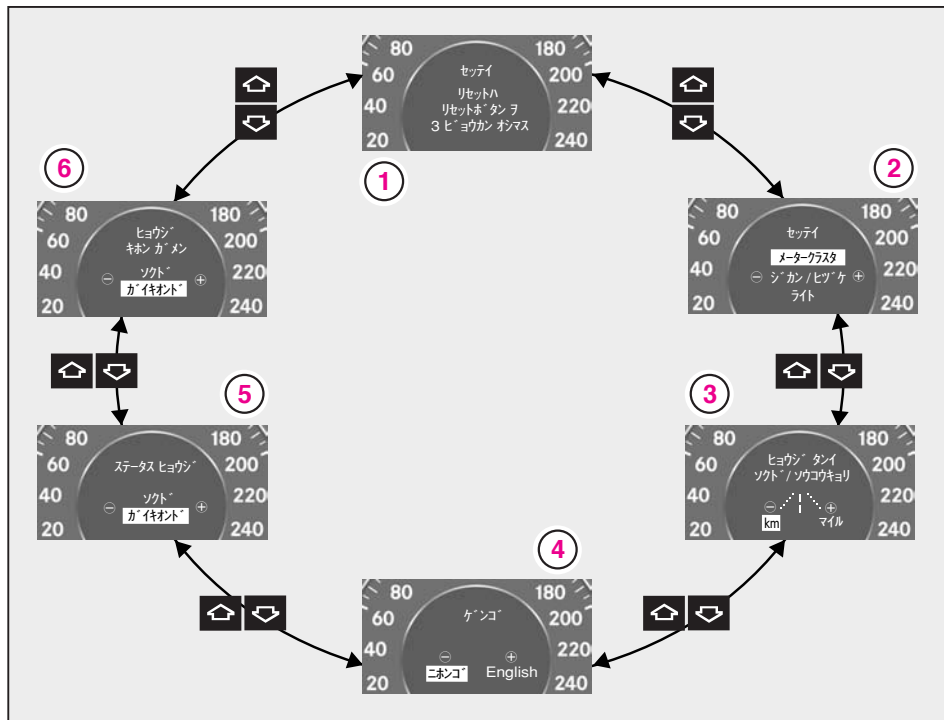
▶ 初期化画面の表示中(約5秒以内)に、リセットボタンを押します。

初期化が実行され、上記の初期化完了画面が表示されます。

知　識

- 初期化画面が表示されてから約5秒間リセットボタンを押さずにいると、各種設定メイン画面に切り替わります。
- 走行中に初期化操作を行なったときは、安全のため、初期化されない項目があります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メータークラスタ

①	各種設定メイン画面	4-25
②	設定グループ選択画面	4-25
③	速度・距離単位設定画面	4-28
④	ディスプレイ言語設定画面	4-29
⑤	ディスプレイ下段の表示設定画面	4-29
⑥	車両情報メイン画面の表示設定画面	4-29

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [icon]または[icon]を押して、各種設定メイン画面を表示させます（4-25）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に[⌂]を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [+]または[−]を押して、"メータークラスタ" を選択します。

▶ [⌂]を押します。

メータークラスタの最初の設定項目画面③が表示されます。

速度・距離単位設定画面

マルチファンクションディスプレイの速度や走行距離などの表示単位の設定ができます。

▶ [+]または[−]を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
km	表示がkm/h、kmになります。
ﾏｲﾙ	表示がmph、マイル、MIになります。

注　意　！

1マイル（mph）は約1.6km/hです。マルチファンクションディスプレイの表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ずkm（km/h）表示を選択してください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ディスプレイ言語設定画面

ディスプレイに表示する言語の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ﾆﾎﾝｺﾞ	日本語表示になります。
English	英語表示になります。

ディスプレイ下段の表示設定画面

ディスプレイ下段に表示される項目の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｿｸﾄﾞ	ディスプレイ下段の表示が走行速度になります。
ｶﾞｲｷｵﾝﾄﾞ	ディスプレイ下段の表示が外気温度になります。

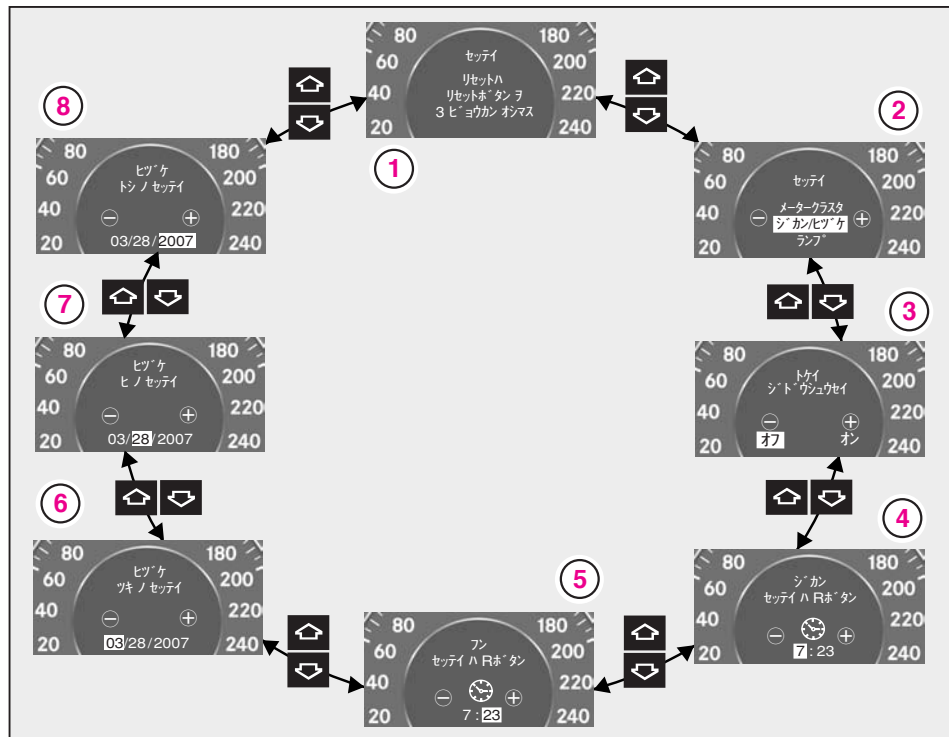
車両情報メイン画面の表示設定画面

車両情報メイン画面に表示される項目の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｿｸﾄﾞ	車両情報メイン画面の表示が走行速度になります。
ｶﾞｲｷｵﾝﾄﾞ	車両情報メイン画面の表示が外気温度になります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ジカン / ヒヅケ

①	各種設定メイン画面	4-25
②	設定グループ選択画面	4-25
③	時刻の設定方法選択画面	4-31
④	時刻の設定画面（時）	4-32
⑤	時刻の設定画面（分）	4-32
⑥	日付の設定画面（月）	4-33
⑦	日付の設定画面（日）	4-33
⑧	日付の設定画面（年）	4-33

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [icon]または[icon]を押して、各種設定メイン画面を表示させます（4-25）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に[icon]を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [+]または[−]を押して、"ジカン / ヒヅケ" を選択します。

▶ [icon]を押します。

ジカン/ ヒヅケの最初の設定項目画面③が表示されます。

時刻の設定方法選択画面

メーターパネルの時計の時刻をマルチファンクションコントローラーの時刻に連動させることができます。

▶ [+]または[−]を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	メーターパネルの時計の時刻がマルチファンクションコントローラーの時刻に連動します。
オフ	メーターパネルの時刻などを手動で設定します(画面④～⑧)。

知　識

オンを選択した場合、画面④～⑧は表示されません。

4

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

時刻の設定画面(時)

メーターパネルの時計の「時」を設定します。

▶ ＋または－を押して、反転部分の数字を修正します。

続けて「分」を設定するときは、⌂を押します。

▶ 設定を終了するときはリセットボタンを押します。

時計の針が動き、修正した時刻に設定されます。

時刻の設定画面(分)

メーターパネルの時計の「分」を設定します。

▶ ＋または－を押して、反転部分の数字を修正します。

続けて「月」を設定するときは、⌂を押します。

▶ 設定を終了するときはリセットボタンを押します。

時計の針が動き、修正した時刻に設定されます。

知　識

- リセットボタンを押して時刻を設定すると、時計の針が早く回転したり、反時計回りに動くことがあります。
- マルチファンクションディスプレイに表示される時刻は、メーターパネルの時計の時刻です。
- 各種設定項目を初期化しても、時刻は工場出荷時の設定になりません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

日付の設定画面（月）

日付の「月」を設定します。

▶ ＋または－を押して、反転部分の数字を修正します。

続けて「日」を設定するときは、⌂を押します。

日付の設定画面（日）

日付の「日」を設定します。

▶ ＋または－を押して、反転部分の数字を修正します。

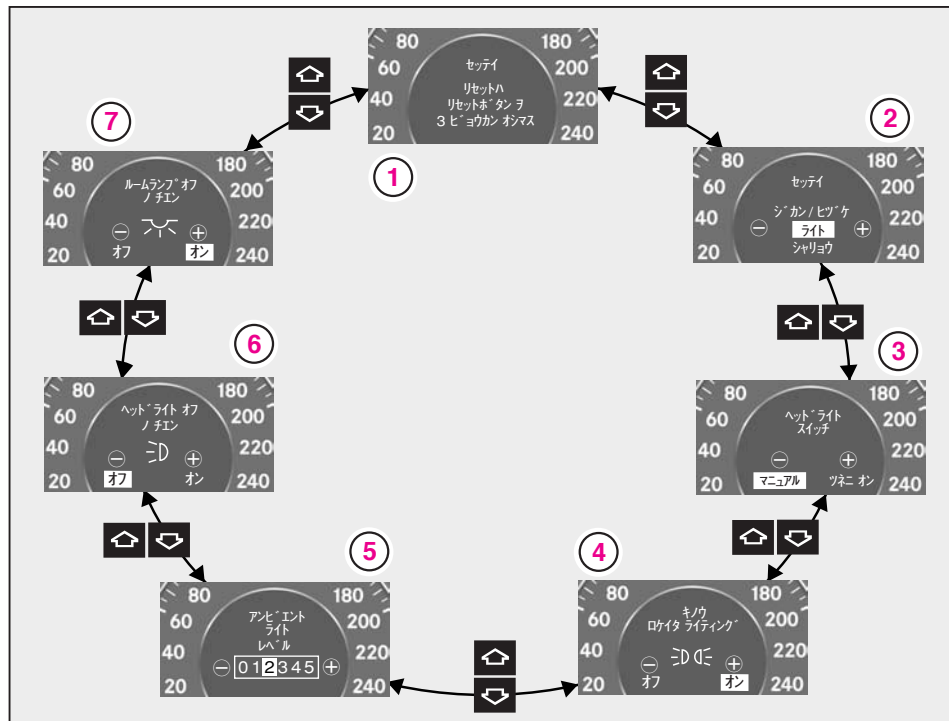
続けて「年」を設定するときは、⌂を押します。

日付の設定画面（年）

日付の「年」を設定します。

▶ ＋または－を押して、反転部分の数字を修正します。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ライト

①	各種設定メイン画面	4-25
②	設定グループ選択画面	4-25
③	ヘッドランプ点灯モード設定画面	4-35
④	ロケイターライティング設定画面	4-36
⑤	フロントアンビエントランプ照度設定画面	4-37
⑥	車外ランプ消灯遅延機能設定画面	4-38
⑦	ルームランプ消灯遅延機能設定画面	4-39

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、各種設定メイン画面を表示させせます（4-25）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に[ボタン]を押して、設定グループ選択画面②を表示させせます。

設定グループを選択する

▶ ＋または－を押して、"ライト"を選択します。

▶ [ボタン]を押します。

ランプの最初の設定項目画面③が表示されます。

ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードの設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
マニュアル	手動点灯モードです。 ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。 日本ではこのモードに設定してください。
ツネニ オン	常時点灯モードです。 エンジンを始動すると、ヘッドランプなどが常に点灯します。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

注　意　！

設定が常時点灯モードのときは、安全のため走行中に設定を変更することはできません。

このときは、マルチファンクションディスプレイに "ｾｯﾃｲ ﾊ ﾃｲｼﾞﾁｭｳ ﾉﾐ ｶﾉｳ ﾃﾞｽ" と表示されます。

知　識

- 常時点灯モードは、走行中の常時点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定して使用してください。
- 常時点灯モードで自動的に点灯するランプは、ヘッドランプ、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプです。ヘッドランプを上向きにしたり、フォグランプなどを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

ロケイターライティング設定画面

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｵﾝ	周囲が暗いときに、リモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。
ｵﾌ	ロケイターライティングは作動しません。

詳しくは (3-9) をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

フロントアンビエントランプ照度設定画面

フロントアンビエントランプの照度の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
5 4 3 2 1	5がもっとも明るく、1がもっとも暗い設定になります。
0	フロントアンビエントランプは点灯しません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車外ランプ消灯遅延機能設定画面

周囲が暗いときにエンジンを停止すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやトランクを開いて閉じた後、約15秒後に消灯します。
オフ	車外ランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（**5-27**）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ルームランプ消灯遅延機能設定画面

ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが点灯する機能の設定ができます。

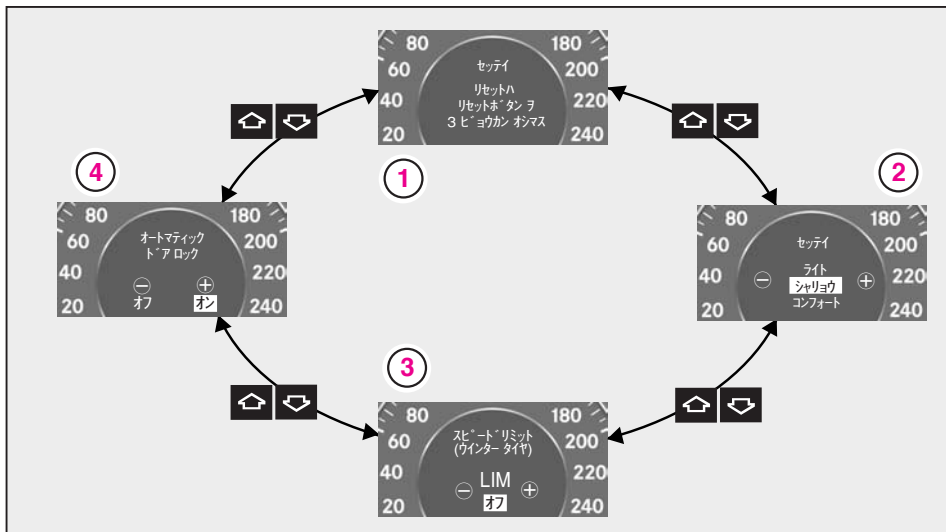
▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｵﾝ	ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが約10秒間点灯します。
ｵﾌ	ルームランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（6-18）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定

シャリョウ

①	各種設定メイン画面	4-25
②	設定グループ選択画面	4-25
③	ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面	4-41
④	車速感応ドアロック設定画面	4-42

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ またはを押して、各種設定メイン画面を表示させます（4-25）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中にを押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ またはを押して、"シャリョウ" を選択します。

▶ を押します。

シャリョウの最初の設定項目画面③が表示されます。

ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

日本仕様でも設定はできますが、法定速度を守って走行してください。

▶ またはを押して、設定内容を選択します。

表示	設定内容
オフ	ウィンタータイヤスピードリミッターは作動しません。
240km/h 230km/h 220km/h 210km/h 200km/h 190km/h 180km/h 170km/h 160km/h	最高速度がそれぞれの速度に設定されます。

知　識

ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッター（5-68）で設定できる制限速度は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度が上限となります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車速感応ドアロック設定画面

走行速度が約15km/h以上になったときに、ドアとトランクを自動的に施錠する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｵﾝ	車速感応ドアロックが作動します。
ｵﾌ	車速感応ドアロックは作動しません。

詳しくは（3-29）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

コンフォート

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [icon]または[icon]を押して、各種設定メイン画面を表示させます（4-25）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に[icon]を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [+]または[−]を押して、"コンフォート" を選択します。

▶ [icon]を押します。

コンフォートの最初の設定項目画面③が表示されます。

イージーエントリー設定画面

運転席への乗り降りを容易にするイージーエントリー機能の設定ができます。

▶ [+]または[−]を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ステアリングが上方に移動します。
オフ	イージーエントリー機能は作動しません。

詳しくは（3-24）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

施錠時のドアミラー格納設定画面

リモコン操作での施錠時にドアミラーを格納する機能の設定ができます。

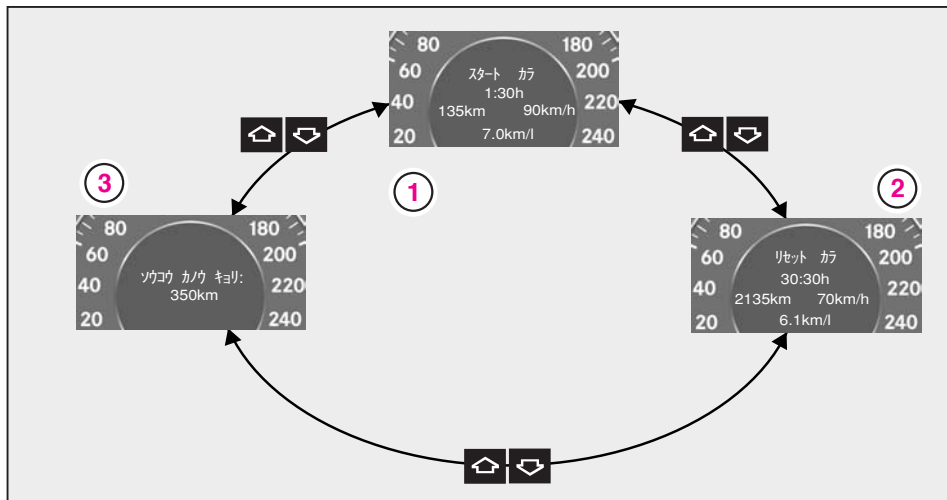
▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	リモコン操作での施錠時にドアミラーが格納されます。
オフ	リモコン操作での施錠時にドアミラーは格納されません。

詳しくは（3-9）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

トリップコンピューター

トリップコンピューター

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ショートトリップメーター画面

① エンジン始動からの走行距離（km）
② エンジン始動からの経過時間（h）
③ エンジン始動からの平均速度（km/h）
④ エンジン始動からの平均燃費（km/l）

ショートトリップメーターは、エンジンを始動したときを起点とした情報を表示します。

エンジンスイッチを**0**の位置にしてから、またはキーを抜いてから約4時間経過すると、ショートトリップメーターは自動的にリセットされます。

ショートトリップメーター画面を表示させる

▶ ▤または▤を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます。

ショートトリップメーターは、手動でもリセットできます。

ショートトリップメーターを手動でリセットする

▶ ショートトリップメーター画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン**（3-62）**を押し続けて、表示をリセットします。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

トリップコンピューター

ロングトリップメーター画面

① リセットからの走行距離（km）
② リセットからの経過時間（h）
③ リセットからの平均速度（km/h）
④ リセットからの平均燃費（km/l）

ロングトリップメーターは、リセットしたときを起点とした情報を表示します。

ロングトリップメーター画面を表示させる

▶ [アイコン]または[アイコン]を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます**（4-47）**。

▶ [アイコン]を押して、ロングトリップメーター画面を表示させます。

ロングトリップメーターをリセットする

▶ ロングトリップメーター画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン**（3-62）**を押し続けて、表示をリセットします。

知　識

リセット後、ロングトリップメーターは、9,999時間経過後、または99,999km走行後に自動的にリセットされます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行可能距離画面

現在の燃料残量で走行可能なおおよその距離を計算し、予測値として表示します。

走行可能距離画面を表示させる

▶ エンジンスイッチを2の位置にします。

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます（4-47）。

▶ [ボタン]を押して、走行可能距離画面を表示させます。

注 意 ！

走行可能距離は、現在までの平均燃費と燃料残量から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認して、早めに給油してください。

燃料残量が少ないときは、マルチファンクションディスプレイに"ﾈﾝﾘｮｳﾘｻﾞｰﾌﾞ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ"と表示されるか、以下のマークが表示されます。

最寄りのガソリンスタンドですみやかに給油してください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

電話

電話画面を表示させる

▶ またはを押して、電話画面を表示させます。

通話する（電話を受信する）

▶ 電話がかかってきたときにステアリングの通話開始スイッチを押します。

電話を受信できます。

通話を終える(電話を切断する)

▶ ステアリングの通話終了スイッチを押します。

電話を切断できます。

メモリー番号による電話の発信

メモリーしてある電話番号に電話をかけることができます。

▶ 電話画面表示中に、またはを押して、電話をかける相手先のメモリー番号を選択します。

▶ ステアリングの通話開始スイッチを押します。

※ 詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

エンジンスイッチ

左ハンドル車

警　告

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

	作動内容
⓪	キーを差し込む / 抜く位置
①	エンジンを停止したまま電気装備の一部を使用するときの位置
②	走行するときの位置 すべての電気装備が使用できます。
③	エンジンを始動する位置 エンジンスイッチを③の位置までまわして手を放せば、自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

タッチスタート

エンジンスイッチを③の位置までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

注　意　！

- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- バッテリーあがりを防ぐため、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。
- エンジンスイッチにエマージェンシーキーを差すことはできません。

知　識

- セレクターレバーが P に入っていないときはキーを抜くことができません。
- エンジンスイッチからキーを抜かずに⓪の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差してからまわしてください。
- キーの発信部が覆われていたり汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

ステアリングロック

ステアリングをロックする

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

ステアリングがロックされます。

ステアリングロックを解除する

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

ステアリングのロックが解除されます。

エンジンの始動と停止

エンジンを始動するとき

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに3の位置までまわして手を放します。

注 意 !

- エンジンは、セレクターレバーが N に入っているときも始動できますが、安全のため、必ずセレクターレバーを P に入れ、ブレーキペダルを踏んで始動してください。
- 少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

知 識

ランプやエアコンディショナーなど、バッテリーの負担になる装置を停止しておくと始動性が良くなります。

エンジンが始動しないとき

▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認します。

▶ エンジンスイッチを0か1の位置に戻してから再始動します。

それでもエンジンを始動できないときは、指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを停止するとき

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、セレクターレバーを P に入れます。

▶ エンジンスイッチを0の位置にします。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

注　意　!

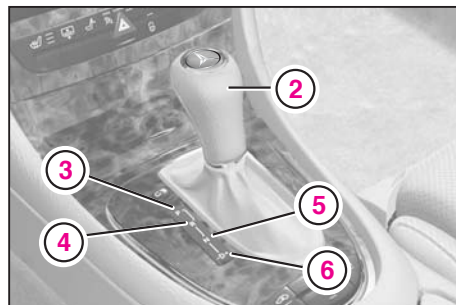
水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

オートマチックトランスミッション

シフト位置表示

① シフト位置表示
（ドライブに入っている状態）

エンジンスイッチを**2**の位置にするとシフト位置①が表示されます。

セレクターレバー

② セレクターレバー

▶ セレクターレバー②を動かして、シフト位置を選択します。

知　識

エンジンスイッチが**2**の位置で、ブレーキペダルを踏んでいないと、セレクターレバーを**P**から動かすことはできません。

注　意　！

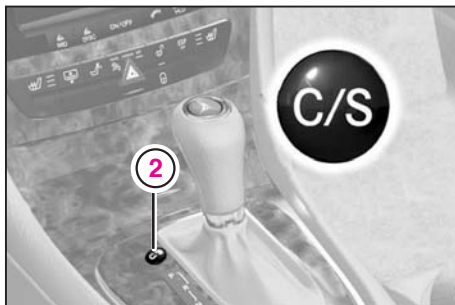
シフト位置を選択するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んで行なってください。

	シフト位置	
③	**P** パーキング	駐車およびエンジン始動 / 停止の位置
④	**R** リバース	後退するときの位置
⑤	**N** ニュートラル	動力が伝わらない位置 押したり、けん引してもらうことで車を移動できます。
⑥	**D** ドライブ	走行するときの位置 1速～7速の範囲で自動的に変速します。

走行モード

① 走行モード表示

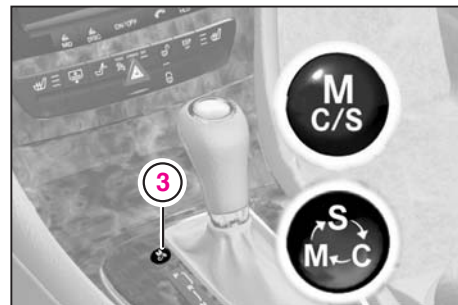
路面の状況や運転に合わせてオートマチックギアシフトの走行モードを切り替えることができます。

選択された走行モード①はメーターパネルに表示されます。

マニュアルギアシフト非装備車

② 走行モード選択スイッチ

走行モードを選択する（マニュアルギアシフト非装備車）

▶ 走行モード選択スイッチ②を押します。

Sモード→Cモード→Sモードと切り替わります。

マニュアルギアシフト装備車

③ 走行モード選択スイッチ

走行モードを選択する（マニュアルギアシフト装備車）

▶ 走行モード選択スイッチ③を押します。

CLS 350 / CLS 550は、Sモード→Cモード→Mモード→Sモードと切り替わります。

CLS 63 AMGは、Sモード→Mモード→Cモード→Sモードと切り替わります。

※ 車種や仕様により、走行モード選択スイッチの表記が異なります。

※記載の内容は、取扱説明書作成時のもので、予告なく変更されることがあります。

走行モード	
Cモード	Sモードより早めにシフトアップが行なわれます。ゆるやかな運転や滑りやすい路面を走行するときに適しています。 セレクターレバーを R に入れたときはSモードよりゆるやかに後退します。
Sモード	十分な加速を得たいときに使用します。セレクターレバーを R に入れたときはCモードより力強く後退します。
Mモード＊	マニュアルでギアシフトすることができます。 詳しくは（5-12）をご覧ください。

警　告

選択したモードにより変速特性が変わります。必ず路面の状況に合ったモードを選択してください。

知　識

- Sモードまたは Cモードを選択した状態でエンジンを停止すると、次にエンジンを始動したときは停止したときのモードになります。
- Mモードを選択した状態でエンジンを停止すると、次にエンジンを始動したときは、SモードまたはCモードになります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ティップシフト

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲を変えることにより不必要に変速しないようにすることができます。

走行モードがCモードかSモードのときにティップシフトにすることができます。

警　告

滑りやすい路面状況やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。低いギアレンジを選択するときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

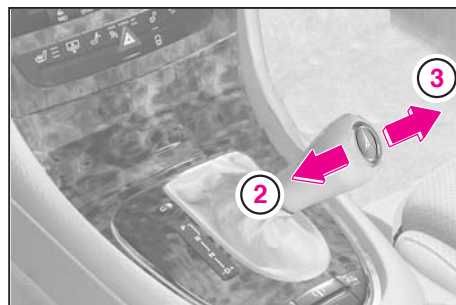
① ギアレンジ表示

選択したギアレンジ①はメーターパネルに表示されます。

ギアレンジ	
D	1速～7速の範囲で自動的に変速します。
6	1速～6速の範囲で自動的に変速します。
5	1速～5速の範囲で自動的に変速します。
4	1速～4速の範囲で自動的に変速します。
3	1速～3速の範囲で自動的に変速します。緩やかな坂道などを走行するときに使用します。
2	1速～2速の範囲で自動的に変速します。急な坂道やエンジンブレーキが必要なときに使用します。
1	1速に固定されます。エンジンブレーキが最大に作用します。

知　識

- ギアレンジ表示の数字は選択したギアレンジを示しており、必ずしも実際のギアを示すものではありません。
- 加速時にエンジン回転数が許容回転数を超えるようなときは、自動的にシフトアップされ、高いギアレンジが選択されます。
- エンジンが暖まっていないときは、操作を行なっても、選択したギアレンジに変わらないことがあります。

セレクターレバーによる操作

② 低いギアレンジを選択
③ 高いギアレンジを選択

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが D に入っているときに、セレクターレバーを②側に操作します。

ティップシフトに切り替わり、選択されたギアレンジ①がメーターパネルに表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを②側に操作します。

高いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを③側に操作します。

ティップシフトを解除する

▶ セレクターレバーを③側に操作して保持します。

メーターパネルのギアレンジ表示①に "D" が表示されます。

知　識

- ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数などにより異なります。
- ティップシフトにしていないときにセレクターレバーを③側に操作すると、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

パドルによる操作＊

④ 左側パドル
（低いギアレンジを選択）
⑤ 右側パドル
（高いギアレンジを選択）

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが D に入っているときに、左側のパドル④を引きます。

ティップシフトに切り替わり、選択されたギアレンジ①がメーターパネルに表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ 左側のパドル④を引きます。

高いギアレンジを選択する

▶ 右側のパドル⑤を引きます。

ティップシフトを解除する

▶ 右側のパドル⑤を引いて保持します。

メーターパネルのギアレンジ表示①に "D" が表示されます。

知 識

- ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数などにより異なります。
- ティップシフトにしていないときに、右側のパドル⑤を引くと、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。
- CLS 350 スポーツパッケージ、CLS 550 スポーツパッケージでは、右側のパドルには "＋"、左側のパドルには "－" の表示があります。
- CLS 63 AMGでは、右側のパドルには "UP"、左側のパドルには "DOWN" の表示があります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

マニュアルギアシフト＊

セレクターレバーまたはパドルを操作して、マニュアルでギアを選択することができます。

警　告

滑りやすい路面状況やカーブを走行しているときは、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。シフトダウンするときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

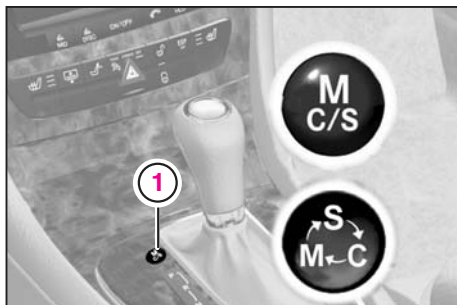
注　意　!

エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

知　識

- マニュアルギアシフトでは、ESPの機能を解除しないで走行することをお勧めします。
- エンジンが暖まっていないときは、ギアシフト操作を行なっても、選択したギアに変速しないことがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

マニュアルギアシフトの選択

① 走行モード選択スイッチ

② ギア表示
③ 走行モード表示

マニュアルギアシフトを選択する

▶ 走行モード選択スイッチ①を押して、走行モード表示③に "M" を表示させます。

ギア表示②には選択されているギアが表示されます。

※ 車種や仕様により、走行モード選択スイッチの表記が異なります。

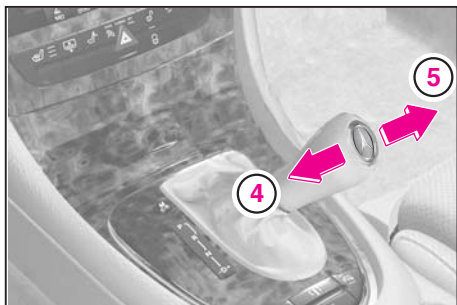
知　識

- マニュアルギアシフトを選択した状態でエンジンを停止すると、エンジン再始動時にはオートマチックギアシフトに切り替わります。
- マニュアルギアシフトではギア表示②に表示される数字は実際のギアを示しています。運転者のシフトアップ / ダウン操作や、自動的なシフトアップ＊ / ダウンに応じてギア表示②に表示される数字も変わります。

マニュアルギアシフトを解除する

▶ 走行モード選択スイッチ①を押して、SモードかCモードを選択します。

※記載の内容は、取扱説明書作成時のもので、予告なく変更されることがあります。
＊オプションまたは仕様により装備が異なります

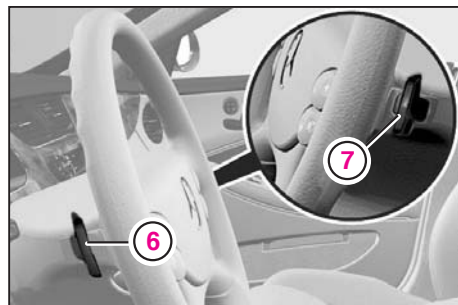
セレクターレバーによるシフト操作

④ シフトダウン
⑤ シフトアップ

シフトダウンする

▶ セレクターレバーを④の方向に操作します。

シフトアップする

▶ セレクターレバーを⑤の方向に操作します。

パドルによるシフト操作

⑥ 左側パドル
（シフトダウン）
⑦ 右側パドル
（シフトアップ）

シフトダウンする

▶ 左側のパドル⑥を引きます。

シフトアップする

▶ 右側のパドル⑦を引きます。

知 識

- シフトダウン操作をしなくても、速度とエンジン回転数に応じて、自動的にシフトダウンすることがあります。
- CLS 350 スポーツパッケージ、CLS 550 スポーツパッケージでは、エンジン回転数が上昇しレッドゾーンに近付くと、シフトアップ操作をしなくても自動的にシフトアップされます。このとき、ギア表示の数字も変わります。
- シフトアップ / ダウン操作をしても、選択したギアが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトアップ / ダウンされません。
- 車種や仕様により、停車時に選択できるギアは異なります。

- 停車すると、ギアは1速にシフトされます。
- CLS 350 スポーツパッケージ、CLS 550 スポーツパッケージでは、キックダウンを行なうことができます。

  また、キックダウンしているときは、シフト操作はできません。
- CLS 63 AMGでは、キックダウンを行なうことはできません。
- CLS 350 スポーツパッケージ、CLS 550 スポーツパッケージでは、右側のパドルには "＋"、左側のパドルには "－" の表示があります。
- CLS 63 AMGでは、右側のパドルには "UP"、左側のパドルには "DOWN" の表示があります。
- セレクターレバーを左側に操作して保持するか、左側のパドルを引いて保持すると、そのときの加速に最も適したギアが選択されます。

シフトアップ表示（CLS 63 AMG）

⑧ ギア表示
⑨ "up" マーク
⑩ シフトアップマーク

エンジン回転数が上昇し、シフトアップするタイミングになったときは、マルチファンクションディスプレイの表示が赤くなり、ギア表示⑧と "up" マーク⑨が表示されます。

また、シフトアップマーク⑩も表示されます。

必要に応じてシフトアップ操作を行なってください。

知　識

CLS 350 スポーツパッケージ、CLS 550 スポーツパッケージでは、シフトアップ表示は行なわれません。

オートマチック車の運転

運転する前にオートマチック車の特性を理解し、正しい操作をしてください。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーが P 、N 以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

発進する

▶ エンジンを始動します。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、セレクターレバーを走行位置 D に入れます。

警　告

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進するおそれがあります。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

注　意　！

- 急な坂道で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで、車が動き出す感触を確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。
- CLS 63 AMGでは、エンジン冷却水が約20℃以下のときなどエンジンが暖まっていないときは、エンジン保護のためにエンジン回転数が制限されます。

  エンジンが暖まるまでは、急加速を避けてください。

通常走行

通常はセレクターレバーを D にして走行します。アクセルペダルの踏み加減や走行速度に応じて、自動的に変速が行なわれます。

警　告

走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故の原因になったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

知　識

エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正温度に達します。

素早く加速したいとき

アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンし、素早く加速します。

注　意 ！

キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

上り坂を走行するとき

▶ 坂の勾配などに応じて、ティップシフトで低いギアレンジを選択します。

変速の少ない、なめらかな走行ができます。

下り坂を走行するとき

下り坂を D で走行すると、エンジンブレーキの効きが弱く、速度が出すぎることがあります。

▶ 坂の勾配などに応じて、ティップシフトで低いギアレンジを選択します。

エンジンブレーキの効きを強くして走行することができます。

エンジンブレーキ：走行中にアクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

警　告

- 長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。ブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- 急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

滑りやすい路面を走行するとき

走行モード**（5-7）**をCモードに切り替え、急加速や急減速を避けた運転を心がけてください。

警　告

滑りやすい路面では、低いギアレンジか低いギアを選択することによる急激なエンジンブレーキを効かせないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

注　意　！

エンジン回転数が許容回転数を超えるおそれがある場合は、低いギアレンジや低いギアを選択することはできません。このときは、ブレーキペダルを踏んで減速してから再度操作し、速度に応じたエンジンブレーキを効かせてください。

停車するとき

▶ セレクターレバーを D に入れたままブレーキペダルを踏みます。

やむを得ず停車が長くなるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れます。

警　告

停車中は空ぶかしをしないでください。万一セレクターレバーが D か R に入ると、車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

注 意 !

- 急な上り坂などではアクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象（5-16）で車が動かないようにしてください。
- セレクターレバーを P に入れるときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

▶ 完全に停車して、ブレーキペダルを踏み込んだまま、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ セレクターレバーを P に入れます。

▶ エンジンスイッチを0の位置にして、キーを抜きます。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

警 告

駐車時や車を離れるときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止してください。セレクターレバーを P に入れただけでは十分なブレーキ効果が得られず、坂道などで車が動き出すおそれがあります。

注 意 !

- 急な坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪の下り側を歩道方向に向けてください。
- 短時間でも車から離れるときは、子供だけを車内に残さないでください。また、ドアウインドウやスライディングルーフ＊を閉じて、施錠してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

エマージェンシーモード

トランスミッションに異常が発生し、自動変速ができなくなったときは、自動的にエマージェンシーモードに切り替わることがあります。

この場合、以下の方法でギアを2速かリバースに入れることができるようになり、走行できる場合があります。安全な場所まで移動して指定サービス工場に連絡してください。

エマージェンシーモードでの走行

▶ 安全な場所に停車して、セレクターレバーを P に入れます。

▶ エンジンを停止して、約10秒間待ちます。

▶ エンジンを始動します。

▶ セレクターレバーを D に入れます。

2速ギアに固定され、前進できます。

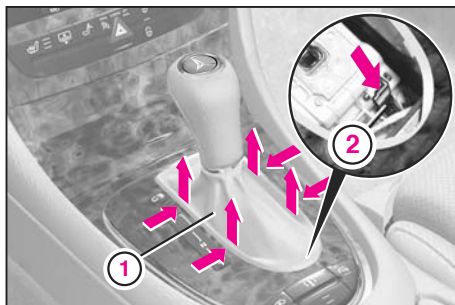
または

▶ セレクターレバーを R に入れます。

リバースギアに固定され、後退できます。

注 意 !

- 2速やリバースに変速できなかったり、変速できても走行できないときは、指定サービス工場に連絡してください。
- エマージェンシーモードで走行するときは、動力性能が大きく制限されます。十分に注意して走行し、指定サービス工場で点検を受けてください。

パーキングロックの解除

① セレクターレバーのカバー
② ロック解除ノブ

セレクターレバーを P から動かせないときは、以下の方法で動かすことができます。

この作業はできるだけ指定サービス工場に依頼してください。

パーキングロックを解除する

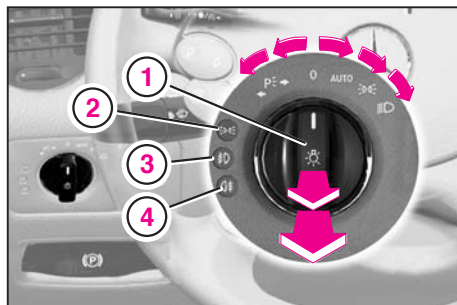
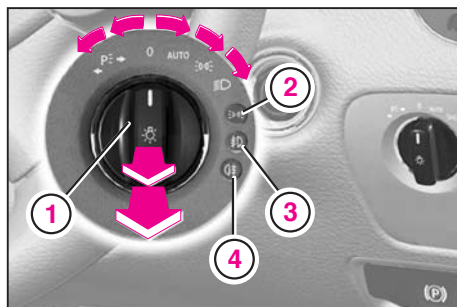
▶ セレクターレバーのカバー①の右端部または左端部を内側につまみながら、カバーを上方にめくります。

▶ 内部のロック解除ノブ②を指で押しながら、セレクターレバーを P から動かします。

注 意 !

- セレクターレバーを動かすことができたときでも、指定サービス工場で点検を受けてください。
- セレクターレバーの開口部には金属などが露出していますので、けがをしないように十分注意してください。

ランプ

ランプスイッチ

左ハンドル車

右ハンドル車

① ランプスイッチ
② 車幅灯表示灯
③ フロントフォグランプ表示灯
④ リアフォグランプ表示灯

▶ ランプスイッチ①をまわして各位置に合わせます。

位置	作動内容
0	すべてのランプが消灯
AUTO	周囲の明るさに応じて自動的に点灯 / 消灯
(車幅灯)	車幅灯、テールランプ、ライセンスランプやスイッチなどの照明が点灯し、車幅灯表示灯②が点灯
(ヘッドランプ)	車幅灯などに加え、ヘッドランプが点灯
P→	右側のパーキングランプが点灯
←P	左側のパーキングランプが点灯

ヘッドランプ

ヘッドランプは手動または自動的に点灯 / 消灯することができます。

ヘッドランプを手動で点灯する

▶ ランプスイッチ①を(ヘッドランプ)の位置にします。

ヘッドランプを自動で点灯する

▶ ランプスイッチ①をAUTOの位置にします。

周囲が暗いとき、エンジンスイッチを**1**の位置にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが自動的に点灯し、車幅灯表示灯②が点灯します。

エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドランプも自動的に点灯します。

警　告

- ランプの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。ランプの自動点灯機能は運転者を支援する機能です。
- 以下の状況などではランプは自動的に点灯しなかったり、点灯していたランプが消灯して事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でランプを点灯してください。
  - ◇ 霧の中を走行するとき
  - ◇ 対向車のランプなどにより、センサーが正常に作動しないとき
- ランプスイッチをAUTOからの位置にするときは、必ず停車してください。ランプが一瞬消灯して事故を起こすおそれがあります。

注　意 !

- ランプが自動的に点灯しているときは、エンジンスイッチを0の位置に戻して運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ﾗｲﾄ ｦ ｵﾌ ﾏﾀﾊ ｷｰｦ ﾇｲﾃｸﾀﾞｻｲ"と表示されます。このときはランプスイッチを0の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- ランプスイッチをかの位置にしたまま、キーを抜いて運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ﾗｲﾄ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ!"と表示されます。このときはランプスイッチを0の位置にしてください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知　識

- フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。このセンサーは、レインセンサーと同じ位置にあります（5-31）。センサー部にステッカーなどを貼付すると、自動点灯機能が作動しなくなります。
- ランプスイッチがAUTOの位置のときは、トンネルなどの暗い場所や悪天候のときなどに、ランプが自動的に点灯することがあります。

フォグランプ

フロントフォグランプを点灯する

▶ ランプスイッチ①の位置が［フォグ］または［ヘッドランプ］のとき、ランプスイッチ①を1段引きます。

フロントフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯③が点灯します。

フロントフォグランプとリアフォグランプを点灯する

▶ ランプスイッチ①の位置が［フォグ］または［ヘッドランプ］のとき、ランプスイッチ①を2段引きます。

フロントフォグランプとリアフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯③とリアフォグランプ表示灯④が点灯します。

警　告

ランプスイッチがAUTOの位置のときは、フォグランプを点灯することはできません。霧の中を走行するときは、あらかじめランプスイッチを［ヘッドランプ］の位置にしてヘッドランプを点灯してください。

注　意　！

- フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。
- エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

パーキングランプ

暗がりでの駐車時に後続車などに車の存在を知らせるため、車幅灯とテールランプだけを点灯します。

パーキングランプを点灯する

エンジンスイッチが0の位置のとき、またはキーを差し込んでいないときに点灯させることができます。

▶ ランプスイッチをP≡→または←P≡の位置にします。

位置	作動内容
P≡→	右側のパーキングランプが点灯
←P≡	左側のパーキングランプが点灯

ヘッドランプ下向き / 上向きの切り替え

左ハンドル車
① 下向き
② 上向き
③ パッシング

ヘッドランプを下向きにする

▶ ヘッドランプが点灯しているときに、コンビネーションスイッチを①の位置にします。

ヘッドランプが下向きになります。

ヘッドランプを上向きにする

▶ ヘッドランプが点灯していて、エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに、コンビネーションスイッチを②の位置にします。

ヘッドランプが上向きになります。

メーターパネルのハイビーム表示灯が点灯します。

パッシングする

▶ エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに、コンビネーションスイッチを③の方向に引きます。

引いている間ヘッドランプが上向きになります。

メーターパネルのハイビーム表示灯が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと①の位置に戻ります。

注　意　！

対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドランプを上向きにしないでください。

コーナリングランプ＊

以下のときに、方向指示灯の点滅、またはステアリング操作に連動して、フロントフォグランプが点灯します。

- 周囲が暗いとき
- エンジンがかかっていて、走行速度が約40km/h以下のとき
- ヘッドランプが点灯しているとき

方向指示灯の点滅との連動

方向指示灯を点滅させると、点滅させた側のフロントフォグランプが点灯します。

セレクターレバーが R に入っているときは、フロントフォグランプは点灯しません。

ステアリング操作との連動

ステアリングを操作すると、操作した側のフロントフォグランプが点灯します。

セレクターレバーが R に入っているときは、ステアリングを操作した側と逆側のフロントフォグランプが点灯します。

知　識

- 点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ側のフロントフォグランプが点灯します。
- フロントフォグランプはゆっくり消灯するため、一時的に左右両側のフロントフォグランプが点灯することがあります。
- 点灯したフロントフォグランプは、約3分後に自動的に消灯します。

アクティブライトシステム

周囲が暗いとき、走行中にステアリングを操作すると、操作した方向にヘッドランプの向きが変わります。

知　識

- ヘッドランプの角度は、ステアリングの操作角度や走行速度に応じて変化します。
- 変化するヘッドランプの角度は小さいため、変化がわかりにくいことがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

車外ランプ消灯遅延機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやトランクを開いて閉じた後、約15秒後に消灯します。

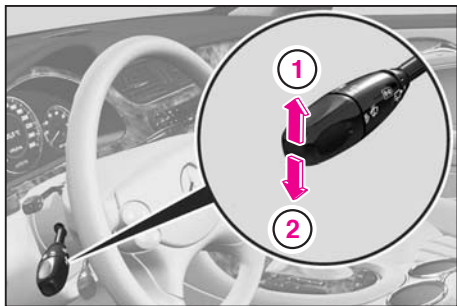
この機能の設定と解除については（**4-38**）をご覧ください。

知　識

- エンジンを停止してからドアやトランクを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約60秒後に、ランプは消灯します。
- この機能は、エンジンを停止してから約60秒経過すると作動しなくなります。約60秒以内ならドアやトランクを開くたびにランプが点灯します。

車外ランプ消灯遅延機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後、エンジンスイッチを**2**の位置にします。

方向指示

左ハンドル車
① 右側の方向指示灯が点滅
② 左側の方向指示灯が点滅

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに点滅させることができます。

右側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを①の方向に操作します。

左側の方向指示灯を点滅させる

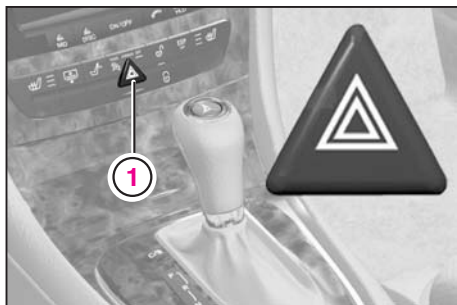
▶ コンビネーションスイッチを②の方向に操作します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

知 識

- 方向指示灯を使用しているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯が優先されます。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。
- コンビネーションスイッチを軽く操作すると、方向指示灯が3回点滅します。

非常点滅灯

① 非常点滅灯スイッチ

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯を使用する

▶ 非常点滅灯スイッチ①を押します。

すべての方向指示灯が点滅し、スイッチと、メーターパネルの方向指示表示灯も同時に点滅します。

非常点滅灯を消灯させる

▶ 再度、非常点滅灯スイッチ①を押します。

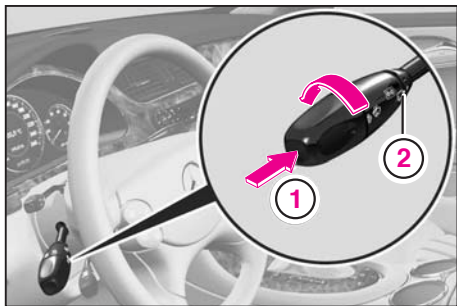
注　意　！

- 非常時以外は使用しないでください。
- エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

知　識

- 非常点滅灯を使用しているときにコンビネーションスイッチを左折または右折方向に操作すると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。

  方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。
- エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

ワイパー

左ハンドル車
① ティップ機能 /
ウインドウウォッシャーの噴射
② ワイパー作動モードのマーク

ワイパーを作動させる

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに作動します。

▶ コンビネーションスイッチをまわしてワイパー作動モードのマーク②を ・・・ ～ ☰ に合わせます。

位置	作動内容
0	停止
・・・	間欠モードⅠ (停止～高速)
・・・・	間欠モードⅡ (停止～高速) 同じ雨滴量の場合、間欠モードⅠよりも短い間隔でワイパーが作動します。
―	低速モード
☰	高速モード

知　識

- 間欠モードは、フロントウインドウのレインセンサーが感知した雨滴量や走行速度などに応じて、ワイパーの作動を自動的に切り替えます。
- 間欠モードのとき、停車時にフロントドアを開くとワイパーは作動しません。ワイパーは以下のときに作動を再開します。
  - ◇ セレクターレバーが P または N に入っている場合は、フロントドアを閉じてセレクターレバーを D または R に入れたとき
  - ◇ セレクターレバーが D または R に入っている場合は、フロントドアを閉じたとき
- コンビネーションスイッチが ― の位置のときも、停車時および低速走行時のワイパーの作動は、レインセンサーにより自動調整されます。
- ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。

ワイパーを1回だけ作動させる(ティップ機能)

▶ コンビネーションスイッチを矢印①の方向に軽く押します。

ワイパーが1回だけ作動します(ウォッシャー液は噴射しません)。

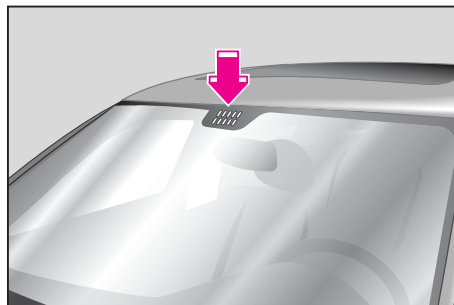
この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

ウインドウウォッシャーを噴射する

▶ エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、コンビネーションスイッチを矢印①の方向に押し続けます。

その間ウォッシャー液が噴射し、ワイパーも作動します。

知　識

冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

レインセンサー

フロントウインドウの図の位置にレインセンサーがあります。

注　意！

レインセンサー部にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正しく機能しなくなります。

ヘッドランプウォッシャー

エンジンがかかっていてヘッドランプが点灯しているときに、ウインドウウォッシャーを約5回操作すると、ヘッドランプウォッシャーが自動的に作動します。

知　識

- エンジンを停止するか、ヘッドランプを消灯させると、ウインドウウォッシャーを作動させた回数はリセットされます。
- 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

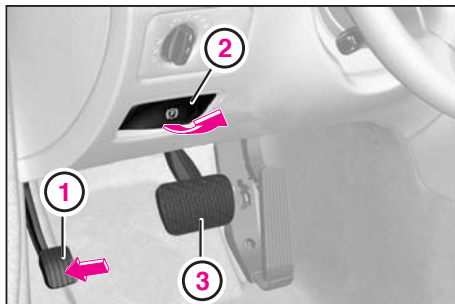
注　意！

ヘッドランプは樹脂製レンズを使用しているので、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

注　意　!

- ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。
- フロントウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを **0** の位置にしてください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。
- フロントウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。

  フロントウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャー液を噴射してから使用してください。
- エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチを **0** の位置に戻してください。コンビネーションスイッチが **—** ～ **=** の位置のままエンジンスイッチを**1**の位置にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。
- エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときにコンビネーションスイッチを **···** か **····** の位置にすると、フロントウインドウが乾いていても、ワイパーが1回作動します。
- ワイパーを使用する必要がないときは、必ずコンビネーションスイッチを **0** の位置にしてください。フロントウインドウの汚れや光線の乱反射などでレインセンサーが誤作動し、フロントウインドウが濡れていないときでもワイパーが作動することがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- 寒冷時にはワイパーがガラスに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。
- 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

パーキングブレーキ

左ハンドル車
① パーキングブレーキペダル
② 解除ハンドル
③ ブレーキペダル

パーキングブレーキを効かせる

▶ 右足でブレーキペダル③を踏み、左足でパーキングブレーキペダル①をいっぱいまで踏み込みます。

エンジンがかかっているときは、メーターパネルのブレーキ警告灯 (!) が点灯します。

パーキングブレーキを解除する

▶ ブレーキペダル③をいっぱいまで踏みながら、解除ハンドル②を手前に引きます。

エンジンがかかっているときは、メーターパネルのブレーキ警告灯 (!) が消灯します。

知　識

パーキングブレーキを解除せずに走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

警　告

- 子供だけを残して車から離れないでください。パーキングブレーキを解除して車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。
- パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

注　意　！

- パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。
- 急な坂道に駐車するときは、後輪の下り側に輪止めをしてください。さらに前輪を歩道方向に向けてください。

ブレーキ

警　告

- 長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり停車できなくなるおそれがあります。
- ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

注　意　！

- ブレーキが過熱している状態では、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。
- 水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

知　識

長い急な下り坂では、ティップシフトで低いギアレンジを選択して、エンジンブレーキを効かせてください。ブレーキの過熱や過度の摩耗を防ぐことができます。

- 急ブレーキなどでブレーキに大きな負担をかけた後は、ブレーキディスクが冷えるまでしばらく走行を続けてください。
- 高速道路を走行しているときなどブレーキをかけずに長時間走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、時々ブレーキを効かせてください。

(!) ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後もパーキングブレーキを効かせているときは、点灯したままになります。

パーキングブレーキを解除しても消灯しないときや、エンジンがかかっているときに点灯したときは、ブレーキ液が不足しています。安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

注　意　!

マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（**10-9、10**）をご覧ください。

EBV

EBV(エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション)は、後輪のブレーキ圧を検知し、ブレーキ時の車両操縦性と走行安定性を確保しようとするシステムです。

警　告

EBVに異常があるときも通常のブレーキは作動しますが、後輪がロックするおそれがあります。路面の状況にあわせて慎重に運転してください。

CLS 63 AMGのブレーキの注意事項

CLS 63 AMGの高性能ブレーキシステムは、走行速度やブレーキペダルの踏力、気温や湿度などの外気環境により、ブレーキノイズを発生することがあります。

また、CLS 63 AMGのブレーキパッドやブレーキディスクなどブレーキシステムを構成する部品は、運転スタイルや走行状況に応じて摩耗度合いが異なってきます。走行距離は摩耗度合いを測る目安にはなりません。負荷の高い運転を行なったときは、摩耗度合いは高くなります。

注　意　!

- CLS 63 AMGのブレーキパッドは、目安として走行距離が数百kmを超えるまでは制動能力を完全には発揮できません。この期間は、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。また、ブレーキパッドの交換を行なったときも、目安として走行距離が交換時から数百kmを超えるまでは注意してください。
- CLS 63 AMGのブレーキシステムに高い負荷を与えるような走行をした後は、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両の操縦を確保する装置です。

警　告

- ABSはブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。
  ABSが適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。
  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

注　意　！

- ABSは制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABSを装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。
  - ◇ 雪の積もった路面や凍結した路面
  - ◇ 砂利道などの荒れた路面
  - ◇ 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
  - ◇ スノーチェーン装着時
- ABSに異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにABSに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-3）をご覧ください。

ABS

知　識

- ABSは速度が約8km/hを超えると作動できるようになります。
- ABSに異常があると、ESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されることがあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- バッテリー電圧が低下するとABSが一時的に機能を停止します。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。

ABSの作動

- ABSが作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。そのままペダルを踏み続けてください。
- エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

注　意　！

- 軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでもABSが作動するときは、路面が滑りやすくなっています。十分注意して走行してください。
- ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなることがあります。

(ABS) ABS警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときは、ABSに異常があります。

通常のブレーキ時の制動力は確保されますが、以下のようなシステムなども正しく作動しなくなるおそれがあります。

- ABS
- BAS
- ESP
- EBV
- PRE-SAFE

いつもより慎重に運転し、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

BAS

BAS(ブレーキアシスト)は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BASの操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが感知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

BASはブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

警 告

- BASは緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BASが作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BAS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

知 識

- BASに異常があると、ABSも正しく作動しなくなることがあります。
- BASに異常があるときは、マルチファンクションディスプレイにABSまたはESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されます。
- バッテリー電圧が低下するとBASが一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

注 意 !

- BASに異常があるときも通常のブレーキは作動しますが、緊急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにABSまたはESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(10-3、5)をご覧ください。

ホールド機能

坂道での発進や信号待ちをしているときなどに、車が前進または後退することを防ぐ機能です。

ブレーキペダルを踏み続けたり、パーキングブレーキを効かせなくても、通常の路面で、停車した状態を維持することができます。

警　告

- 積雪路面や凍結路面、極端な急勾配の道路などタイヤが路面をグリップしない状況では、ホールド機能を使用しないでください。車が停止した状態を維持できません。
- ホールド機能使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- エンジンを停止するときや駐車するとき、車から離れるときは、必ずパーキングブレーキを効かせ、セレクターレバーを P に入れてください。
- ホールド機能はパーキングブレーキに代わるものではありません。絶対にパーキングブレーキとして使用しないでください。
- ホールド機能が作動している状態で車から降りないでください。他の乗員がペダルなどに触れることにより車が動き出すおそれがあります。
- ホールド機能は、車外から、または運転者以外の同乗者が操作したり解除しないでください。

注　意　！

- ホールド機能が作動しているときは、車にブレーキがかけられています。けん引や洗車機での洗車などで車を動かすときは、ホールド機能を解除してください。
- マルチファンクションディスプレイにホールド機能に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-6、7）をご覧ください。

ホールド機能の作動条件

ホールド機能は、以下のときに作動させることができます。

- 停車しているとき
- エンジンがかかっているとき
- 運転席ドアを閉じているとき
- パーキングブレーキが解除されているとき
- ボンネットのロックが解除されていないとき
- セレクターレバーが D 、 N 、 R のいずれかに入っているとき

ホールド機能を作動させる

▶ ホールド機能の作動条件を確認します。

▶ ブレーキペダルを意識的に素早く深く踏み込みます。

メーターパネルに HOLD が表示されます。

表示されないときは、ブレーキペダルを少し戻して、再度意識的に素早く深く踏み込みます。

ホールド機能が作動します。

ブレーキペダルから足を放しても停車したままになります。

注　意　！

車種や仕様により、以下のときにホールド機能を作動させようとすると、マルチファンクションディスプレイに数秒間、"ｻﾄﾞｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ" と表示されます。

- パーキングブレーキを効かせているとき
- ボンネットのロックが解除されているとき
- 運転席ドアが開いているとき

ホールド機能を解除する

以下のいずれかの操作をすると、ホールド機能は解除され、メーターパネルの HOLD が消灯します。

- セレクターレバーが D または R に入っているときに、アクセルペダルを踏んだとき
- セレクターレバーを P に入れたとき
- ブレーキペダルを再度踏んだとき

警　告

以下のときは、ホールド機能が解除され、車が動きだすおそれがあります。

- アクセルペダルを踏んだときや、ブレーキペダルを再度踏んだとき
- システムまたは電力供給に異常(バッテリーあがりなど)があるとき
- バッテリーの接続が断たれたとき
- エンジンルームの電気システムやヒューズなどが変更されたとき

注　意　!

- ホールド機能を解除したときは、車の動きに十分注意してください。
- セレクターレバーを P に入れてホールド機能を解除したときは、パーキングブレーキを効かせるかブレーキペダルを踏んで、確実に停車してください。

知　識

- セレクターレバーが N に入っているときにアクセルペダルを踏んでも、ホールド機能は解除されません。
- ホールド機能が作動して停車しているときにパーキングブレーキを効かせても、ホールド機能は解除されません。

ホールド機能の警告

ホールド機能が作動しているときに、ブレーキペダルを深く踏み込まずに以下の操作をすると、警告が行なわれます。

- ボンネットのロックを解除したとき

  このときはマルチファンクションディスプレイに "ｾﾚｸﾀ ﾚﾊﾞ- Ｐ ﾆ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と警告メッセージが表示されるとともに、ホーンが鳴ります。

- エンジンスイッチを**0**か**1**の位置にしたとき

  このときはマルチファンクションディスプレイに "ｾﾚｸﾀ ﾚﾊﾞ- Ｐ ﾆ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と警告メッセージが表示されます。さらにこの状態で運転席ドアを開くか、ボンネットのロックを解除するとホーンが鳴ります。

  また、ホールド機能を解除するまで、エンジンを再始動することはできません。

- 運転席の乗員がシートベルトを着用していないときに運転席ドアを開くか、運転席ドアを開いて運転席の乗員がシートベルトを外したとき

  このときはマルチファンクションディスプレイに "ｾﾚｸﾀ ﾚﾊﾞ- Ｐ ﾆ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と警告メッセージが表示されます。さらにこの状態でエンジンスイッチを**0**か**1**の位置にするか、ボンネットのロックを解除するとホーンが鳴ります。

警告メッセージが表示されたり、ホーンが鳴ったときは、ただちにセレクターレバーを**Ｐ**に入れて、パーキングブレーキを確実に効かせてください。

ブレーキペダルを深く踏むことでも、警告メッセージは消えてホーンも鳴り止みますが、セレクターレバーの位置によっては車が動き出すおそれがあります。

注　意　！

ホールド機能を作動させているときに、システムまたは電力供給に異常(バッテリーあがりなど)が発生したときは、マルチファンクションディスプレイに"ｽｸﾞﾆ ﾌﾞﾚｰｷ ｦ ﾌﾝﾃﾞｸﾀﾞｻｲ!" と警告メッセージが表示されます。

このときは、ブレーキペダルをしっかり踏み込んでください。警告メッセージが消えます。

さらにセレクターレバーを**Ｐ**に入れてホールド機能を解除し、パーキングブレーキを効かせて確実に停車するとともに、指定サービス工場に連絡してください。

ESP®

ESP（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、個々の車輪に独立してブレーキをかけたり、エンジン出力を制御することによって、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

警　告 ⚠

- ESPは車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESPが作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ESP作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

注　意！

- 車輪を上げてけん引されるときは、エンジンスイッチを**2**の位置にしないでください。ESPが作動して、接地している車輪のブレーキが作動します。また、ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- ESPが故障すると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。
- マルチファンクションディスプレイにESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（**10-5**）をご覧ください。

知　識

- エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイにESPに関する警告メッセージが表示され、ESP表示灯やABS警告灯が点灯することがあります。

  このようなときは、安全な場所に停車して、エンジンスイッチを**0**の位置に戻し、エンジンを再始動してください。しばらく走行すると、メッセージや表示灯、警告灯は消灯します。
- ABS警告灯 が点灯しているときは、ESPも機能が解除されています。指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

- 指定のサイズで4輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESPが作動することがあります（走行中にESP表示灯が点滅したままになります）。
- ABSが故障したときは、ESPも機能が解除されます。

ESP表示灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

発進時または走行中に点滅したときは、ESPが作動しています。

ESPオフスイッチでESPの機能を解除（**5-46**）しているときは、点灯したままになります。

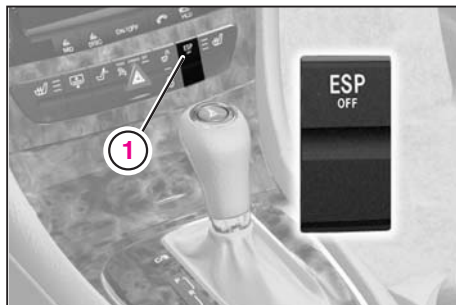
警　告

ESP表示灯が点滅したときは、車輪が空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ
- ESPの機能の解除

ESPオフスイッチ

警　告

- ESPオフスイッチでESPの機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。
  - ◇ 急ハンドル
  - ◇ 急ブレーキ
  - ◇ 急発進、急加速
  - ◇ 急激なエンジンブレーキ
- ESPの機能を解除する必要がなくなったときは、ESPを待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができません。

① ESPオフスイッチ

ESPオフスイッチは、ESPの機能を解除するためのスイッチです。

深い雪や砂、砂利などの上を走行するときや、スノーチェーンを装着しているときなどは、ESPの機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

ESPの機能を解除する

▶ エンジンがかかっているときに、ESPオフスイッチ①を押します。

ESPの機能が解除され、ESP表示灯が点灯したままになります。

ESPを待機状態にする

▶ エンジンがかかっているときに、再度ESPオフスイッチ①を押します。

ESPが待機状態になり、ESP表示灯が消灯します。

知　識

- エンジンを始動したとき、ESPは常に待機状態になります。
- ESPオフスイッチでESPの機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを感知すると、ESP表示灯が点滅しますが、ESPは作動しません。

  ただし、このときにブレーキを効かせたときは、ESPは自動的に作動します。

AIRマティックDCサスペンション＊

警　告

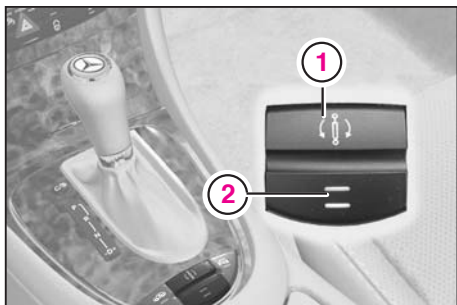
サスペンションモード選択スイッチや車高調整スイッチを操作するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。車高が変化するときに、身体を挟むおそれがあります。

AIRマティックDC(デュアルコントロール)サスペンションは、運転のスタイルや路面状況などに応じて、サスペンションや車高を最適な状態に自動調整します。

また、サスペンションモード選択スイッチで3種類のモードを選択したり、車高調整スイッチで車高を上げることもできます。

注　意　!

- 安全のため、スイッチの操作は停車中に行なってください。
- 連続して車高を上げたり下げたりしないでください。エアポンプの保護機能によって作動が停止することがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

サスペンション制御

① サスペンションモード選択スイッチ
② 表示灯

※CLS 63 AMGの、スポーツ1およびスポーツ2を選択したときのサスペンションの作動内容は右記とは異なりますが、数値は公表されていません。

※作動内容や数値は予告なく変更される場合があります。

運転スタイルや路面状況、荷物の積載状況によってサスペンションを自動制御します。

また、運転スタイルに合わせて、サスペンションモードを選択することができます。

サスペンションモードを選択する

エンジンがかかっているときに操作することができます。

▶ サスペンションモード選択スイッチ①を押します。

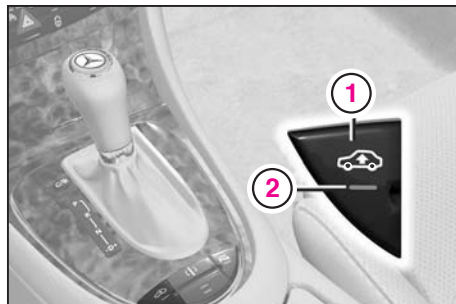
サスペンションモードがコンフォート→スポーツ1→スポーツ2→コンフォートと切り替わります。

点灯する表示灯の数	モード	作動内容
0	**コンフォート** 通常走行用	他のモードから切り替えたときは、マルチファンクションディスプレイに "AIRﾏﾃｨｯｸDC ｺﾝﾌｫｰﾄ" と約5秒間表示されます。
1	**スポーツ1** スポーティな走行用	他のモードから切り替えたときは、マルチファンクションディスプレイに "AIRﾏﾃｨｯｸDC ｽﾎﾟｰﾂ1" と約5秒間表示されます。 標準より約10mm低い車高になります。
2	**スポーツ2** よりスポーティな走行用	他のモードから切り替えたときは、マルチファンクションディスプレイに "AIRﾏﾃｨｯｸDC ｽﾎﾟｰﾂ2" と約5秒間表示されます。 標準より約15mm低い車高になります。

知　識

- エンジンスイッチからキーを抜いても、選択したサスペンションモードは記憶されています。
- エンジンスイッチを**2**の位置にすると、サスペンションモード選択スイッチの表示灯が2つ点灯します。エンジン始動後は、記憶されているモードに対応して、表示灯が点灯します。

※作動内容や数値は予告なく変更される場合があります。

車高の調整

① 車高調整スイッチ
② 表示灯

悪路を走行するときや、スノーチェーンを装着して走行するときは、車高調整スイッチで車高を上げます。

エンジンがかかっているときに操作することができます。

車高を上げる

▶ 車高調整スイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

マルチファンクションディスプレイに "ｼｬｺｳ ｶﾞ ｱｶﾞﾘﾏｽ" と表示されます。

車高を元に戻す

▶ 再度、車高調整スイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

選択されているサスペンションモードの車高に戻ります。

知　識

- 車高調整スイッチで車高を標準より上げたときは、走行速度が約120km/h以上の速度になるか、走行速度が約80～120km/hでの走行が約5分間続くと、マルチファンクションディスプレイに"ﾚﾍﾞﾙ ｾﾝﾀｸ ｼｮｳｷｮ"と表示され、標準の車高に戻ります。
- 上記の速度域で走行しなかったときは、エンジンスイッチからキーを抜いても、標準より高い車高のままになります。
- サスペンションモードがコンフォートの場合、約140km/h以上の速度になると標準より低い車高になります。
- エンジンスイッチを**2**の位置にすると、車高調整スイッチの表示灯が点灯します。エンジン始動後は、記憶されている車高に対応して、表示灯が点灯します。
- 車種や仕様により、サスペンションモードがコンフォートで、車高調整スイッチ①の表示灯②が消灯しているときは、エンジンを停止してリモコン操作で施錠したときに、標準より約10mm低い車高になることがあります。

  次にエンジンを始動したとき、標準の車高に戻ります。

注　意　!

マルチファンクションディスプレイに車高に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(**10-9**)をご覧ください。

※作動内容や数値は予告なく変更される場合があります。

クルーズコントロール

クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏まなくても、設定した速度を自動的に維持して走行できます。

設定できる速度は約30km/h以上です。

警　告

- 車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
  - ◇ 急な下り坂、急カーブ、曲がりくねった道路
  - ◇ 加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路
  - ◇ 雨で濡れた路面や積雪路、凍結路などの滑りやすい路面
  - ◇ 降雨時や降雪時、濃霧時など視界が確保できない場合

注　意　!

- クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。
- 指定のサイズで4輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-7）をご覧ください。
- 急な上り坂では、クルーズコントロールが速度を維持するためにシフトダウンすることがありますが、設定した速度を維持できないときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

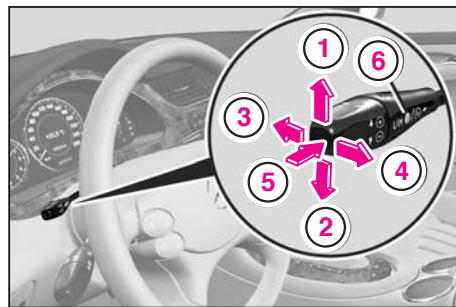
クルーズコントロール

注　意　！

急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

ただし、路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

クルーズコントロールの使いかた

左ハンドル車
①〜⑤ レバーの操作方法
⑥ 表示灯

可変スピードリミッター（5-69）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときに、クルーズコントロールを操作できます。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯⑥が消灯し、クルーズコントロールを操作できる状態に切り替わります。

クルーズコントロールを設定する

▶ レバーの表示灯⑥が消灯していることを確認します。

点灯しているときは、レバーを⑤の方向に押して、表示灯を消灯させます。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを①または②の方向に操作します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

- 速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

⑦ クルーズコントロール
インジケーター

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

また、クルーズコントロールインジケーター⑦の設定速度より上の部分が点灯し、マルチファンクションディスプレイに設定速度と "クルーズコントロール" が数秒間表示されます。

警　告

記憶されている速度に設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速して事故を起こすおそれがあります。

クルーズコントロール

知　識

- クルーズコントロールインジケーターの目盛りは5km/h刻みです。
- クルーズコントロールの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。
- 約30km/h以下の速度で走行しているときやESPオフスイッチでESPの機能を解除してあるときはクルーズコントロールを設定することはできません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間表示されます。

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に上げ続けると加速します。

希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを②の方向に下げ続けると減速します。

希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

知　識

- レバーを①か②の方向にごく短時間操作すると、1km/h単位で速度の設定ができます。
- レバーを②の方向に下げて減速しているときには、シフトダウンしたり、自動的にブレーキを効かせることがあります。

一時的に速度を上げる

▶ 追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。

アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

クルーズコントロールを解除する

▶ レバーを③の方向に押します。

次の操作をしたときも解除されます。

- ブレーキペダルを踏んだとき
- レバーを⑤の方向に押したとき **(5-52)**

  レバーの表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

クルーズコントロールが解除されると、スピードメーターのクルーズコントロールインジケーターがすべて消灯します。

知　識

- クルーズコントロールを解除する前の設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを一度**0**か**1**の位置にすると、記憶された速度は消去されます。
- クルーズコントロールは以下のとき自動的に解除されます。

  ◇ 走行速度が約30km/h以下になったとき

  ◇ ESPが作動したとき

  ◇ ESPオフスイッチでESPの機能を解除したとき

  ◇ セレクターレバーを N に入れたとき

  このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾌ"と数秒間表示されます。

  また、パーキングブレーキを効かせたときもクルーズコントロールは解除されます。

警　告

走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

ディストロニック＊

ディストロニックは、設定した速度を自動的に維持して走行するクルーズコントロール機能に、センサーによる車間距離感知機能と車間距離警報、自動ブレーキ機能を組み合わせたシステムです。

先行車を感知すると、設定した速度から自動的に速度の調整を行ないながら、車間距離を維持するように走行します。

設定できる速度は約30km/hから約180km/hの間です。

知　識

- 前方に車両がいないときは、ディストロニックはクルーズコントロール（**5-51**）と同じ働きをします。
- ディストロニックが自動的にブレーキを効かせたときは、ブレーキランプも点灯します。

警　告

- ディストロニックは先行車への追突を回避するような自動操縦システムではありません。
- 車の走行速度や先行車との車間距離の確保、適切なブレーキ操作など、ディストロニック使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- ディストロニックによるブレーキは最大制動力の約20%程度のため、運転者はこのシステムだけに頼らず、常に先行車との車間距離や周囲の状況を確認し、必要に応じてブレーキを操作してください。
- 積雪路や凍結路など滑りやすい路面では、ディストロニックを使用しないでください。車のコントロールを失い事故を起こすおそれがあります。
- ディストロニックは、以下のようなものには反応しません。

  ディストロニックを使用しているときも、常に周囲の状況に注意を払ってください。

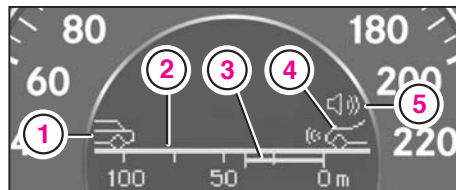
  ◇ 歩行者
  ◇ 停車中の車両
  ◇ 対向車
  ◇ 道路を横切る車両
  ◇ オートバイなど横幅の狭い車両
  ◇ 異なる車線を走行している車両

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

- 以下のような場合はディストロニックを使用しないでください。急加速して先行車との車間距離を維持できず、事故を起こすおそれがあります。
  - ◇ 急な下り坂や急カーブ、曲がりくねった道路を走行するとき
  - ◇ ETCゲートを通過するとき
  - ◇ 走行速度の速い車線に車線変更するとき
  - ◇ 交通量の多い道路や、工事中区間など頻繁に車線変更を行なう区間を走行するとき
- みぞれやひょう、霧や豪雨、吹雪などの悪天候のときや、ディストロニックセンサーが汚れているときは、ディストロニックを使用しないでください。先行車との車間距離を正確に計測できず、事故を起こすおそれがあります。

注 意 !

- マルチファンクションディスプレイにディストロニックに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-4）をご覧ください。
- ディストロニックは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。
- 長い下り坂などでは、ティップシフトで低いギアレンジを選択して、エンジンブレーキの効きを強くして走行してください。ただし、路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

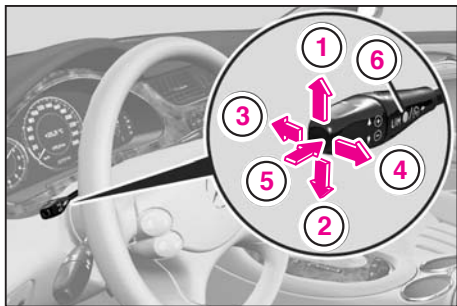
車間距離表示画面

① 先行車（先行車を感知した場合）
② 先行車と自車とのおよその車間距離
③ 設定した車間距離
④ 自車
⑤ 車間距離警告音表示

マルチファンクションディスプレイに車間距離表示画面を表示させると（4-21）、先行車との距離などを表示することができます。

知 識

- 車間距離表示画面は、ディストロニックを解除しているときも表示させることができます。
- 道路や交通の状況により、先行車との距離を正確に表示できないことがあります。

5

ディストロニックの使いかた

①〜⑤ レバーの操作方法
⑥ 表示灯

可変スピードリミッター（5-69）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときに、ディストロニックを操作できます。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯⑥が消灯し、ディストロニックを操作できる状態に切り替わります。

ディストロニックを設定する

▶ レバーの表示灯⑥が消灯していることを確認します。

　点灯しているときは、レバーを⑤の方向に押して、表示灯を消灯させます。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを①または②の方向に操作します。

　そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

- 速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

先行車がいるときは、設定した車間距離（5-63）を維持するように、速度を調整しながら走行します。

⑦ ディストロニックインジケーター

また、ディストロニックインジケーター⑦の設定速度の手前1個または前後2個の部分が点灯し、マルチファンクションディスプレイに設定速度と設定車間距離が数秒間表示されます。

マルチファンクションディスプレイに車間距離表示画面を表示していないときは、マルチファンクションディスプレイに車間距離表示画面が数秒間表示されます。

車間距離表示画面を表示させるには（4-21）をご覧ください。

知 識

ディストロニックは以下のときには設定することはできません。このときは、設定速度に "---km/h" が数秒間表示されます。

- 走行速度が約30km/h以下のときや約180km/h以上のとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- パーキングブレーキを効かせているとき
- ESPオフスイッチでESPの機能を解除しているとき
- セレクターレバーが P 、 N 、 R に入っているとき

また、エンジンを始動してから約2分間経過していないときは、設定できないことがあります。

- ディストロニックの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

警　告

記憶されている速度に設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速して事故を起こすおそれがあります。

設定速度を変更する

▶ レバーを①の方向に操作します。

設定速度が10km/h単位で上がります。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

設定速度が1km/h単位で上がります。

または

▶ レバーを②の方向に操作します。

設定速度が10km/h単位で下がります。

注　意 !

設定速度を上げるときは、周囲の状況に注意してください。レバーから手を放した後も、設定した速度と車間距離に到達するために車が加速します。

知　識

設定速度を下げているときに、自動的にブレーキを効かせたり、シフトダウンすることがあります。

一時的に速度を上げる

▶ 追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。

アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

知　識

ディストロニック作動中にアクセルペダルを踏んで速度を上げると、マルチファンクションディスプレイに"DTR ﾊﾟｯｼﾌﾞ"と表示され、ディストロニックによる速度調整が一時的に解除されます。

ディストロニックを解除する

▶ レバーを③の方向に押します(**5-58**)。

または

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを⑤の方向に押します(**5-58**)。

レバーの表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

ディストロニックが解除されると、マルチファンクションディスプレイに"DTR オフ" と数秒間表示されます。

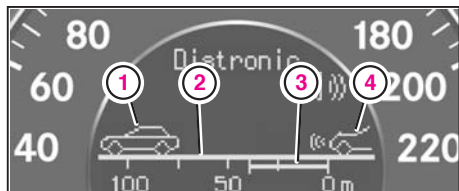
知　識

- ディストロニックを解除する前の設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを一度**0**か**1**の位置にすると、記憶された設定速度は消去されます。
- ディストロニックは以下のとき自動的に解除されます。
  - ◇ パーキングブレーキを効かせたとき
  - ◇ 走行速度が約30km/h以下になったとき
  - ◇ ESPが作動したとき
  - ◇ ESPオフスイッチでESPの機能を解除したとき
  - ◇ セレクターレバーを**N**に入れたとき

  このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "DTR オフ" と数秒間表示されます。

警　告

- 以下のようなときはディストロニックを解除してください。
  - ◇ 急な下り坂や急カーブ、曲がりくねった道路にさしかかったとき
  - ◇ 設定速度よりも低い速度で走行している先行車への追従走行から、車線を変更するとき
  - ◇ 合流車線や分岐車線を走行するとき

  これらの場合にディストロニックを作動させていると、設定した速度までシステムが自動的に加速・減速を行ない、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中はセレクターレバーを**N**に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

先行車を感知したとき

① 先行車（先行車を感知した場合）
② 先行車と自車とのおよその車間距離
③ 設定した車間距離
④ 自車

前方に走行している車を感知すると、車間距離表示画面に先行車①が表示されます。

自車の走行速度より遅い速度で走行しているときは、車間距離が詰まるにつれ、先行車の表示が左から右へ移動します。

設定した車間距離に達すると、先行車への追従走行を開始します。

車間距離の設定

先行車との車間距離を1秒から2秒の範囲で設定することができます。

車間距離の1秒間とは、ある速度のとき1秒間で走行する距離のことで、約100km/hで走行しているときの1秒の車間距離は約28mになります。

設定した車間距離はマルチファンクションディスプレイに表示されます。

① 車間距離を短くする
② 車間距離調整ダイヤル
③ 車間距離を長くする

車間距離を長くする

▶ ダイヤル②を③の方向にまわします。

車間距離を短くする

▶ ダイヤル②を①の方向にまわします。

走行速度と車間距離の関係

走行速度（km/h）	設定できる車間距離（m）
40	11～22
60	17～33
80	22～44
100	28～56

※車間距離はおよその距離です

知　識

設定される車間距離は走行速度によって変わります。

警　告

車間距離を設定するときは、先行車との安全が確保できる距離に設定してください。先行車が急ブレーキをかけたときなどに、事故を起こすおそれがあります。

車間距離警告

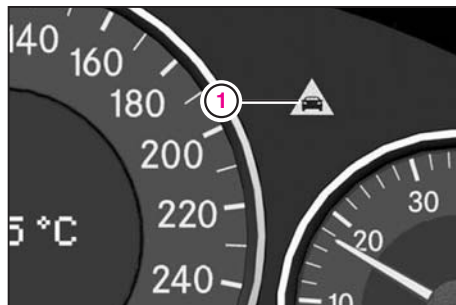
ディストロニックが作動しているとき、先行車に近付きすぎると、車間距離警告灯と車間距離警告音による警告が行なわれ、運転者にブレーキ操作を促します。

知　識

- 道路幅の狭い道やカーブなどを走行しているときは、車道脇に設置された静止物やガードレールのリフレクターなどを感知して、車間距離警告音が鳴ることがあります。
- 減速が必要なときは、必ずブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択してエンジンブレーキの効きを強くしてください。

警　告

- 走行中に車間距離警告灯が赤色に点灯して、車間距離警告音が鳴ったときは、大幅な減速が必要になります。ブレーキペダルを踏んで減速するか、回避操作を行なってください。前車や前方の障害物に衝突するおそれがあります。
- 車間距離警告灯が頻繁に点灯したり、車間距離警告音が鳴るようなときは、ディストロニックを使用しないでください。
- 周囲の状況によっては、先行車がいても車間距離警告が行なわれなかったり、先行車がいないときに車間距離警告が行なわれることがあります。運転者は車間距離警告だけに頼らず、常に先行車との車間距離や周囲の状況を確認し、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。

車間距離警告灯

① 車間距離警告灯

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

走行中は、先行車に近付きすぎたときや他車が割り込んできたときなど、先行車との車間距離が短くなり、大幅な減速が必要なときに点灯します。また、車間距離警告音による警告も行なわれ、運転者にブレーキ操作を促します。

車間距離警告音の設定

① 車間距離警告音スイッチ
② 表示灯

車間距離警告音を解除することができます。

車間距離警告音を解除する

▶ 車間距離警告音スイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

また、マルチファンクションディスプレイの車間距離表示画面の車間距離警告音表示（5-57）が消灯します。

車間距離警告音を設定する

▶ 再度、車間距離警告音スイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

また、マルチファンクションディスプレイの車間距離表示画面の車間距離警告音表示（5-57）が点灯します。

注　意　!

車間距離警告音を解除すると、先行車に近付きすぎても、車間距離警告灯（5-64）による警告しか行なわれません。

車間距離警告音を設定して走行してください。

知　識

- ディストロニックを解除しているときでも、先行車との車間距離は測定されています。先行車に近付きすぎると、車間距離警告灯と車間距離警告音による警告を行ないます。

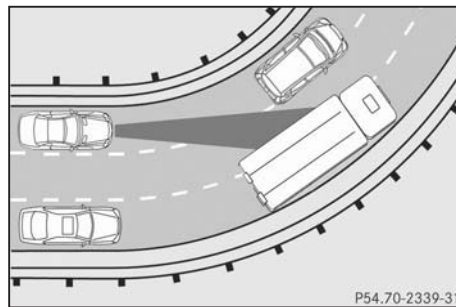
  ただし、車間距離警告音を解除しているときは、車間距離警告音は鳴りません。

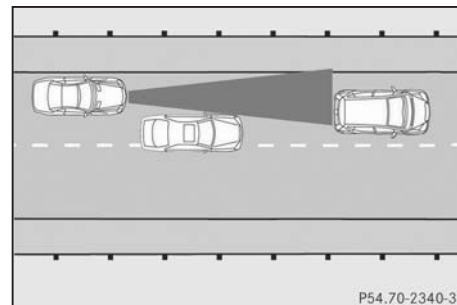
- 道路や交通の状況により、ディストロニックが先行車との距離を正確に認識できない場合があります。

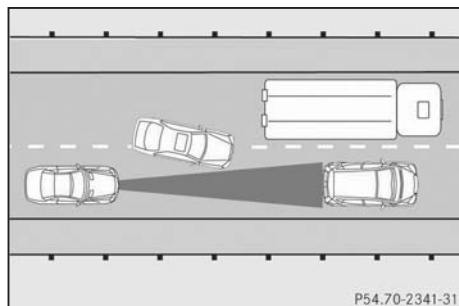
ディストロニックを使って走行するときの注意

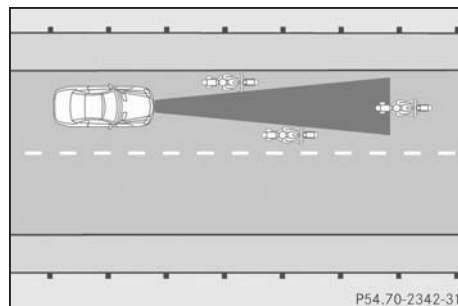
ディストロニックを使用するときに、特に注意が必要な道路と交通の状況を以下に記載しています。

このような状況下では、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。ディストロニックが解除されます。

カーブを走行するときやカーブに入るとき、カーブを抜けるとき

カーブでは、ディストロニックが先行車を感知できなかったり、感知が早すぎることがあります。その結果、車が加速したり、ブレーキを効かせることがあります。

異なるライン上を走行しているとき

ディストロニックは、同一車線でも異なるライン上を走行している先行車を感知できないことがあります。その結果、先行車に接近しすぎることがあります。

先行車との間に割り込みがあったとき

前方に割り込んできた車がディストロニックの感知範囲内に入らないことがあります。その結果、割り込んできた車に接近しすぎることがあります。

先行車の横幅が狭いとき

ディストロニックは、同一車線の端を走行している横幅の狭い先行車（オートバイなど）を感知できないことがあります。その結果、先行車に接近しすぎることがあります。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターは、制限速度を設定すると、アクセルペダルを踏み込んでいても、設定した速度を超えないように走行することができます。

設定できる制限速度は30km/hから210km/hまたは250km/hまでの間です。

ただし、車の最高速度以上に制限速度を設定しても、車の最高速度以上の速度で走行することはできません。

※車種や仕様により設定できる制限速度が異なる場合があります。

警　告

- 走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した制限速度を伝えてください。

  可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。
- 可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。
- 可変スピードリミッターは設定した制限速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

注　意！

- 可変スピードリミッターの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。
- マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**（10-7）**をご覧ください。

注　意　！

急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

ただし、路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

知　識

- ウィンタータイヤスピードリミッター（4-41）を設定しているときは、可変スピードリミッターで設定できる制限速度は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度が上限になります。
- 設定した速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ﾘﾐｯﾄ ｺｴﾏｼﾀ!"と表示されることがあります。

可変スピードリミッターの使いかた

左ハンドル車
①～⑤ レバーの操作方法
⑥ 表示灯

クルーズコントロール（5-52）、ディストロニック＊（5-58）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときに、可変スピードリミッターを操作できます。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときは、クルーズコントロールまたはディストロニックを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

可変スピードリミッターを設定する

▶ レバーの表示灯⑥が点灯していることを確認します。

消灯しているときは、レバーを⑤の方向に押して、表示灯を点灯させます。

▶ レバーを①か②の方向に操作します。

- 走行速度が約30km/h以上のときは、そのときの速度に設定されます。
- 走行速度が約30km/h以下のときは、30km/hに設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

- 設定速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 設定速度が記憶されていなく、走行速度が約30km/h以上のときは、そのときの速度に設定されます。
- 設定速度が記憶されていなく、走行速度が約30km/h以下のときは、30km/hに設定されます。

⑦ 可変スピードリミッターインジケーター

可変スピードリミッターが設定され、可変スピードリミッターインジケーター⑦の設定速度より下の部分が点灯します。また、マルチファンクションディスプレイに設定速度と "リミット" が数秒間表示されます。

知　識

- 可変スピードリミッターインジケーターの目盛りは5km/h刻みです。
- アクセルペダルを踏んでキックダウンしているときは、可変スピードリミッターを設定することはできません。

注　意　！

可変スピードリミッターを設定するときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

設定速度を変更する

▶ レバーを①の方向に操作します。

設定速度が10km/h単位で上がります。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

設定速度が1km/h単位で上がります。

または

▶ レバーを②の方向に操作します。

設定速度が10km/h単位で下がります。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを③の方向に押します。

または

▶ レバーを⑤の方向に押します。

レバーの表示灯⑥が消灯し、クルーズコントロールまたはディストロニック＊を操作できる状態に切り替わります。

知 識

- 可変スピードリミッターを解除する前の設定速度は記憶されます。ただし、エンジンスイッチを一度0か1の位置にすると、記憶された速度は消去されます。
- 次の操作をしたときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

◇ アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき

このときは確認音が鳴ります。

ただし、設定速度より約20km/h以上低い速度までは、一時的にキックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。

◇ エンジンを停止したとき

注 意 ！

可変スピードリミッターを解除しても、設定速度は記憶されています。記憶されている速度が走行速度よりも低い場合、記憶されている速度に再度設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

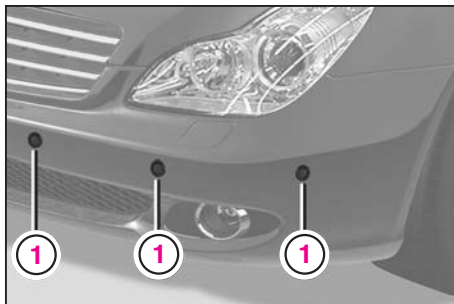
＊オプションまたは仕様により装備が異なります

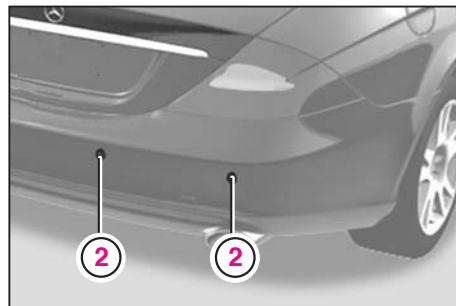
パークトロニック

パークトロニックは、フロントとリアのバンパーにあるセンサーで障害物などを感知し、車と障害物とのおよその距離を、インジケーターと警告音で運転者に知らせます。

注 意 !

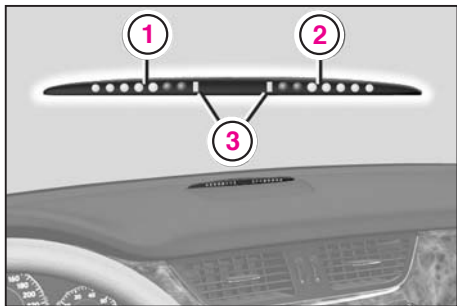
パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックセンサー

フロント
① センサー

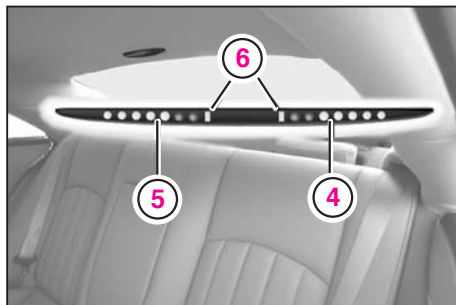
フロントバンパーの6個のセンサー①とリアバンパーの4個のセンサー②が車の周辺の障害物などを感知します。

リア
② センサー

注 意 !

センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着したときは、赤色インジケーターが点灯して、約20秒後にパークトロニックが停止します。センサーに損傷を与えないよう注意して、定期的に清掃（8-31）をしてください。

パークトロニック

インジケーター / 作動表示灯

フロント
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ フロント作動表示灯

フロントのインジケーターと作動表示灯はダッシュボード上の図の位置にあります。

リア
④ 左側インジケーター
⑤ 右側インジケーター
⑥ リア作動表示灯

リアのインジケーターと作動表示灯はルーフ後方の図の位置にあります。

バンパーと障害物などとのおよその距離を、インジケーターの点灯数で示します。

注 意 ！

システムに異常があるときは、赤色インジケーターが点灯して警告音が鳴り、約30秒後にパークトロニックが停止することがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

知 識

エンジンスイッチを**2**の位置にすると、すべてのインジケーターと作動表示灯が一瞬点灯します。

パークトロニックの作動条件

エンジンスイッチが2の位置でパーキングブレーキが解除されているとき、シフト位置に応じて以下のように作動します。

シフト位置	作動内容
D	フロントのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯③が点灯します。
R N	フロントとリアのセンサーが作動し、フロントとリアの作動表示灯③⑥が点灯します。
P	パークトロニックは作動しません。

知　識

- パークトロニックが作動したとき、センサーの感知範囲に障害物などがあると、その距離に応じてインジケーターが点灯し、警告音も鳴ります。
- パークトロニックは、速度が約17km/h以下のときに作動します。速度が約17km/h以上になると作動を停止します。

パークトロニックの作動

センサー感知範囲に障害物が入ったとき

センサー感知範囲（5-77）に障害物が入ると、黄色インジケーターが1個点灯します。

障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

障害物との距離が近くなったとき

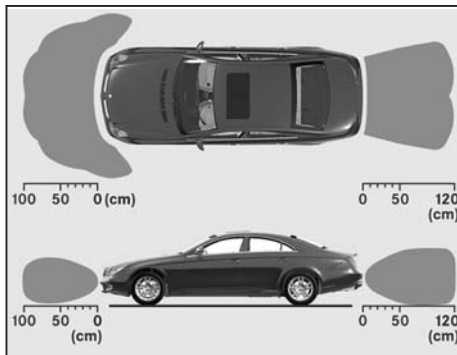
障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色インジケーターに加えて1個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が断続的に約3秒間鳴ります。

最短感知距離（約20～15cm）になると、上記のインジケーターに加えて2個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に約3秒間鳴ります。

注　意！

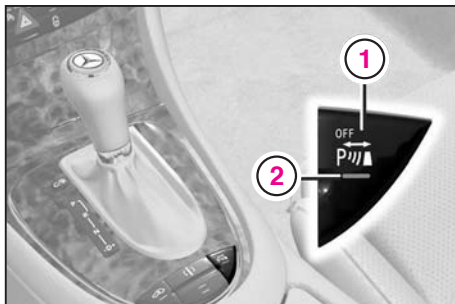
障害物との距離がセンサーの最短感知距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなかったり、正常に作動しなくなることがあります。

また、点灯していたインジケーターが消灯することがあります。

センサーの感知範囲

フロントバンパー側	センサー感知範囲
センター	約100cm～20cm
コーナー	約60cm～15cm

リアバンパー側	センサー感知範囲
センター	約120cm～20cm
コーナー	約80cm～15cm

注 意！

- 車のセンターでバンパーから約20cm以内、コーナーでバンパーから約15cm以内にある障害物は感知できません。
- センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。
- 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離内にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。
- センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。
- 電波を発する物が近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正しく作動しないことがあります。
- 大型車の排気ブレーキや工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。
- 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックオフスイッチ

① パークトロニックオフスイッチ
② 表示灯

パークトロニックの作動を停止することができます。

パークトロニックの作動を停止する

▶ エンジンスイッチが**2**の位置のときに、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

パークトロニックを作動させる

▶ 再度、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

注　意　！

システムに異常があるときは、赤色インジケーターが点灯して警告音が鳴り、約30秒後にパークトロニックが停止することがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

知　識

パークトロニックオフスイッチで作動を停止しても、次にエンジンスイッチを**2**の位置にしてパーキングブレーキを解除したとき、パークトロニックは自動的に作動します。

エアコンディショナー

エアコンディショナーは、設定温度や外気温度、日射の強さなどに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

環　境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒R134aを使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ず指定サービス工場で行なってください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

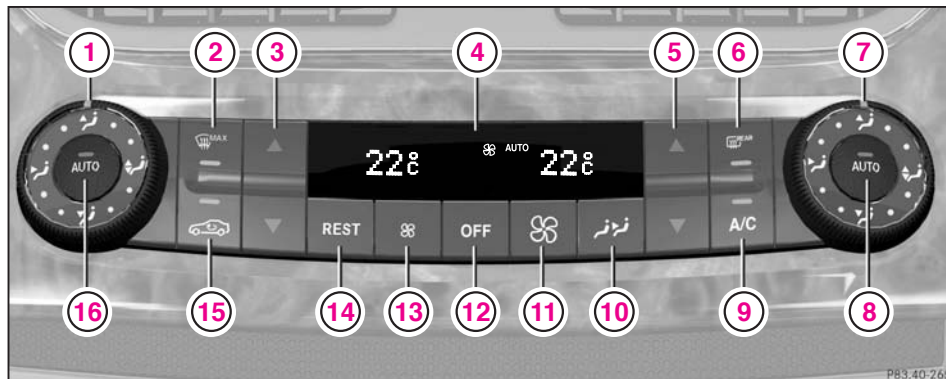
注　意　！

- 送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になることがあります。火傷をするおそれがありますので十分に注意してください。
- 送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。
- 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。
- 車内が高温になっているときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。
- ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。
- 送風口や車内の吸排気口が覆われないようにしてください。

知　識

- 除湿された水分は車体下方に排水されます。
- ドアウインドウやスライディングルーフ＊が開いていると、設定温度を維持することができません。
- ドアウインドウやスライディングルーフ＊が閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。
- 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。
- エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。
- エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

  フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減少します。

コントロールパネル

①	送風口選択ダイヤル（左側）
②	デフロスタースイッチ
③	送風温度調整スイッチ（左側）
④	ディスプレイ
⑤	送風温度調整スイッチ（右側）
⑥	リアデフォッガースイッチ
⑦	送風口選択ダイヤル（右側）
⑧	AUTOスイッチ（右側）
⑨	ACスイッチ
⑩	リアエアコンディショナーコントロールスイッチ
⑪	送風量調整スイッチ（強）
⑫	オフスイッチ
⑬	送風量調整スイッチ（弱）
⑭	余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑮	内気循環スイッチ
⑯	AUTOスイッチ（左側）

※ エアコンディショナーのスイッチ類の絵柄などは、イラストと異なる場合があります。

通常の使いかた（AUTOモード）

⑧ AUTOスイッチ（右側）
⑯ AUTOスイッチ（左側）
⑰ AUTOインジケーター

エアコンディショナーを作動させる

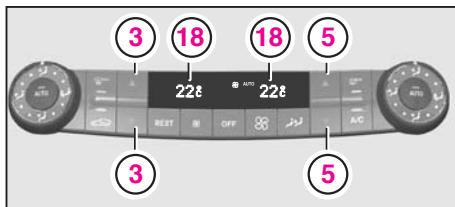
▶ AUTOスイッチ⑧または⑯を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、ディスプレイにAUTOインジケーター⑰が表示されます。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

知　識

- オフスイッチや送風口選択ダイヤル、送風温度調整スイッチ、送風量調整スイッチなどを押してもエアコンディショナーは作動を開始します。
- AUTOモードでエアコンディショナーを作動させると、自動的にACモード **（6-6）** に設定されます。

送風温度の調整

③ 送風温度調整スイッチ（左側）
⑤ 送風温度調整スイッチ（右側）
⑱ 送風温度表示

送風温度を上げる

▶ 送風温度調整スイッチ③または⑤の上側を押します。

送風温度表示⑱の数字が上がります。

送風温度を下げる

▶ 送風温度調整スイッチ③または⑤の下側を押します。

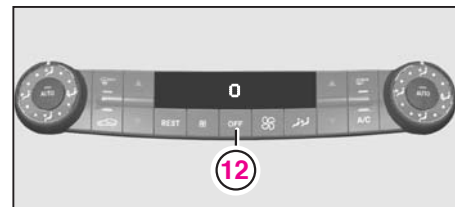
送風温度表示⑱の数字が下がります。

注 意！

フロントアームレストの小物入れは、フロントおよびリアエアコンディショナーの設定により高温になります。ガスライターやボンベ、熱に弱いものなどが入っているときは、爆発したり、溶けて変形するおそれがありますのでアームレストへの送風を停止してください(6-30)。

知 識

- 送風温度は左右別々に設定できます。
- 通常は22℃に設定することをお勧めします。

エアコンディショナーの停止

⑫ オフスイッチ

エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ⑫を押します。

ディスプレイに "0" が表示され、エアコンディショナーが停止します。

知 識

ドアウインドウやスライディングルーフ＊が閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ACモード

⑨ ACスイッチ

ACモードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

AUTOモードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的にACモードになり、スイッチの表示灯が点灯します。

ACモードを解除する

▶ ACスイッチ⑨を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

ACモードを設定する

▶ 再度、ACスイッチ⑨を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、除湿 / 冷房された空気が送風されます。

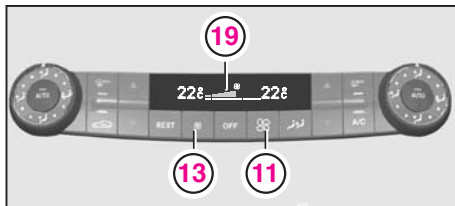
環　境

ACモードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

知　識

- 除湿 / 冷房はエンジンがかかっているときに行なわれます。
- ドアウインドウとスライディングルーフ＊が閉じているときにACモードを解除すると、ウインドウが曇りやすくなります。
- ACスイッチを押したときに、表示灯が点滅もしくは消灯したままのときはエアコンディショナーの冷媒が減っています。除湿 / 冷房は行なわれません。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- ACモードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

送風量の調整

⑪ 送風量調整スイッチ（強）
⑬ 送風量調整スイッチ（弱）
⑲ 送風量インジケーター

送風量を手動で調整することができます。

送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ（強）⑪を押します。

送風量インジケーター⑲の点灯数が増えます。

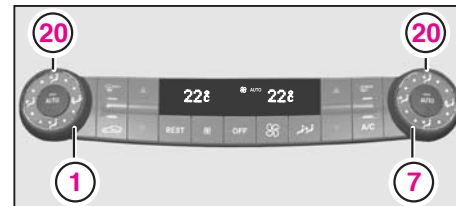
送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ（弱）⑬を押します。

送風量インジケーター⑲の点灯数が減ります。

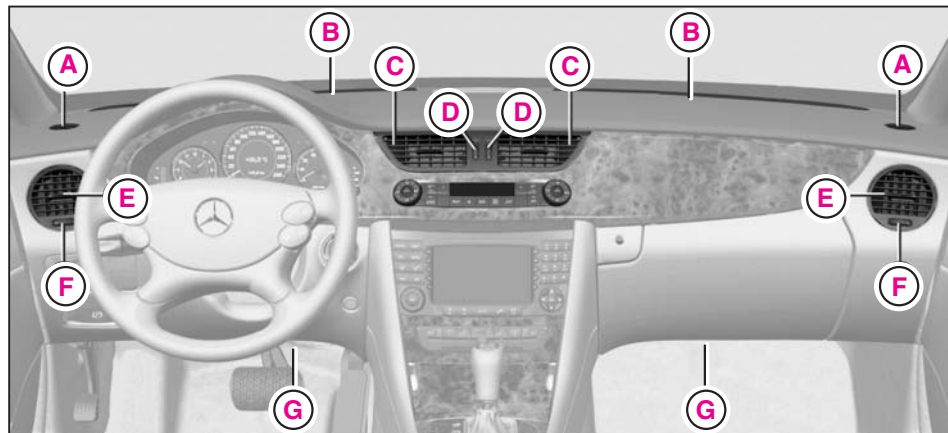
知　識

- エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに送風量調整スイッチを押すと、送風量のAUTOモードが解除され、ディスプレイのAUTO表示が消灯します。AUTOモードに戻すには、再度AUTOスイッチを押します。
- 送風量調整スイッチを操作すると、リアの送風口からの送風量も増減します。

送風口の選択

① 送風口選択ダイヤル（左側）
⑦ 送風口選択ダイヤル（右側）
⑳ 送風口インジケーター

▶ 送風口選択ダイヤル①または⑦をまわして、送風口インジケーター⑳を好みの送風口マークに合わせます。

知　識

- 送風口の選択は左右別々に設定できます。
- エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに送風口選択ダイヤルを操作すると、操作した側のAUTOスイッチの表示灯が消灯し、送風口選択のAUTOモードが解除されます。AUTOモードに戻すには、再度AUTOスイッチを押します。
- 送風口インジケーターをマークの中間に合わせると、組み合わせた送風口から送風されます。
- リア中央送風口、リア足元送風口については（6-16）をご覧ください。
- 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

左ハンドル車

送風口マーク	主に送風される送風口
	中央送風口Ⓒ　サイド送風口Ⓔ　リア中央送風口
	フロントウインドウ送風口Ⓑ　ドアウインドウ送風口Ⓐ 中央送風口Ⓒ　サイド送風口Ⓔ　リア中央送風口
	フロントウインドウ送風口Ⓑ　ドアウインドウ送風口Ⓐ 中央送風口Ⓒ　サイド送風口Ⓔ 足元送風口Ⓖ リア中央送風口　リア足元送風口
	中央送風口Ⓒ　サイド送風口Ⓔ　足元送風口Ⓖ　リア中央送風口 リア足元送風口

送風口の開閉

中央送風口 Ⓒ とサイド送風口 Ⓔ を開閉できます。

中央送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル Ⓓ を上方にまわすと、徐々に中央送風口 Ⓒ が開き、送風量が上がります。

中央送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル Ⓓ を下方にまわすと、徐々に中央送風口 Ⓒ が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤル Ⓓ を停止するまで下方にまわすと、送風口が閉じます。

サイド送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル Ⓕ を内側にまわすと、徐々にサイド送風口 Ⓔ が開き、送風量が上がります。

サイド送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル Ⓕ を外側にまわすと、徐々にサイド送風口 Ⓔ が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤル Ⓕ を停止するまで外側にまわすと、送風口が閉じます。

知　識

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下方または外側にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

送風口の風向き調整

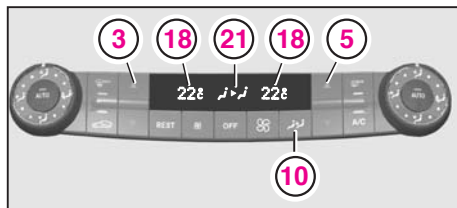
中央送風口 Ⓒ とサイド送風口 Ⓔ は風向きを調整できます。

風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

知　識

換気効率を上げるため、各送風口の風向きを中央にすることをお勧めします。

リアエアコンディショナーの送風温度の調整

③ 送風温度調整スイッチ（左側）
⑤ 送風温度調整スイッチ（右側）
⑩ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ
⑱ 送風温度表示
㉑ リアエアコンディショナーインジケーター

フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーの送風温度を調整できます。

リアエアコンディショナーの送風温度を調整する

▶ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ⑩を押します。

ディスプレイにリアエアコンディショナーインジケーター㉑が表示されます。

また、送風温度表示⑱にリアエアコンディショナーの送風温度が表示されます。

▶ フロントの送風温度調整スイッチ③または⑤で、リアエアコンディショナーの送風温度を設定します。

再度、リアエアコンディショナーコントロールスイッチ⑩を押すと、リアエアコンディショナーインジケーター㉑が消え、フロントのエアコンディショナーを操作できる状態に戻ります。

注 意 ！

リアエアコンディショナーの送風温度を上げるときは、フロントアームレストの小物入れへの送風＊（6-30）を停止してください。小物入れ内が高温になり、ガスライターやボンベ、熱に弱いものなどが入っていると、爆発したり、溶けて変形するおそれがあります。

知 識

- リアエアコンディショナーコントロールスイッチを押してからなにも操作をしないまま約5秒経過すると、この機能は解除され、ディスプレイが通常の表示に切り替わります。
- リアエアコンディショナーの送風温度は左右別々に設定できます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

内気循環モード

⑮ 内気循環スイッチ

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウとスライディングルーフ＊を開閉できます。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ⑮を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

内気循環スイッチ⑮を約2秒以上押し続けると、開いているドアウインドウとスライディングルーフ＊が自動で閉じます。

知 識

センサーが感知した大気中の一酸化炭素（CO）や窒素酸化物（NOx）が一定以上の量になると、自動的に内気循環モードになります。ただし、ACモードを解除しているときや外気温度が約5℃以下のときは、内気循環モードになりません。

内気循環モードに設定されているときも、一定時間が経過すると以下のように外気導入に切り替わります。

外気温度が約5℃以上のとき	約30分後
外気温度が約5℃以下のとき	約5分後
ACモードを解除しているとき	約5分後

6

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 再度、内気循環スイッチ⑮を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

内気循環スイッチ⑮を約2秒以上押し続けると、ドアウインドウとスライディングルーフ＊が前回開いていた位置まで自動で開きます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

注 意 ！

- ドアウインドウとスライディングルーフが閉じているときに内気循環モードにするとウインドウが曇りやすくなります。
- 内気循環スイッチでドアウインドウやスライディングルーフを閉じているときに、挟み込みなどの抵抗があると、ただちに動きを停止して少し開く機能がありますが、乗員が身体を挟まれないよう、十分に注意してください。
- 挟み込み防止機能には、挟み込みを感知しない範囲があります。内気循環スイッチでドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。
- 内気循環スイッチでドアウインドウを開いているときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

知 識

- 外気温度が非常に高いときは、冷房効率を高めるために自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このとき表示灯は点灯しません。約30分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。
- ACモードを解除するかデフロスターモードにすると、外気導入モードになります。
- 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやスライディングルーフを別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやスライディングルーフを内気循環モードの解除操作と連動して、前回開いていた位置まで開くことはできません。

デフロスターモード

② デフロスタースイッチ

フロントウインドウやフロントドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ②を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

エアコンディショナーが以下の内容で作動します。

- 送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口、ドアウインドウ送風口、サイド送風口から送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。
- 除湿された空気が送風されます。

知　識

送風量および送風温度は外気温度により、自動的に調整されます。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ②を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

デフロスターモードに設定する前の内容でエアコンディショナーが作動します。

ただし、デフロスターモードに設定する前にACモードを解除していたときはACモードに、内気循環モードにしていたときは外気導入になります。

知　識

- 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。
- デフロスターモードに設定しているときは、フロントエアコンディショナーの送風温度や送風量などの調整はできません。

ウインドウの外側が曇るとき

車外の湿度が高いときなどに、ウインドウの外側が曇ることがあります。このときは、ウインドウに冷気が当たらないように送風口を調整すると、外側の曇りを軽減できます。

また、フロントウインドウ外側の曇りを取るときには、ワイパーを作動させてください。

リアデフォッガー

⑥ リアデフォッガースイッチ

注　意　！

- ウインドウに雪や氷が付着しているときは、走行前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。
- 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

エンジンスイッチが**2**の位置のときに使用できます。

リアデフォッガーを使用する

▶ リアデフォッガースイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

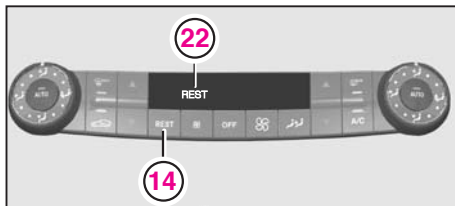
リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは約6～20分後に自動的に停止します。

知　識

- リアウインドウに雪や氷が付着している場合は、それらを取り除いてから使用してください。
- 外気温度と走行速度により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。
- バッテリーの電圧が低くなると自動的に停止し、表示灯が点滅します。また、リアデフォッガースイッチを押しても作動しない場合があります。電圧が回復すると自動的に作動を始めます。
- 外気温度が低いときは、リアデフォッガースイッチを押してもすぐに作動しない場合があります。

余熱ヒーター・ベンチレーション

⑭ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
㉒ 余熱ヒーター・ベンチレーションインジケーター

エンジン停止後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

エンジンスイッチが**0**か**1**の位置のとき、またはキーを抜いているときに使用できます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑭を押します。

ディスプレイに余熱ヒーター・ベンチレーションインジケーター㉒が表示されます。

外気温度やエンジンを停止する前の設定温度などにより、送風口や送風温度は自動的に調整されます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

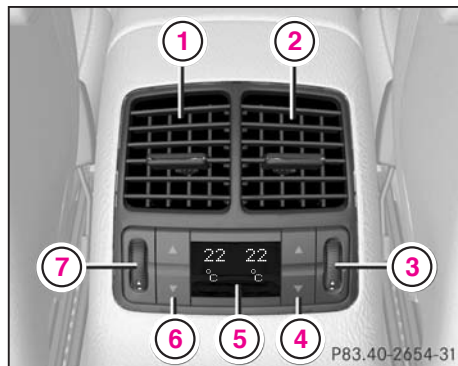
▶ 再度、余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑭を押します。

ディスプレイの余熱ヒーター・ベンチレーションインジケーター㉒が消えます。

以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションが自動的に停止します。

- エンジンスイッチを**2**の位置にしたとき
- 余熱ヒーター・ベンチレーションを使用してから約30分経過したとき
- バッテリーの電圧が低下したとき

知　識

- 送風量は弱で一定に保たれます。
- エンジン冷却水の温度が低いときや外気温度が高いときは、暖気の送風は行なわれません。

リアエアコンディショナー

①	リア中央送風口（左側）
②	リア中央送風口（右側）
③	リア中央送風口開閉ダイヤル（右側）
④	送風温度調整スイッチ（右側）
⑤	ディスプレイ
⑥	送風温度調整スイッチ（左側）
⑦	リア中央送風口開閉ダイヤル（左側）

リアエアコンディショナーは、フロントエアコンディショナーに連動して、作動 / 停止します。

知　識

リア足元送風口が前席下部にあります。荷物などで送風口をふさがないでください。

リア中央送風口の開閉

リア中央送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル③⑦を上方にまわすと徐々にリア中央送風口①②が開き、送風量が上がります。

リア中央送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル③⑦を下方にまわすと徐々にリア中央送風口①②が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤル③⑦を停止するまで下方にまわすと、送風口が閉じます。

知　識

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下方にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

リア中央送風口の風向き調整

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

送風温度の調整

送風温度を調整することができます。

送風温度を上げる

▶ 送風温度調整スイッチ④⑥の上側を押します。

ディスプレイ⑤に表示される送風温度表示の数字が上がります。

送風温度を下げる

▶ 送風温度調整スイッチ④⑥の下側を押します。

ディスプレイ⑤に表示される送風温度表示の数字が下がります。

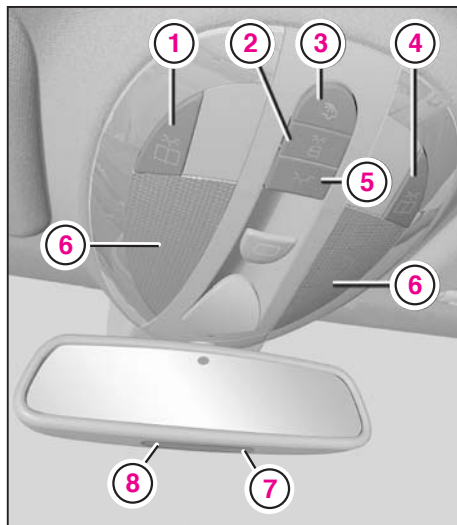
注　意　！

送風温度を上げるときは、フロントアームレストの小物入れへの送風＊（6-30）を停止してください。小物入れ内が高温になり、ガスライターやボンベ、熱に弱いものなどが入っていると、爆発したり、溶けて変形するおそれがあります。

知　識

- 送風温度は左右別々に設定できます。
- 通常は22℃に設定することをお勧めします。
- フロントの送風量調整スイッチを操作すると、リアの送風口からの送風量も増減します。
- フロントの送風温度調整スイッチでリアエアコンディショナーの送風温度を調整しているときは、リアの送風温度調整スイッチは操作できません。
- フロントエアコンディショナーでACモードを解除しているときは、リアエアコンディショナーからも除湿 / 冷房された空気は送風されません。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ルームランプ

① フロント読書灯（左側）スイッチ
② 点灯モード選択スイッチ
③ リアルームランプスイッチ
④ フロント読書灯（右側）スイッチ
⑤ フロントルームランプ手動点灯スイッチ
⑥ フロントルームランプ
⑦ フロント読書灯（右側）
⑧ フロント読書灯（左側）

ルームランプの点灯モードの選択

自動点灯モードにする

▶ 点灯モード選択スイッチ②が押されていない状態にします。

周囲が暗いときに以下の操作をするとフロント / リアルームランプが点灯 / 消灯します。

- フロントドアを開くとフロントルームランプが点灯し、リアドアを開くとリアルームランプ（6-20）が点灯します。

  ◇エンジンスイッチが2の位置のときは、ドアを閉じると消灯します。

  ドアを開いたままのときは消灯しません。

  ◇エンジンスイッチが0か1の位置のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアを閉じると約10秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは約5分後に消灯します。

- ルームランプ消灯遅延機能（4-39）を設定しているときは、エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、約10秒後に消灯します。
- リモコン操作で解錠すると点灯し、約30秒後に消灯します。

注　意　！

車を施錠したときは、ルームランプが消灯することを確認してください。

知　識

- 自動点灯モードになっていても、周囲が明るいときはルームランプが点灯しないことがあります。
- 点灯しているルームランプや読書灯などは、リモコン操作で施錠すると、数秒後に自動的に消灯します。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

常時消灯モードにする

▶ スイッチ②が押された状態にします。

以下のいずれかの操作をしても、ルームランプは点灯しません。

- ドアを開く
- エンジンスイッチからキーを抜く
- リモコン操作で解錠する

ルームランプ(フロント)

フロントルームランプ

フロントルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ スイッチ⑤を押します。

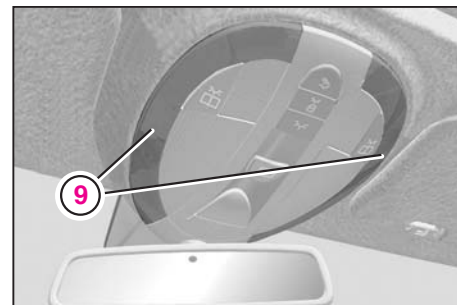
フロントルームランプ⑥が点灯 / 消灯します。

フロント読書灯

フロント読書灯を点灯/消灯する

▶ スイッチ①④を押します。

フロント読書灯⑦⑧が点灯 / 消灯します。

フロントアンビエントランプ

⑨ フロントアンビエントランプ

周囲が暗いときに車幅灯に連動して点灯 / 消灯します。

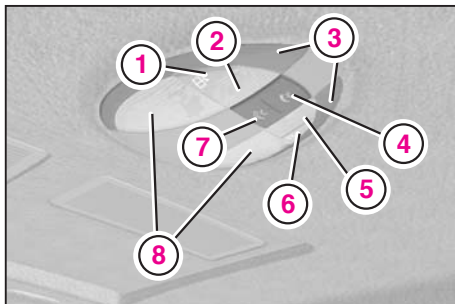
フロントアンビエントランプの明るさを調整する

▶ マルチファンクションディスプレイで調整します（**4-37**）。

5段階の照度に、または常時消灯に設定できます。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ルームランプ

ルームランプ(リア)

① リア読書灯（左側）スイッチ
② リア読書灯（左側）
③ リアアンビエントランプ＊
④ リアアンビエントランプスイッチ（明るくする）＊
⑤ リア読書灯（右側）
⑥ リア読書灯（右側）スイッチ
⑦ リアアンビエントランプスイッチ（暗くする）＊
⑧ リアルームランプ

リアルームランプ

リアルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ リアルームランプスイッチ(6-18)を押します。

リアルームランプ⑧が点灯 / 消灯します。

リア読書灯

リア読書灯を点灯 / 消灯する

▶ スイッチ①⑥を押します。

リア読書灯②⑤が点灯 / 消灯します。

リアアンビエントランプ＊

周囲が暗いときに車幅灯に連動して点灯 / 消灯します。

リアアンビエントランプを明るくする

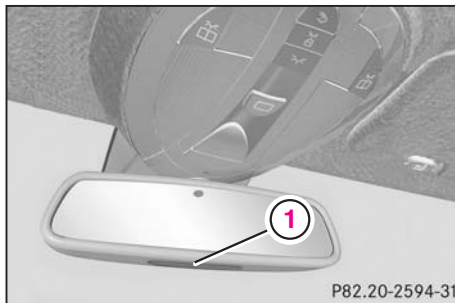
▶ スイッチ④を押し続けます。

リアアンビエントランプを暗くする

▶ スイッチ⑦を押し続けます。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

センターコンソールランプ

① センターコンソールランプ

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに点灯し、センターコンソールを照らします。

フットウェルランプ

フロントおよびリアの足元にあり、乗降時に足元を照らします。

ルームランプの点灯モードに関係なく周囲が暗いときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- フロントまたはリアのルームランプを点灯すると、フットウェルランプが点灯します。
- エンジンスイッチを**2**の位置にすると低い照度で点灯します。

  ◇エンジンスイッチを**1**か**0**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜くと約7秒後に消灯します。

- ドアを開くと明るく点灯します。

  ◇エンジンスイッチが**2**の位置のときは、ドアを閉じると減光します。

  ドアを開いたままのときは消灯しません。

  ◇エンジンスイッチが**1**の位置のときは、ドアを閉じると減光し、約7秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは、約5分後に消灯します。

  ◇エンジンスイッチが**0**の位置のとき、またはエンジンスイッチからキーを抜いてあるときは、ドアを閉じると減光し、約7秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは、約約50秒後に消灯します。

ルームランプ

ドアレバーランプ

左側フロントドア（左ハンドル車）
① ドアレバーランプ

車幅灯が点灯したときに点灯し、ドアレバー周辺を照らします。

車幅灯が消灯したときは、約5分後に消灯します。

ドアミラー下部のランプ

ドアミラー下部にあり、乗降時に足元を照らします。

ルームランプが自動点灯モードになっていて、周囲が暗いときに以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- リモコン操作で解錠すると点灯し、約30秒後に消灯します。
- 点灯しているときにリモコン操作で施錠すると、約5秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが**0**か**1**の位置のときにいずれかのドアを開くと点灯します。
  - ◇ドアを開いたままにすると、約30秒後に消灯します。
  - ◇ドアを閉じると、約10秒後に消灯します。

乗降用ランプ / ドア赤色灯

乗降用ランプはドアの下部にあり、乗降時に足元を照らします。ドア赤色灯はドアの側部にあり、後続車や歩行者に注意を促します。

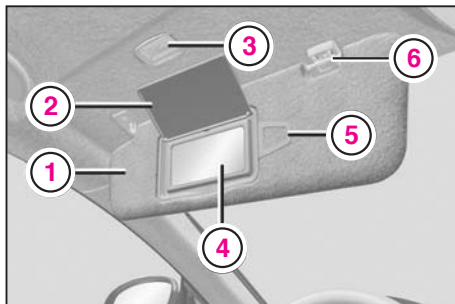
ルームランプが自動点灯モード（**6-18**）になっていて、周囲が暗いときにドアを開くと点灯し、ドアを閉じると消灯します。

エンジンスイッチが**2**の位置以外のときは、ドアを開いたままにすると約5分後に消灯します。

エンジンスイッチが**2**の位置のときは、ドアを開いたままにすると消灯しません。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

サンバイザー / バニティミラー

サンバイザー

① サンバイザー
② バニティミラーカバー
③ 照明
④ バニティミラー
⑤ カードホルダー
⑥ フック

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー①を下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

▶ サンバイザーをフック⑥から外します。

▶ サンバイザーを横にまわします。

注 意 ！

サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバーを閉じてください。ルーフ内張りやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

知 識

バニティミラーの横にはカードホルダー⑤があります。

バニティミラー

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザー①を下げます。

▶ バニティミラーカバー②を上方に開きます。

照明③が点灯します。

注 意 ！

眩惑を防ぐため、走行中はカバーを閉じてください。

知 識

サンバイザーをフック⑥から外すと照明は点灯しません。

リアブラインド

① リアブラインドスイッチ

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに作動します。

リアブラインドを展開する（上げる）

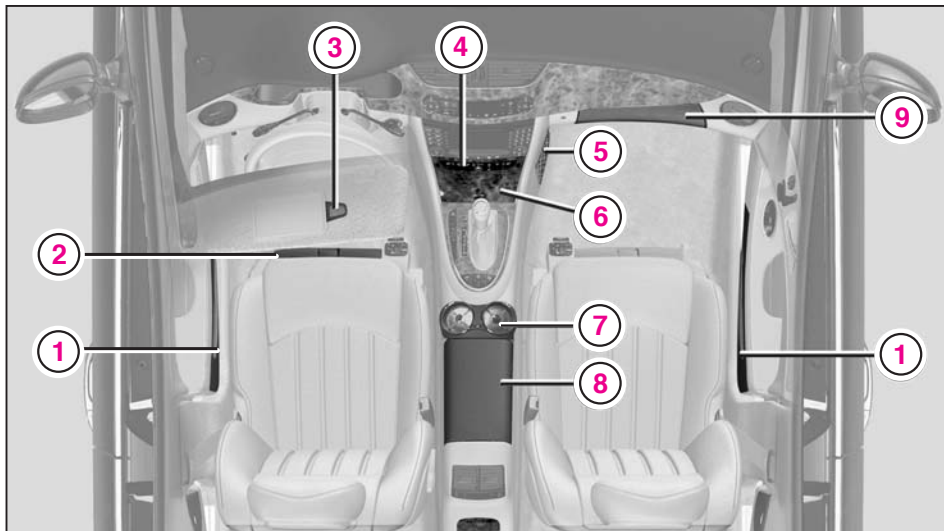
▶ リアブラインドスイッチ①を押します。

リアブラインドを収納する（下げる）

▶ 再度、リアブラインドスイッチ①を押します。

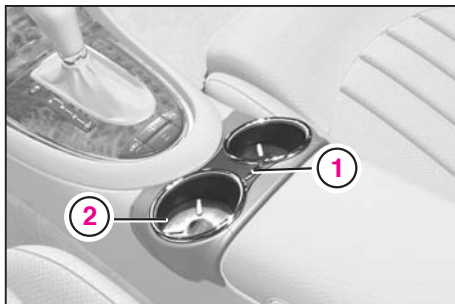
注　意　！

- リアブラインドは展開 / 収納中にスイッチを再度押すとそのときの位置で停止しますが、必ず展開位置か収納位置で使用してください。中間の位置で使用すると損傷するおそれがあります。
- リアブラインドの展開 / 収納の妨げになるようなものを周囲に置かないでください。

小物入れ（前席側）

左ハンドル車

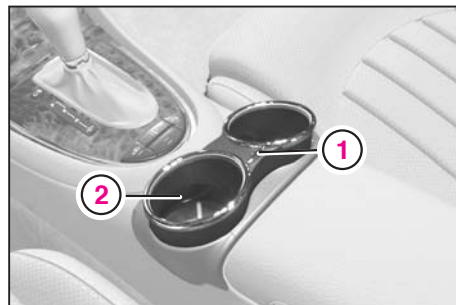
	名称	ページ
①	ドアポケット	
②	運転席シート下の小物入れ	6-27
③	カードホルダー（サンバイザー）	6-23
④	CDチェンジャーカバー	6-39
⑤	収納ネット	6-31
⑥	灰皿 / ライター	6-36 6-38
⑦	カップホルダー	6-26
⑧	アームレスト	6-29
⑨	グローブボックス	6-28

小物入れ（前席側）

フロントのカップホルダー

① ボタン
② カップホルダー

カップホルダーを使用する

▶ ボタン①を押します。

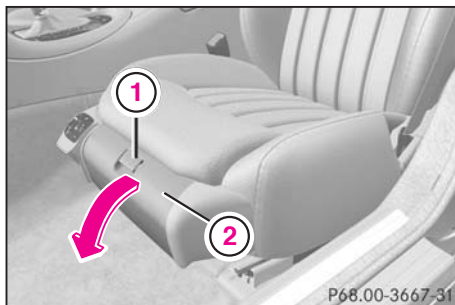
カップホルダー②がポップアップします。

① ボタン
② カップホルダー

カップホルダーを収納する

▶ ボタン①を押しながら、カップホルダー②を下方に押してロックします。

注　意　！

- 火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。
- サイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。
- 走行中はカップホルダーを使用しないでください。
- カップホルダーに飲み物を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

  スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

運転席シート下の小物入れ

左ハンドル車
① ノブ
② カバー

運転席シート下の小物入れを開く

▶ ノブ①を引き、カバー②を前方に開きます。

運転席シート下の小物入れを閉じる

▶ カバー②を後方に押してロックします。

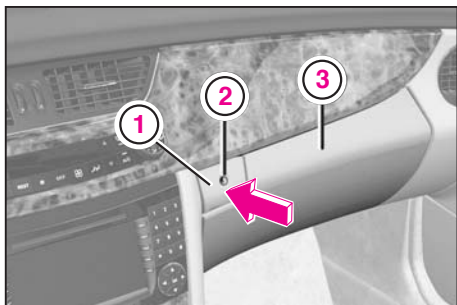
注 意 ！

- 重い荷物は収納しないでください。
- 走行するときは、カバーが確実に閉じていることを確認してください。

知 識

助手席シート下の小物入れには救急セットが収納されています。

小物入れ（前席側）

グローブボックス

左ハンドル車
① ボタン
② キーシリンダー
③ カバー

グローブボックスを開く

▶ ボタン①を押します。

カバー③が開きます。

グローブボックスを閉じる

▶ カバー③を押してロックします。

注 意 ！

走行中は、グローブボックスのカバーを開いたままにしないでください。急ブレーキ時や衝突時に収納物が飛び出して乗員がけがをするおそれがあります。

知 識

エンジンスイッチが**2**の位置のときにグローブボックスを開くと、グローブボックスランプが点灯します。

グローブボックスの施錠

キーシリンダー②にエマージェンシーキーを差し込んでグローブボックスを施錠 / 解錠することができます。

グローブボックスを施錠する

▶ キーを水平位置にまわします。

グローブボックスを解錠する

▶ キーを垂直位置にまわします。

注 意 ！

貴重品はグローブボックス内に保管しないでください。

知 識

駐車場などでキーを預ける場合に、グローブボックスを開けられたくないときは、グローブボックスを施錠してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外し、携帯してください。

フロントアームレストの小物入れ

① ボタン
② カバー

フロントアームレストの小物入れを開く

▶ ボタン①を押してカバーを開きます。

ボタン①は左右にあり、カバー②を左右に開くことができます。

フロントアームレストの小物入れを閉じる

▶ カバー②を下げてロックします。

警　告

走行中は必ず小物入れのカバーを閉じてください。急ブレーキや万一の衝突時に収納物が飛び出して、乗員がけがをするおそれがあります。

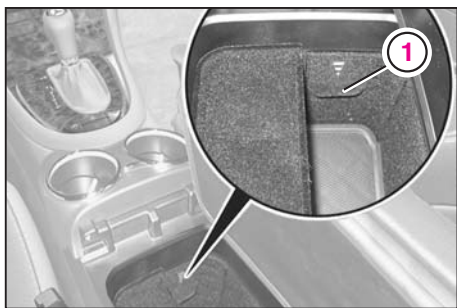
注　意　!

- アームレストが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。アームレストや収納物を損傷するおそれがあります。
- 小物入れには食料品を収納しないでください。

知　識

車幅灯が点灯しているときにアームレストのカバーを開くと、アームレスト内のランプが点灯します。

小物入れ（前席側）

フロントアームレストの小物入れへの送風＊

① 送風用ノブ

フロントアームレストの小物入れへ送風する

▶ 送風用ノブ①を上にスライドさせます。

フロントアームレストの小物入れへの送風を停止する

▶ 送風用ノブ①を下にスライドさせます。

注 意 ！

フロントアームレストの小物入れは、フロントおよびリアエアコンディショナーの設定により高温になります。ガスライターやボンベ、熱に弱いものなどが入っているときは、爆発したり、溶けて変形するおそれがありますのでアームレストへの送風を停止してください。

知 識

フロントアームレストの小物入れへの送風量は、フロントエアコンディショナーの送風量により変化します。また、送風温度はリアエアコンディショナーの右側の設定温度により変化します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

携帯電話の接続

フロントアームレストの小物入れには携帯電話用のコネクターが装備されています。

コネクターに携帯電話を接続すると、電話の発信 / 受信ができます。

携帯電話を取り付ける

▶ 携帯電話の外部端子をコネクターに接続します。

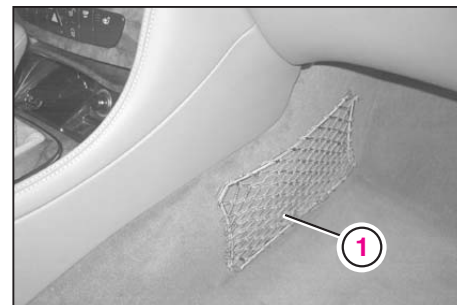
携帯電話を取り外す

▶ コネクター左右のロック解除ボタンを押しながら、携帯電話をコネクターから取り外します。

注　意　！

携帯電話がコネクターに接続できないときは、無理に取り付けないでください。

※ 電話の操作については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

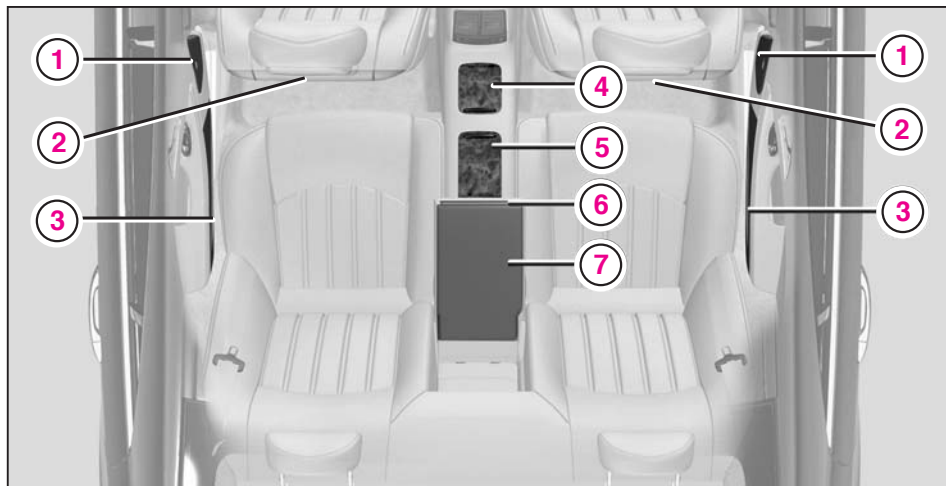
収納ネット

左ハンドル車
① 収納ネット

助手席の足元に新聞や雑誌などを収納できるネットを備えています。

注　意　！

- 収納ネットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。
- 収納ネットから収納物がはみ出さないようにしてください。

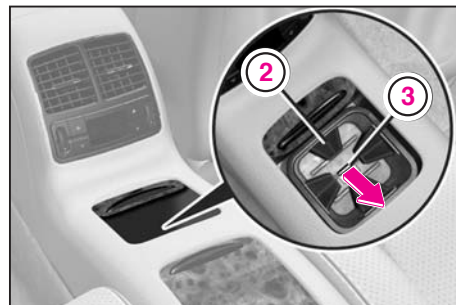
小物入れ（後席側）

小物入れ（後席側）

	名称	ページ
①	灰皿	6-37
②	シートポケット	6-35
③	ドアポケット	
④	リアセンターコンソールのカップホルダー	6-33
⑤	リアセンターコンソールの小物入れ	6-34
⑥	リアアームレストのカップホルダー	6-34
⑦	リアアームレストの小物入れ	6-35

リアセンターコンソールのカップホルダー

① カバー

カップホルダーを使用する

▶ カバー①を前方にスライドします。

② カップホルダー
③ ロック解除ノブ

カップホルダーを取り外す

▶ ロック解除ノブ③を後方にスライドして、カップホルダー②を上方に取り外します。

カップホルダーを取り付ける

▶ カップホルダーを元の位置に戻し、ロック解除ノブ③を前方にスライドして、カップホルダー②をロックします。

注 意 ！

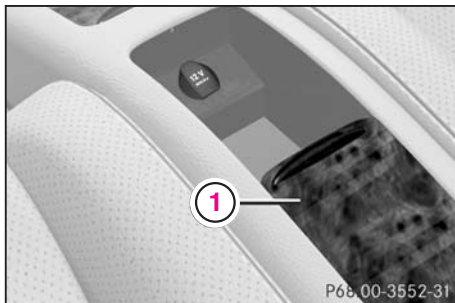
- 火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。
- カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。
- 走行中はカップホルダーを使用しないでください。
- カップホルダーに飲み物を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

  スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

知 識

カップホルダーを取り外すと、小物入れとして使用できます。

小物入れ（後席側）

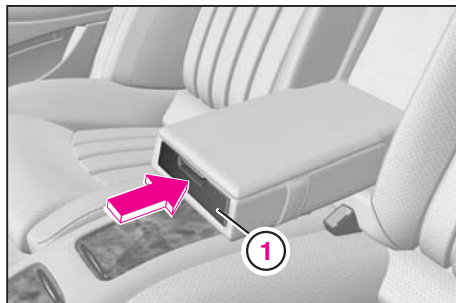
リアセンターコンソールの小物入れ

① カバー

リアセンターコンソールの小物入れを開く

▶ カバー①を後方にスライドします。

リアセンターコンソールの小物入れを閉じる

▶ カバー①を前方にスライドします。

リアアームレストのカップホルダー

① カップホルダー

カップホルダーを使用する

▶ カップホルダー①を矢印の方向に押します。

カップホルダー①が前方に出ます。

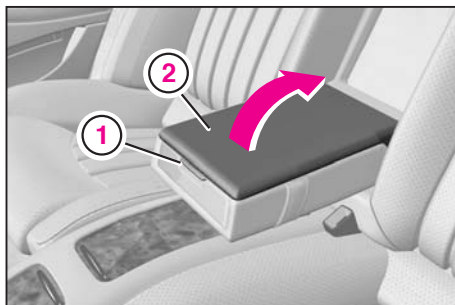
カップホルダーを収納する

▶ カップホルダー①を押してロックします。

注　意　！

- 火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。
- カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。
- 走行中はカップホルダーを使用しないでください。
- カップホルダーに飲み物を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

  スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

リアアームレストの小物入れ

① レバー
② カバー

リアアームレストの小物入れを開く

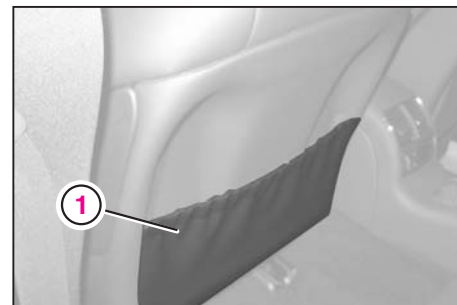
▶ レバー①を引きながら、カバー②を開きます。

リアアームレストの小物入れを閉じる

▶ カバー②を閉じます。

注　意　！

アームレストが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。アームレストや収納物を損傷するおそれがあります。

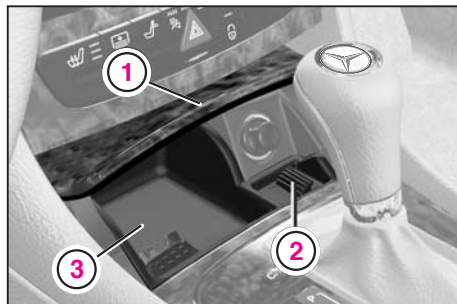
シートポケット

① シートポケット

フロントシートの背面にはシートポケット①があります。

注　意　！

- シートポケットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。
- 収納物がポケットからはみ出さないようにしてください。

灰皿

フロントの灰皿

① カバー
② ノブ
③ 灰皿

灰皿を開く

▶ カバー①のマークを軽く押します。

灰皿を閉じる

▶ カバー①を下方に押してロックします。

> **注 意 !**
>
> • 開くときはマーク以外の部分を押さないでください。カバーの開閉機構を損傷するおそれがあります。
>
> • 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。
>
> • 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。
>
> • 使用後は確実にカバーを閉じてください。

灰皿を取り外す

▶ エンジンを停止し、パーキングブレーキを確実に効かせます。

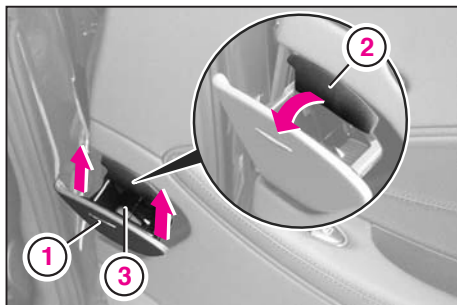
▶ エンジンスイッチを**2**の位置にして、ブレーキペダルを踏みながら、セレクターレバーを N に入れます。

▶ ノブ②を右側に押しながら、灰皿③を上方に引き上げて取り外します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿③がロックするまで押し込みます。

> **注 意 !**
>
> 灰皿を取り外すときは、必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキを確実に効かせてください。

リアの灰皿

右側リアドアの灰皿
① カバー
② フラップ
③ 灰皿

リアの灰皿は、左右のリアドアにあります。

灰皿を開く

▶ カバー①の上部を軽く押します。

灰皿を閉じる

▶ カバー①を押して閉じます。

灰皿を取り外す

▶ 灰皿を開き、フラップ②を矢印の方向に引きながら灰皿③を引き上げ、取り外します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿③を押してロックさせます。

注 意 !

- 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。
- 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。
- 使用後は確実にカバーを閉じてください。

ライター

① ライター

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに使用できます。

ライターを使用する

▶ ライター①を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

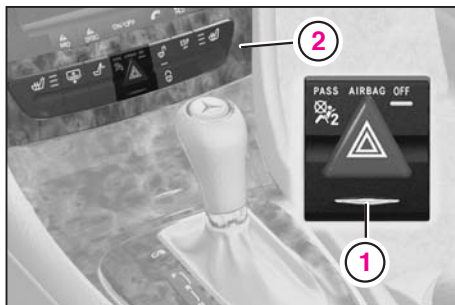
使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

警　告

ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

注　意　!

- 安全のため、子供を乗せるときはライターを抜き取ってください。
- ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。ライターを損傷するおそれがあります。
- 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。ライターやセンターコンソールを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。
- ライターが戻らなくなったときは、エンジンスイッチを**0**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、指定サービス工場に連絡してください。
- アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、純正アクセサリーだけを使用してください。

CDチェンジャーカバー

① 開閉ボタン
② カバー

カバーを開く

▶ CDチェンジャーカバー開閉ボタン①を押します。

カバー②が上方に開きます。

カバーを閉じる

▶ 再度、CDチェンジャーカバー開閉ボタン①を押します。

カバー②が閉じます。

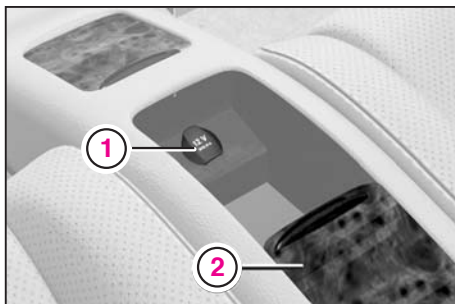
詳しくは、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をご覧ください。

注 意 !

CDチェンジャーカバーを開閉するときは、指などを挟まないように注意してください。

知 識

- CDチェンジャーカバーが開いているときにリモコン操作で施錠すると、カバーは閉じます。
- CDチェンジャーカバーは、開いた状態のままにしておくと、約30秒後に自動的に閉じます。
- ボタン①を押してCDチェンジャーカバーを閉じているときや開いてから約30秒後に自動的に閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、CDチェンジャーカバーは開きます。ただし、挟み込みを2回検知した後は、約30秒経過しても自動的に閉じなくなります。

12V電源ソケット

① ソケットカバー
② カバー

リアセンターコンソール後部の小物入れに12V電源ソケットがあります。電気製品などの電源として使用します。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに使用できます。

12V電源ソケットを使用する

▶ 小物入れのカバー②を後方にスライドして開きます。

▶ ソケットカバー①を開き、電気製品の電源コネクターに確実に差し込みます。

注 意 !

- 必ずDC12V、最大消費電流15A以下（最大消費電力180W以下）の規格に合った電気製品を使用してください。規格外の製品や規格以上の大きな容量の製品を使用するとヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。
- 電源ソケットにライターを差し込まないでください。
- ソケット内に指などを入れないでください。感電するおそれがあります。
- エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障の原因になることがあります。

アシストグリップ

各ドアウインドウの上方にアシストグリップがあります。コーナリング時の姿勢保持などに使用します。

リアのアシストグリップには、コートフックが装備されています。

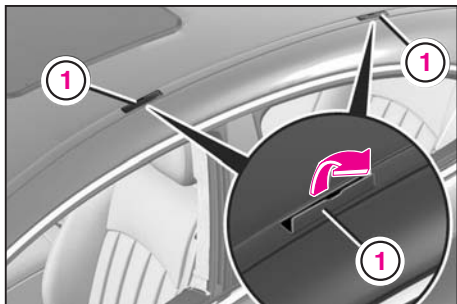
警　告

SRSウインドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。

- アシストグリップにハンガーやアクセサリーなどをかけないでください。
- コートフックには軽く柔らかい衣服以外の物をかけないでください。
- コートフックを使用するときは、ハンガーなどを使用せず、衣服を直接かけてください。

注　意！

- アシストグリップにぶらさがったり、必要以上の大きな荷重をかけないでください。アシストグリップを損傷するおそれがあります。
- 運転者は運転中にアシストグリップを使用しないでください。
- コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないようにしてください。

ルーフラック

① カバー

ルーフラックはダイムラー社の純正品および指定品の使用をお勧めします。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

ルーフラックを取り付ける

▶ カバー①を外側に開きます。

ルーフラックを取り付けます。

警　告

ルーフに荷物を積んでいるときは、車の重心位置が変化し、走行安定性に影響を与えます。運転するときは十分注意してください。

注　意 !

- ルーフの最大積載量については(9-14)をご覧ください。
- ルーフラックを取り付けるときは、製品に添付の取扱説明書に従ってください。
- 純正品および指定品以外のルーフラックを取り付けると車を損傷するおそれがあります。
- ルーフラックを取り付けるときは下記に注意してください。車を損傷するおそれがあります。
  - ◇ スライディングルーフ＊をチルトアップさせたときに接触しないこと
  - ◇ トランクを開いたときに接触しないこと

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

事故・故障のとき

警　告

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

以下の処置をとってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

セレクターレバーを N に入れて、パーキングブレーキを解除し、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

セレクターレバーを N に入れられないときは、乗員を安全な場所に避難させて、続発事故を防いでください。

注　意　！

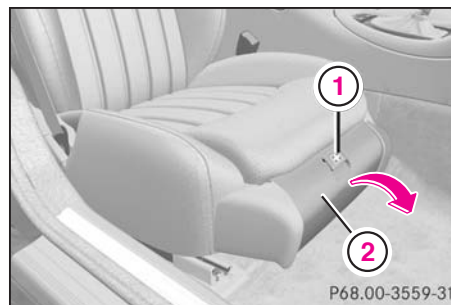
踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具を使用してください。

非常信号用具

懐中電灯をドアポケットに備えています。

知 識

- 新車時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。
- 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

救急セット

左ハンドル車
① ノブ
② カバー

救急セットは助手席シート下部の小物入れに収納されています。

救急セットを取り出す

▶ ノブ①を引きながら、カバー②を矢印の方向に開きます。

▶ 救急セットを取り出します。

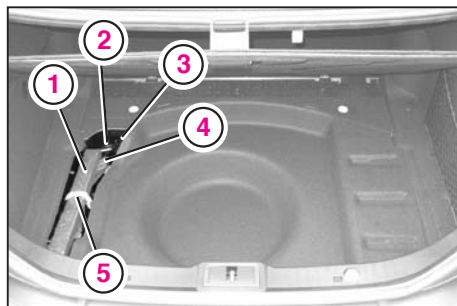
救急セットを収納する

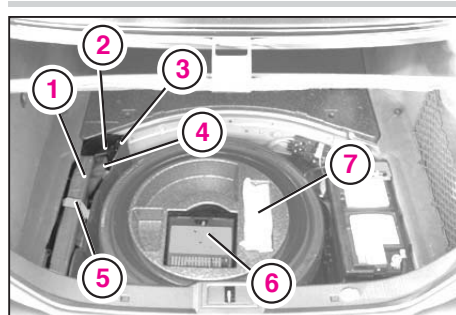
▶ 救急セットを入れてから、カバー②を閉じます。

知 識

- 救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。
- 走行するときは、カバーが確実に閉じていることを確認してください。

車載工具

CLS 350 / CLS 550

① 停止表示板ケース
② ジャッキ
③ 輪止め
④ 車載工具
⑤ ストラップ

CLS 63 AMG

① 停止表示板ケース
② ジャッキ
③ 輪止め
④ 車載工具
⑤ ストラップ
⑥ 電動エアポンプ
⑦ タイヤ収納カバー

※電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、指定サービス工場におたずねください。

車載工具④はトランクルーム内のトランクフロアボードの下に収納されています。

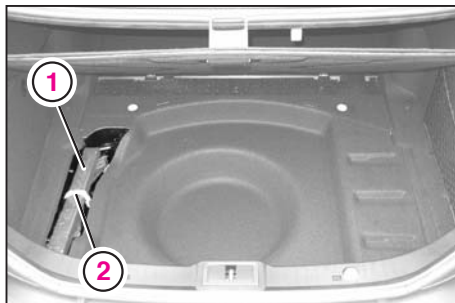
車載工具を取り出す

▶ トランクフロアボードを開きます(3-36)。

▶ ストラップ⑤を外します。

▶ 停止表示板ケース①を取り出します。

▶ 車載工具④を取り出します。

ホイールレンチ、ガイドボルト、けん引フック、手袋などが車載工具に収納されています。

停止表示板

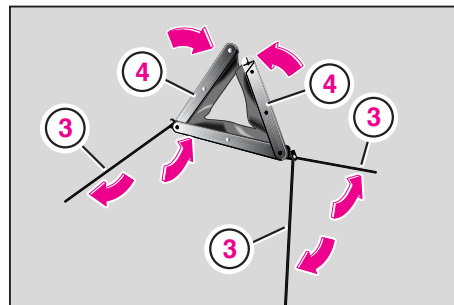
CLS 350 / CLS 550
① 停止表示板ケース
② ストラップ

停止表示板はトランクルーム内のトランクフロアボードの下に収納されています。

停止表示板を取り出す

▶ トランクフロアボードを開きます（3-36）。

▶ ストラップ②を外して、停止表示板ケース①を取り出します。

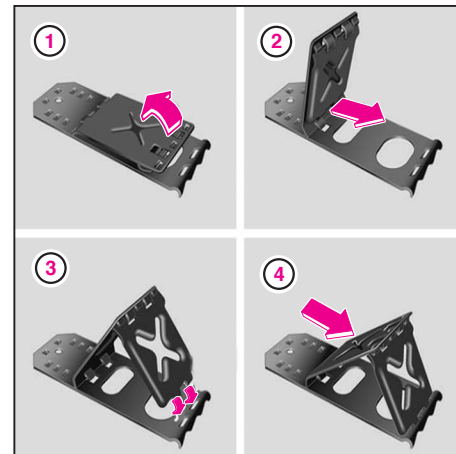
▶ 停止表示板ケース①から停止表示板を取り出します。

③ スタンド
④ 反射板

停止表示板を組み立てる

▶ スタンド③を引き出して、停止表示板を地面に立てます。

▶ 反射板④を開いて三角形をつくり、頂点をかみ合わせます。

※停止表示板の形状が異なる場合があります。

輪止め

輪止めは車載工具など（7-4）とともに収納されています。

輪止めは図の順番で組み立てます。

> **注 意 !**
>
> 輪止めを使用するときは図④の矢印の方向にタイヤがあたるようにします。方向に注意してください。

パンクしたとき

警　告

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。
- 停車したときは、非常点滅灯を点滅させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。

注　意 ！

- 車速感応ドアロック（4-42）を設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを0の位置にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。
- タイヤ交換をするときは、エンジンを始動しないでください。

知　識

高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが、法律で義務付けられています。

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ ステアリングを直進の位置にして、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーをPに入れます。

▶ エンジンを停止して、エンジンスイッチからキーを抜き、ステアリングがロックされたことを確認します。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろして、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ 輪止め、ジャッキ、ホイールレンチ、ガイドボルトを準備します。

CLS 63 AMGは、電動エアポンプも準備します。

輪止めをする

▶ 交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、以下のように輪止めをします。

◇ 前輪のいずれかを交換するときは、左右の後輪の下り側に輪止めをします。

◇ 後輪のいずれかを交換するときは、左右の前輪の下り側に輪止めをします。

知　識

輪止めは1個車載されています。もう1個必要なときは、適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

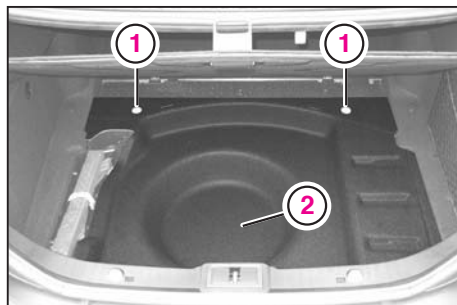
応急用スペアタイヤを取り出す

警　告

- 応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず80km/h以下で走行してください。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、ESPの機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤは短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。注意して走行してください。

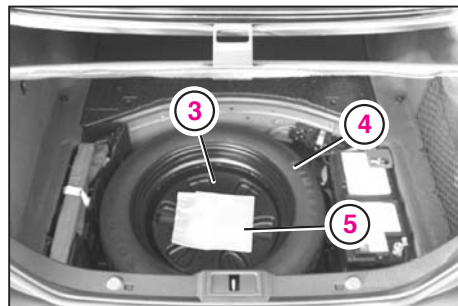
注　意　!

- トレイや応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。
- 応急用スペアタイヤを2本以上装着して走行しないでください。
- 応急用スペアタイヤは各車種専用です。他車のものは使用しないでください。

CLS 350/ CLS 550

① 固定キャップ
② ラゲッジトレイ

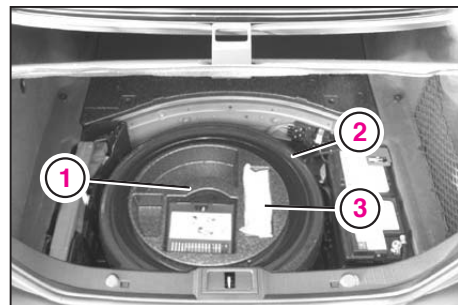
▶ トランクフロアボードを開きます(3-36)。

▶ 固定キャップ①をドライバーやエマージェンシーキーなどでまわして外します。

▶ ラゲッジトレイ②を取り外します。

③ ホルダー
④ 応急用スペアタイヤ
⑤ タイヤ収納カバー

▶ ホルダー③を反時計回りにまわして外します。

▶ 応急用スペアタイヤ④を取り出します。

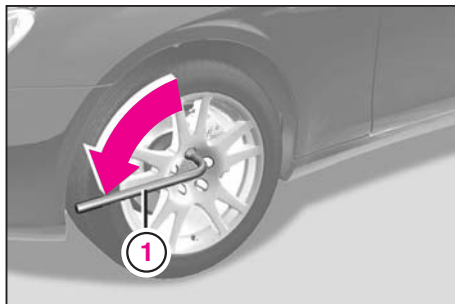
CLS 63 AMG

① トレイ
② 応急用スペアタイヤ
③ タイヤ収納カバー

▶ トランクフロアボードを開きます(3-36)。

▶ トレイ①と、応急用スペアタイヤ②の内側にあるスペーサーを取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤを固定しているスクリューを反時計回りにまわして外します。

▶ 応急用スペアタイヤ②を取り出します。

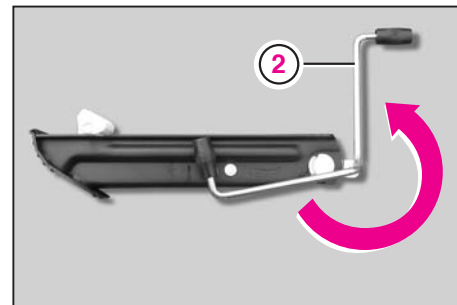
ジャッキアップ

① ホイールレンチ

▶ ホイールレンチ①で、交換するタイヤのホイールボルト（5本）を約1回転ほどゆるめます。

この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

注 意 ！

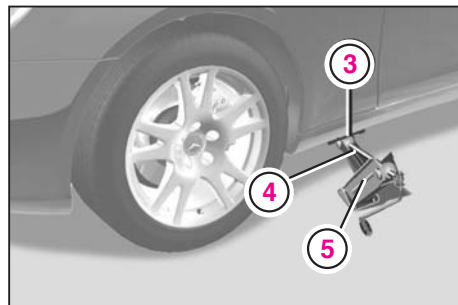
ホイールレンチを使用するときに、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

② ジャッキハンドル

▶ ジャッキハンドル②を矢印の方向に起こしてから、時計回りにまわします。

ジャッキアームが上がります。

注 意 !

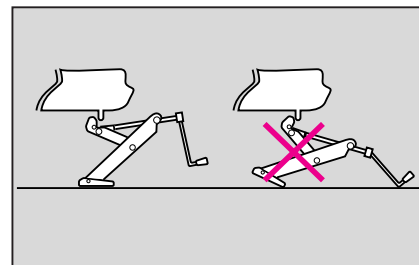
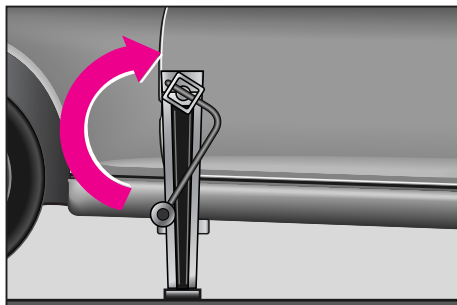
- 車載のジャッキはこの車専用です。以下の点に注意してください。
  ◇かたくてすべりにくい、水平な場所で使用してください。
  ◇この車のタイヤ交換以外には使用しないでください。
  ◇不具合や損傷があるときは使用しないでください。
  ◇ジャッキサポート以外の場所に使用しないでください。
- ジャッキアップする前に乗員や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。

③ ジャッキサポート
④ ジャッキアーム
⑤ ジャッキ

▶ ジャッキ⑤のジャッキアーム④の先端をジャッキサポート③の位置に合わせます。

知 識

ジャッキサポートは前輪の後方、後輪の前方のボディ下部4カ所に設けられています。

注 意 !

- ジャッキアームの先端が正しくジャッキサポートに入っていることを確認してください。
- 側面から見て、ジャッキが垂直になるように取り付けてください。
- ジャッキの底面が、確実に路面に接地するように取り付けてください。

（左）正しい取り付けかた
（右）誤った取り付けかた

▶ ジャッキハンドルを矢印方向にまわし、タイヤが地面から離れるまでゆっくりとジャッキアップします。

警 告

車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に身体を入れないでください。

ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

注 意 !

- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやトランクを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。
- ジャッキアップしたときのタイヤの高さは、地面から約3cm以内にしてください。

⑥ ガイドボルト

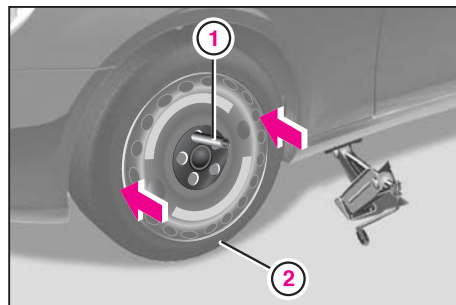
▶ 上側のホイールボルトを1本外します。

▶ そのネジ穴に、ガイドボルト⑥をねじ込みます。

▶ 残りのホイールボルトを外して、タイヤを取り外します。

注　意　!

- ホイールボルトに砂や泥が付着しないように注意してください。
- タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールを損傷するおそれがあります。
- ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。
- ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ボルトがゆるむおそれがあります。
- ホイールハブのネジ山が損傷しているときは、走行せずに、指定サービス工場に連絡してください。

応急用スペアタイヤの取り付け

① ガイドボルト
② 応急用スペアタイヤ

▶ 応急用スペアタイヤ②のホイールおよびハブの接合面に砂や汚れなどがないことを確認します。

▶ ガイドボルト①に合わせて応急用スペアタイヤ②を取り付けます。

▶ 4本のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

▶ ガイドボルトを取り外し、5本目のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

警　告

ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

注　意　!

応急用スペアタイヤの取り付けには、標準タイヤのホイールボルトを使用します。異なるボルトを使用するとホイールを十分に固定することができず、走行中にタイヤが外れるおそれがあります。

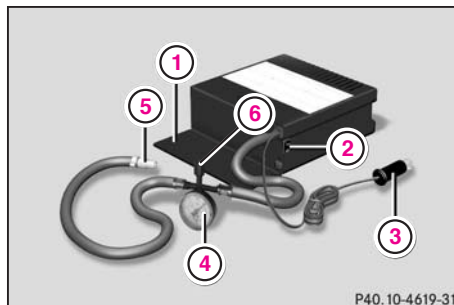
応急用スペアタイヤに空気を入れる（CLS 63 AMG）

CLS 63 AMGの応急用スペアタイヤは、電動エアポンプで空気を入れて使用します。

仕様により車載されている電動エアポンプが異なります。

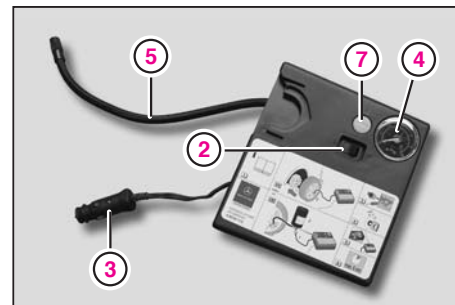
警　告

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。必ず規定の空気圧を守ってください。

空気圧ゲージ別体型

① フラップ
② 電源スイッチ
③ 電源プラグ
④ 空気圧ゲージ
⑤ エアホース
⑥ 空気圧調整バルブ

▶ フラップ①を開いて電源プラグ③とエアホース⑤を取り出します。

▶ 空気圧調整バルブ⑥が閉じていることを確認します。

空気圧ゲージ一体型

② 電源スイッチ
③ 電源プラグ
④ 空気圧ゲージ
⑤ エアホース
⑦ 空気圧調整ボタン

▶ 電動エアポンプの裏面から電源プラグ③とエアホース⑤を取り出します。

※電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。
使用方法がわからないときは、指定サービス工場におたずねください。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース⑤を応急用スペアタイヤのバルブに取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ②を**0**（オフの位置）にします。

▶ エンジンスイッチを**0**の位置にします。

▶ 電源プラグ③を、12V電源ソケット**（6-40）**またはライター**（6-38）**を抜き取ったソケットに差し込みます。

▶ エンジンスイッチを**1**の位置にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ②を**I**（オンの位置）にします。

電動エアポンプが作動して、応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。

▶ 空気圧ゲージ④が3.5バールになったら電動エアポンプの電源スイッチ②を**0**（オフの位置）にします。

3.5バールを超えたときは、空気圧調整バルブ⑥をゆるめるか、空気圧調整ボタン⑦を押して空気を抜いて調整します。

▶ 12V電源ソケットまたはライターソケットから電源プラグ③を抜き、応急用スペアタイヤのバルブからエアホースを取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを取り付けます。

注 意！

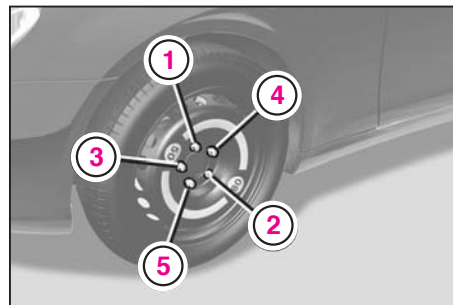
- 電動エアポンプを作動させるときは、電動エアポンプに貼付されている取扱方法も参考にしてください。
- 応急用スペアタイヤを取り付ける前に、応急用スペアタイヤに空気を入れないでください。
- 電動エアポンプを作動させているときはエンジンを始動しないでください。
- 電動エアポンプやエアホースは作動中に金属部分などが熱くなります。必ず手袋をして作業してください。
- 電動エアポンプを作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。

  ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

  連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載しています。
- 電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

ジャッキダウン

▶ ジャッキハンドルを反時計回りにまわし、ゆっくりボディを下げてタイヤを接地させます。

▶ ジャッキを外します。

▶ 図の順番でホイールボルトを均一に締め付けます。

ホイールボルトの締め付けトルクの規定値は、13 kg-m（130Nm）です。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、車載工具や輪止めなどとともに元の位置に戻します。

▶ 外したタイヤは車載の収納カバーに入れて、トランクルーム内に収納します。

注 意 ！

ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください
- 足で踏んでまわさないでください
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください

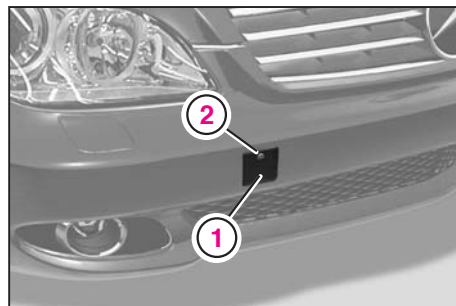
また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。

けん引

注　意　！

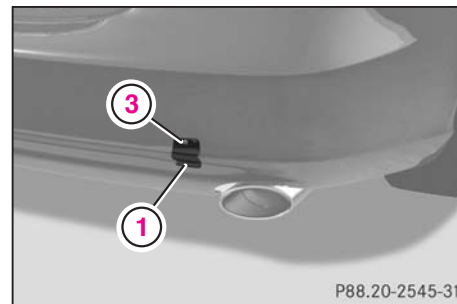
- けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。
- やむを得ず、他車にけん引してもらうときは以降に記載する説明に従ってください。

けん引フックの取り付け

フロントの取り付け位置

① カバー
② マーク部

フロントバンパーの向かって左側にあります。

▶ マーク部②を押して、カバー①を外します。

リアの取り付け位置

① カバー
③ マーク部

リアバンパーの向かって右側にあります。

▶ マーク部③を押して、カバー①を外します。

※ CLS 350 スポーツパッケージとCLS 550 スポーツパッケージ、CLS 63 AMGはリアのカバーの形状が異なります。

けん引フックを取り付ける

▶ 車載工具 (7-4) からけん引フックとホイールレンチを取り出します。

▶ 内部のネジ穴にけん引フックをねじ込み、停止するまで手で締め込みます。

▶ さらに、ホイールレンチの柄の部分をけん引フックのリング部分に差し込み、確実に締め付けます。

けん引する

エンジンを始動できるとき

▶ エンジンを始動して、セレクターレバーを N に入れます。

エンジンを始動できないとき

▶ エンジンスイッチを2の位置にして、ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーを N に入れます。

注　意　！

けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください (4-42)。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

フロントまたはリアをつり上げてけん引するとき

▶ セレクターレバーを N に入れます。

▶ エンジンスイッチを0の位置にします。

注　意　！

フロントまたはリアをつり上げてけん引するときは、必ずエンジンスイッチを0の位置にしてください。ESPが作動して接地している車輪にブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

注 意 !

- ホールド機能を作動させていると、パーキングブレーキを効かせていなかったり、ブレーキペダルを踏んでいなくても車にはブレーキがかかっています。けん引で車を動かすときは、ホールド機能を解除してください。
- 一般道では30km/h以下の速度で、距離は50km以内に限り、けん引走行することができます。

  距離が50kmを超えるときは、車両運搬車などを使用して4輪を持ち上げた状態で搬送するか、プロペラシャフトを取り外す、またはリアをつり上げてけん引してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- トランスミッションが損傷しているときは、専門業者に作業を依頼し、プロペラシャフトを外してからけん引を行なってください。
- エンジンを停止した状態でけん引走行するときでも、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。ステアリングロックが作動し、ステアリング操作ができなくなります。
- エンジンがかかっていないときは、ブレーキやステアリングの操作に、非常に大きな力が必要になります。
- けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

  ◇ ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。

  ◇ ロープの長さは5m以内とし、ロープの中央に白布（30cm×30cm以上）を付けて2台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。

  ◇ ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。

  ◇ けん引フック以外にはロープをかけないでください。

  ◇ ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。

  ◇ 走行中、ロープをたるませないように前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。
- 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときは、以下のいずれかの症状があらわれます

- 冷却水温度が約120℃以上を示している
- 走行中に冷却水温度警告灯が点灯し、警告音が鳴る
- エンジンルームから蒸気が出ている

警　告

- エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。漏れた冷却水が発火して火災が発生するおそれがあります。
- 水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や冷却水が吹き出して火傷をするおそれがあります。

注　意　!

- マルチファンクションディスプレイに、冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-11、10-12）をご覧ください。
- オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。
- オーバーヒートしたときは必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

エンジンファンが停止しているときや冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、エンジンファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足しているときは補給します（8-7）。

注　意　!

冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

バッテリーがあがったとき

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。容量の大きい太めのブースターケーブルを使用してください。

警　告

- 作業を始める前に必ず以降に記載する説明を読んでください。説明を守らないと、電気装備を損傷したり、バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。爆発したときに、けがをするおそれがあります。
- たばこなどの火気を近付けたり、火花を発生させたりしないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーを傾けないでください。

注　意！

マルチファンクションディスプレイに、バッテリーに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-8）をご覧ください。

知　識

- バッテリーあがりなどでリモコン操作で解錠できないときはエマージェンシーキーで運転席ドアを解錠します（3-26）。
- バッテリーあがりなどでセレクターレバーを P から動かすことができなくなったときは、パーキングロックを解除してください（5-21）。

始動の方法

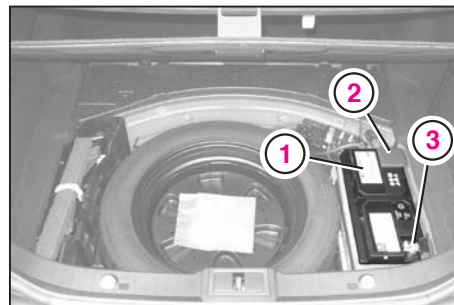
▶ バッテリー電圧が同じ(12V)で、バッテリー容量が同程度の救援車を用意します。

▶ 自車と救援車が接触していないことを確認します。

▶ パーキングブレーキを効かせ、セレクターレバーをPに入れます。

▶ 救援車のエンジンを停止して、両車の電気装備をすべて停止します(エンジンスイッチを0の位置にします)。

▶ トランクフロアボードを開きます(3-36)。

CLS 350 / CLS 550は、ラゲッジトレイを取り外します(3-36)。

CLS 350 / CLS 550
① バッテリー
② ⊕端子カバー
③ ⊖端子

▶ 救援車のバッテリーの⊕端子に赤色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車の⊕端子カバー②を取り外します。

▶ 自車のバッテリーの⊕端子に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。

※ 車種や仕様により、バッテリー①の上にはカバーがあります。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

▶ 救援車のバッテリーの⊖端子に黒色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車のバッテリーの⊖端子③に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 自車のエンジンを始動します。

注　意　！

電気回路を守るため、エンジンを始動したら、ただちにエアコンディショナーやリアデフォッガーなどの電気装備を作動させてください。ただし、ランプは点灯させないでください。

▶ 取り付けたときと逆の手順でケーブルを外します。

▶ 必要のない電気装備を停止します。

バッテリーがあがったとき

注 意 ！

- 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。
- 急速充電器などを接続してエンジンを始動しないでください。車の電気装備を損傷します。
- 触媒装置の損傷を避けるため、以下の点に注意してください。
  ◇「押しがけ」や下り勾配を利用してエンジンを始動しないでください。
  ◇ エンジンが暖まっているときは、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動しないでください。
  ◇ エンジン始動を2～3回試みても始動できないときは、時間をおいてから、再度始動してください。それでも始動しないときは指定サービス工場に連絡してください。
- エンジンを始動できたときも、すみやかに指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。
- ブースターケーブルは、十分な容量（太さ）のケーブルを使用してください。
  ◇ ケーブル部分や絶縁部分が損傷しているものは使用しないでください。
  ◇ ケーブルがエンジンファンやVベルトに巻き込まれないようにしてください。

知 識

- 放電したバッテリー液は、約－10℃で凍結します。凍結しているときは、火気を近付けずに50℃以上にならないようにバッテリー全体を暖め、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。
- バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下の作業が必要になることがあります。
  ◇ マルチファンクションコントローラーの再設定
  ◇ ドアウインドウのリセット（3-47）
  ◇ スライディングルーフ＊のリセット（3-53）

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ヒューズの交換

電気装備が作動しないときはヒューズが切れていることが考えられます。

ヒューズが切れているときは、ヒューズを交換してください。

ヒューズ一覧は(9-6)をご覧ください。

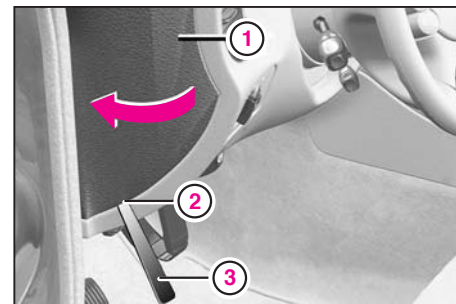
警 告

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズを使用しないでください。また、針金などで代用しないでください。火災などが発生するおそれがあります。

注 意 !

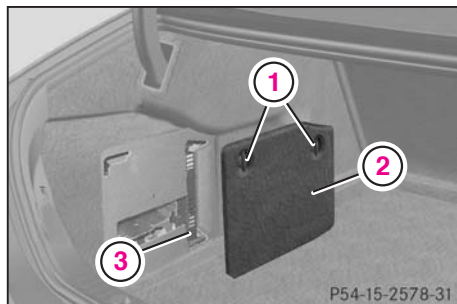
以下のようなときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

- ヒューズを交換してもすぐに切れるとき
- ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

ランプスイッチ横のヒューズボックス

左ハンドル車
① カバー
② 切り欠き部
③ ヘラなど

▶ 切り欠き部②にヘラなど③を差し込み、カバー①を開きます。

ヒューズブロック横にヒューズの配置表（英文）があります。

トランクルームのヒューズボックス

① ノブ
② カバー
③ ヒューズボックスカバー

- ▶ ノブ①を反時計回りにまわしてロックを外し、カバー②を取り外します。
- ▶ 内部右側にある、ヒューズボックスカバー③を取り外します。

ヒューズを交換する

- ▶ すべての電気装備を停止します。
- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ ヒューズ一覧（9-6）を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。
- ▶ 該当ヒューズを取り外します。
- ▶ ヒューズを点検して、心線部が切れている（溶断）ときは同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

電球の交換

電球が切れてランプが点灯しないときは、同規格・同容量の電球と交換してください。

LEDやキセノンヘッドランプ、リアランプ類はユニット交換になるため、必ず指定サービス工場に作業を依頼してください。その他の電球の交換も、指定サービス工場に作業を依頼することをお勧めします。

やむを得ずお客様ご自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

電球一覧は（9-5）をご覧ください。

警　告

- エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが2の位置のときは、キセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。
- キセノンヘッドランプのバルブ交換は、必ず指定サービス工場で行なってください。

マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ

マルチファンクションディスプレイにランプに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-12）をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

知　識

- ドアミラー方向指示灯やハイマウントブレーキランプ、リアブレーキランプは、すべてのLEDが切れたときにマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されます。
- 方向指示灯の電球が切れたときは、マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに加えて、メーターパネルの方向指示表示灯の点滅と作動音の間隔が短くなります。

スタンバイランプ機能

テールランプのいずれかの電球が切れると、他の電球が代替として点灯する場合があります。

電球の取り扱い

電球を交換するときは、以下の点に注意してください。

- 電球を交換するときは、手袋などを着用して、直接手で電球に触れないようにしてください。

  電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。電球に触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。
- 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になるおそれがあります。
- 電球が熱くなっているときは、電球に触れたり、電球を取り外さないでください。電球には圧力のかかったガスが封入されているため、破裂するおそれがあります。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

- ダイムラー社指定の点検整備

  ダイムラー社の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

- 1年および2年点検整備

  1年、2年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

  次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

  詳しくは指定サービス工場におたずねください。

メンテナンスインジケーター

メーカー指定点検整備の時期を知らせる目安として、メンテナンスインジケーターが装備されています(4-10)。

整備手帳

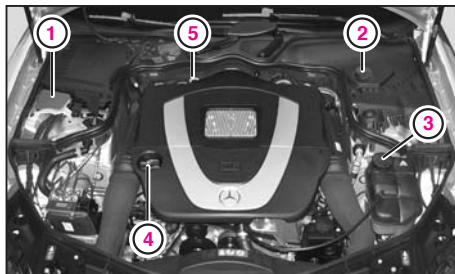
車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車をご使用される中で、お客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンルーム

CLS 350（左ハンドル車）

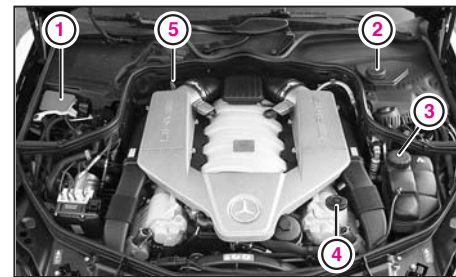
①	ウォッシャー液 リザーブタンク	8-14
②	ブレーキ液 リザーブタンク	8-12
③	冷却水リザーブタンク	8-6
④	エンジンオイル フィラーキャップ	8-10
⑤	エンジンオイル レベルゲージ	8-9

※右ハンドル車の①と②は左右対称の位置にあります。

※②の上にはカバーがあります。

CLS 550（左ハンドル車）

①	ウォッシャー液 リザーブタンク	8-14
②	ブレーキ液 リザーブタンク	8-12
③	冷却水リザーブタンク	8-6
④	エンジンオイル フィラーキャップ	8-10
⑤	エンジンオイル レベルゲージ	8-9

※右ハンドル車の①と②は左右対称の位置にあります。

※②の上にはカバーがあります。

CLS 63 AMG

①	ウォッシャー液 リザーブタンク	8-14
②	ブレーキ液 リザーブタンク	8-12
③	冷却水リザーブタンク	8-6
④	エンジンオイル フィラーキャップ	8-10
⑤	エンジンオイル レベルゲージ	8-9

※②の上にはカバーがあります。

※仕様により、部品の形状などがイラストと異なることがあります。

エンジンルーム内の点検

エンジンルーム内の各所を点検するときは以下の事項を厳守してください。

警　告

- イグニッションシステムおよびキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。
- エンジンスイッチからキーを抜いているときでも、冷却水の温度が高い場合はエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

環　境

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルード類の交換・廃棄は、指定サービス工場で行なってください。

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電をしないように注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

注　意　！

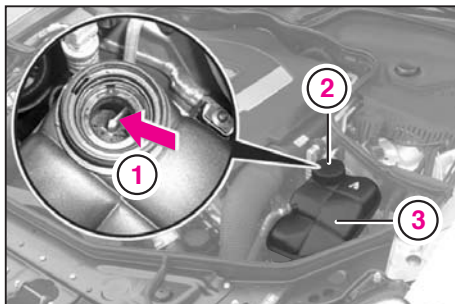
- エンジンや補器類の熱や動きに十分注意してください。火傷やけがをするおそれがあります。
- ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。
- 作業は安全な場所を選択して行なってください。
- 適切な工具を使用してください。
- 部品や工具をエンジンの上など、エンジンルーム内に置かないでください。中に落とすおそれがあります。
- 油脂類（オイルなど）やフルード類（ブレーキ液、ウォッシャー液、冷却水など）は、十分注意して取り扱ってください。万一目に入った場合は、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、すぐに石けんを使用して洗い流してください。放置すると皮膚に障害を起こすおそれがあります。
- 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

Vベルト

自動調整式なので、調整の必要はありません。

亀裂や損傷がないことを確認してください。

冷却水

冷却水の量を点検する

① バー
② キャップ
③ リザーブタンク

冷却水はリザーブタンクで点検と補給を行ないます。

▶ 水平な場所に停車します。

冷却水が冷えている状態で、リザーブタンク③の白と黒の境目まで液面があれば適量です。

または

▶ 水平な場所に停車します。

リザーブタンク③のキャップ②を反時計回りにゆっくり約1回転半までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ②をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面がバー①に達していれば適量です。

警　告

- 水温が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や冷却水が吹き出して、火傷をするおそれがあります。
- 不凍液をエンジンルームにこぼさないようにしてください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

注　意！

冷却水の減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

水温が高いときは液面が約15mmほど高くなります。

注 意 ！

- 冷却水量・冷却水温度警告灯（3-65）が頻繁に点灯するときは、冷却水が漏れている可能性があります。指定サービス工場で点検を受けてください。
- 冷却水が適量でも、冷却水量・冷却水温度警告灯が点灯しているときは、冷却装置が故障しています。安全な場所に停車してエンジンを停止し、冷却水が冷えてから冷却水量を点検してください。また、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、冷却水が冷えているときにリザーブタンクに補給します。

▶ リザーブタンク③のキャップ②を反時計回りにゆっくりと約1回転半までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ②をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域（最低気温）によって濃度を変えます。

不凍液の濃度

不凍液混合率	凍結温度
約50%	－37℃
約55%	－45℃

注　意　!

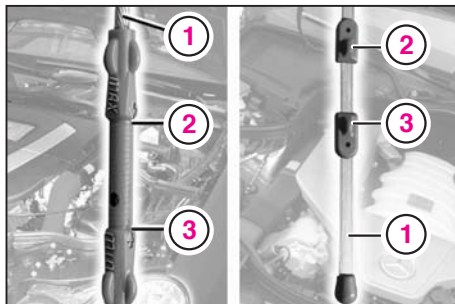
- 冷却水の補給は、冷却水が冷えてから行なってください。
- 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。
- 不凍液の濃度は50%から55%の間にしてください。濃度を55%以上にすると、冷却性能が低下します。
- 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。
- 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すぐに水で洗い流してください。
- マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

エンジンオイル

エンジンオイルの量を点検する

① エンジンオイルレベルゲージ
② 上限
③ 下限

知　識

車種や仕様により、エンジンオイルレベルゲージの形状が異なります。

▶ 水平な場所に停車します。

▶ エンジンを始動させ、エンジンオイルを温めます。

▶ エンジンを停止して、5分ほど待ちます。

エンジンが冷えているときは、約30分以上待ちます。

▶ エンジンオイルレベルゲージ①を抜き取り、きれいに拭いて差し込みます。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。オイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限②と下限③の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイルが下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

注　意　！

- エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。
- マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-12）をご覧ください。

知　識

慣らし運転中のエンジンオイル消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

エンジンオイルを補給する

CLS 550
① エンジンオイルフィラーキャップ

- エンジンオイルフィラーキャップ①を反時計回りにまわして、取り外します。
- 指定のエンジンオイルを補給します。

  安全に十分注意して、作業を行なってください。
- エンジンオイルフィラーキャップ①を補給口に合わせ、時計回りにまわして、確実に取り付けます。

警　告

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

注　意！

マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-12）をご覧ください。

環　境

環境保護のため、エンジンオイルを地面や排水溝などに流さないでください。

エンジンオイルの交換時期

エンジンオイルおよびフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

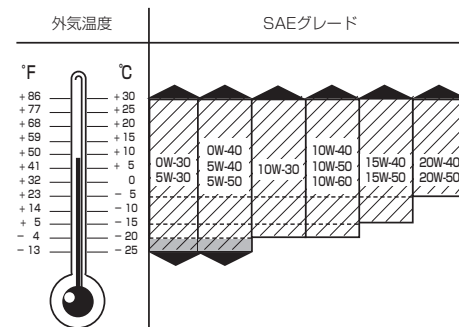
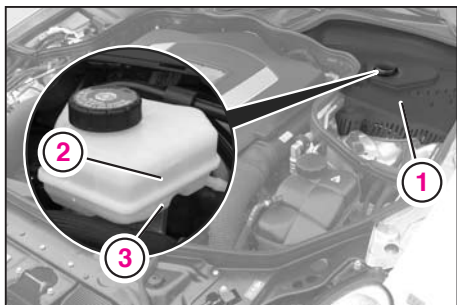
ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

注　意　！

- 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。
- 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。
- エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。
- エンジンオイルの量が多すぎると故障の原因になることがあります。
- エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
- エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

ブレーキ液

左ハンドル車
① カバー
② レベルインジケーター上限（MAX）
③ レベルインジケーター下限（MIN）

ブレーキ液の量を点検する

▶ ブレーキ液リザーブタンク上部のカバー①を取り外します。

▶ ブレーキ液の液面が、ブレーキ液リザーブタンクのレベルインジケーター上限（MAX）②と下限（MIN）③の間にあれば正常です。

注　意　！

マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは **（10-10）**をご覧ください。

ブレーキ液の交換

定期的に指定サービス工場で交換をしてください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

警　告

- マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり、ブレーキ警告灯**（5-35）**が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

  安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

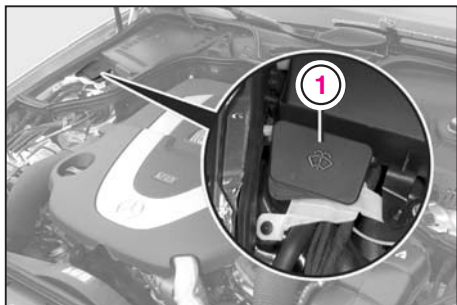
- 必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。
- ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液が熱くなったエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

注 意 ！

- ブレーキ液の減りかたが著しいときは、指定サービス工場で点検を受けてください。
- ブレーキ液の補給や交換は、指定サービス工場で行なってください。
- 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- ブレーキ液レベルの上限を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。
- ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロック：長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

ウォッシャー液を補給する

左ハンドル車
① ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ

警　告

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときには補給しないでください。

▶ リザーブタンクのキャップ①を開いて補給します。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します（9-9）。

知　識

- ウォッシャー液には夏用と冬用の2種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。
- ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

注　意　！

- ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。
- 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-13）をご覧ください。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認された製品を使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

タイヤの点検

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態（別冊「整備手帳」）を見て、空気圧が適切であるか点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないか、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないか点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり極端にすり減っていないか点検します。スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

警　告

- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が現われたら、すぐに交換してください。タイヤの溝の深さが3mm以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。
- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります**(8-17)**。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトはホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。
- 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

注 意 !

- タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
- タイヤのトレッドやサイドウォールがひどくすり減ったり、損傷しているときは交換してください。
- タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの摩耗を点検するときは、必ずタイヤの内側も点検してください。
- ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全性に支障をきたすおそれがあります。
- 回転方向が指定されているタイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。
- 路面の段差などを乗り越えるときは、速度を落とし、注意して走行してください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。
- 純正品または承認された製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。
- 装着するタイヤは指定されたサイズ、および4輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なるタイヤを組み合わせて装着すると、操縦性に悪影響をおよぼし、事故を起こすおそれがあります。
- 摩耗具合にかかわらず、6年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

  応急用スペアタイヤも同様に交換してください。
- タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なるため、タイヤローテーションは行なわないでください。前後のタイヤを入れ替えると車の安定性や操縦性が確保できません。

知 識

- 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約100kmを超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。
- 取り外したタイヤは、オイルやグリース類の付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルの例

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

タイヤ空気圧ラベルは、燃料給油フラップ裏側に貼付されています。

乗車人数と荷物の量に応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は「bar（≒kg/cm^2）」と「psi」で示しています。

知　識

"up to 210km/h" の表示がある場合は、"up to 210km/h" の空気圧に調整してください。

注　意　！

必ず法定速度を守って走行してください。

警　告

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、タイヤ空気圧警告システムが正しく作動しなくなったり、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

知　識

- 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず点検を行なってください。
- 走行した直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約0.3barほど空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
- 応急用スペアタイヤの空気圧については（9-12）をご覧ください。

環　境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーを取り扱うときは以下の点に十分注意してください。

警　告

静電気に注意

静電気が発生すると、可燃性のガスに引火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。以下のことに注意してください。

- 布などでバッテリーを拭かないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。

また、バッテリーに火気を近付けないでください。

バッテリー液に注意

- バッテリーを取り扱うときは、傾けたり横倒しにしないでください。バッテリー液が漏れるおそれがあります。
- バッテリー液が目に入ると失明するおそれがあります。バッテリーを取り扱うときは、保護眼鏡を着用してください。
- バッテリー液が皮膚に付着すると火傷を起こします。すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- バッテリーケース側面部の液量表示が「min」以下のときは、エンジンを始動したりバッテリーを充電しないでください。液量不足のまま充電すると、劣化を早めたり爆発するおそれがあります。ただちに点検を受けてください。

ショートに注意

バッテリーをショートさせると、可燃性のガスに引火して、バッテリーが爆発するおそれがあります。以下のことに注意してください。

- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- 接続するときは、極性（プラス⊕、マイナス⊖）を間違えないように注意してください。

子供に注意

バッテリーを取り扱うときは、子供を近寄らせないでください。

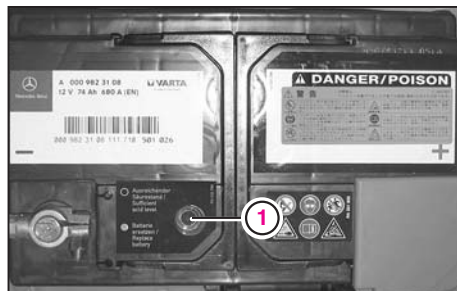
注　意！

- バッテリー液が衣類や塗装面などに付着すると、腐食が起こります。ただちに多量の流水で洗い流してください。
- 指定のバッテリーを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。
- エンジンがかかっているときや始動するときは、バッテリー端子を外したり、ゆるめないでください。
- 定期的にバッテリーの点検を行なってください。バッテリー液が減っているときはバッテリー液を補給してください。
- 車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。
- バッテリーを充電するときは車から取り外してください。
- バッテリー端子の取り付けボルトは確実に締め付けてください。

知　識

- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、わずかに電力を消費します。駐車中はバッテリー保護のためエンジンスイッチからキーを抜いてください。
- バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下の作業が必要になることがあります。
  - ◇ マルチファンクションコントローラーの再設定
  - ◇ パワーウインドウのリセット
  - ◇ スライディングルーフ＊のリセット
- バッテリーのあがりを防ぎ、バッテリーの寿命を延ばすために以下のことをお守りください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。
  - ◇ エンジンを始動しない期間が約4週間以上におよぶときは、バッテリーケーブルの接続を外してください。
  - ◇ バッテリーケーブルの接続を外しているときは少なくとも約6カ月に一度、バッテリーケーブルを接続しているときは少なくとも約6週間に一度、バッテリーを充電してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

インジケーター付きバッテリー

① インジケーター

ケースが黒色で、上面にインジケーター①があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター①は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

VRLAバッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面にVRLA-BATTERYのラベルがある場合は、バッテリー液量の点検や補充はできません。また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。点検については指定サービス工場におたずねください。

環　境

環境保護のため、使用済みのバッテリーは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

ウィンタータイヤ / スノーチェーン

積雪地域では、ウィンタータイヤやスノーチェーンが必要です (8-26、27、9-13)。

スノーチェーンは、ダイムラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地方の場合、1年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやトランクの凍結

ドアやトランクが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやトランクが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやトランクを開こうとすると、周囲の防水シールを損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり、フェンダーの内側に雪が詰まって固まっていると、ボディを損傷したり、車のコントロールを失って事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

寒冷時の取り扱い

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、トランク、ドアウインドウ、スライディングルーフ＊などが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

また、ドアミラーは手で動かさないでください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道を走行するとき

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 走行モードをCモードに切り替えてください（5-7）。
- ホールド機能やクルーズコントロール、ディストロニック＊を使用しないでください。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などを避けてください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

  このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

警　告

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り、一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、セレクターレバーを P に入れ、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないように心がけてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤを装着することでABSやESPの効果が発揮されます。

装着するウィンタータイヤは、指定されたサイズで4輪とも同じ銘柄のものにしてください（9-13）。

注 意 ！

- 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。
- ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤを装着すると、車両安定性や制動性能が大きく低下するので注意してください。
- スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。
- ウィンタータイヤの溝の深さが4mm以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、ホールド機能やクルーズコントロール、ディストロニック＊は使用しないでください。
- 取り外したウィンタータイヤは、オイルやグリース類の付着するおそれのない、乾燥した冷暗所で保管してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

- スノーチェーンは、ダイムラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。
- スノーチェーンは必ず後輪に装着してください。
- スノーチェーン装着時は約30km/h以下の速度で走行してください。
- スノーチェーン装着時は、ESPの機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

※ ウィンタータイヤやスノーチェーンについて、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

注 意 !

- スポーツパッケージ装着車とCLS 63 AMGは、標準タイヤ/ ホイールにはスノーチェーンを装着しないでください。
- AIRマティックDCサスペンション装備車にスノーチェーンを装着したときは、車高調整スイッチで車高を上げて走行してください (5-49)。標準の車高では、スノーチェーンがボディに接触し、ボディを損傷するおそれがあります。
- 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。
- スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、ダイムラー社が指定する用品のみを使用してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

警　告

- 一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。
- 車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- 車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に1度は洗車をしてください。
- 飛び石により塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、ガソリンおよびタールなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいので、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。

- 直射日光が強く当たる場所や走行直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ボディの表面にステッカーやフィルム、マグネットなどを貼り付けないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めに指定サービス工場で補修することをお勧めします。

車内

- プラスチック部分は、少量の中性洗剤などを混ぜた水を柔らかい布に含ませて拭き取ります。

  また、乾いた布や目の粗い布、かたい布などを使用したり、強くこすらないでください。表面を損傷するおそれがあります。
- ウッドトリムなどの部分は、水で湿らせた柔らかい布を使用して拭き取ります。頑固な汚れには少量の石けん水を使用します。

  また、有機溶剤を含むクリーナーなどは使用しないでください。ウッドトリムなどを損傷するおそれがあります。
- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼り付けるとラジオなどの電波の受信性能が低下するおそれがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

警　告

エアバッグの収納部分には、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなり、けがをするおそれがあります。

洗車

- ▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。
- ▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。
- ▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。
- ▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるので、早めに処理してください。
- 洗車をするときはマフラーやその周辺に注意してください。マフラーやその周辺に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ディスクを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。
- ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。また、乾いた布などで強くこすると細かい傷を付けるおそれがあります。

- パークトロニックセンサーを清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。
- ディストロニックセンサー＊のカバーを清掃するときは、エンジンスイッチを0の位置にするかキー抜いてください。

高圧式スプレーガンの使用

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをウインドウガラス接合面やボディパネルの継ぎ目部分、サスペンション、電気装備、コネクター類などに近付けないでください。水圧が高いため、車内に水が侵入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。
- パークトロニックセンサーには、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

自動洗車機の使用

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。
- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- ワイパーの作動モードを停止の位置にしてください。
- ホールド機能を使用しないでください。
- 回転ブラシのかたさによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 洗車後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

純正部品 / 純正アクセサリー

ダイムラー社では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

メルセデス・ベンツ純正部品は厳格な基準により品質管理されております。点検や整備、修理のときは必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、ダイムラー社またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

警　告

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品に、純正部品以外のものを使用しないでください。事故や故障の原因になります。

注　意　！

- 以下の場所の周囲には、エアバッグやシートベルトテンショナーのコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオや電装品を追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、エアバッグやシートベルトテンショナーの作動に悪影響を与えるおそれがあります。
  - ◇ エアバッグ収納部
  - ◇ シートベルト
  - ◇ インストルメントパネル
  - ◇ センターコンソール
  - ◇ ドア
  - ◇ シート
  - ◇ センターピラーのフロアパネル付近

  詳しくは指定サービス工場におたずねください。
- 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因となります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。
- ウインドウに透明な吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズとして作用して、火災が発生するおそれがあります。
- 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えることがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。

知　識

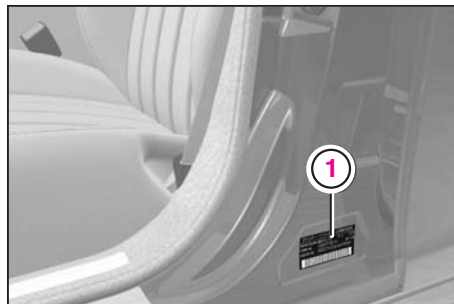
純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

環　境

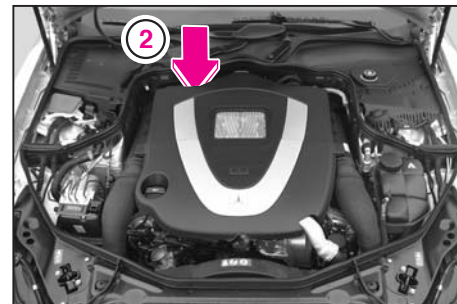
ダイムラー社では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号あるいはエンジン番号などが必要になることがあります。

ニューカープレート

① ニューカープレート

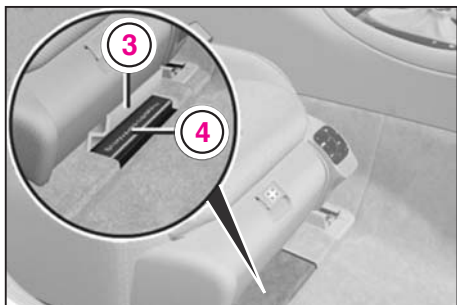
運転席側または助手席側のセンターピラー下部に、車の車台番号およびカラーコードを記載したニューカープレート①が貼付してあります。

エンジン番号

CLS 550
② エンジン番号

エンジンブロック後部にエンジン番号②が打刻してあります。

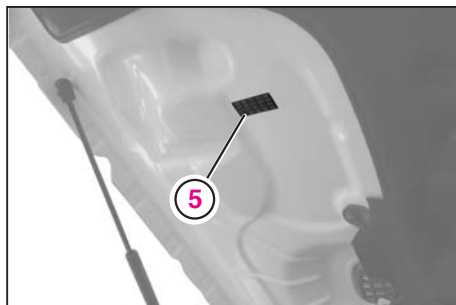
詳しくは指定サービス工場におたずねください。

ビークルプレート

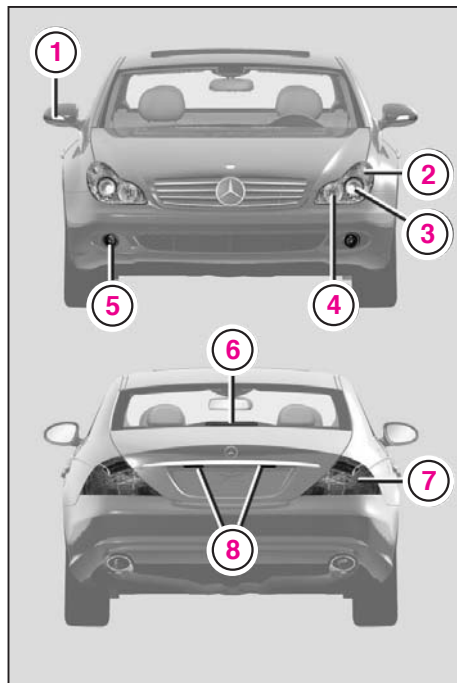
車台番号

③ カバー
④ 車台番号

右側前席足元のカーペット下に車台番号④が打刻してあります。

▶ シートを後方の位置にして、シートクッション前端部を上げてから、カバー③を引き上げます。

オプションコードプレート

⑤ オプションプレート

ボンネットの裏側にオプションコードを記載したプレート⑤が貼付してあります。

電球一覧

	ランプ	ワット数（規格）
①	ドアミラー方向指示灯	LED（発光ダイオード）
②	フロント方向指示灯	21W（黄色）
③	ヘッドランプ（上向き / 下向き）	35W（キセノンD2S）
④	ヘッドランプ（上向き）	55W（H7）
	車幅灯 / フロントパーキングランプ	5W
⑤	フロントフォグランプ	55W（H7）または55W（H11）
⑥	ハイマウントブレーキランプ	LED（発光ダイオード）
⑦	リアランプユニット	
⑧	ライセンスランプ	5W

注 意 ！

電球の交換を行なうときは、車両に装着されている電球の規格を確認してください。

知 識

- リアフォグランプは右側のみです。
- リアランプはユニット交換になるため、必ず指定サービス工場で交換作業を行なってください。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ヒューズ一覧

ヒューズ一覧

ヒューズボックス 1（トランクルーム内）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
1	30A	シート調整（前席）
2	30A	シート調整（前席）
3	7.5A	ナビゲーションシステム、パークトロニック、タイヤ空気圧警告システム、テレビ
4	20A	燃料ポンプ
5	—	未使用
6	40A	ラジオ
7	—	未使用
8	7.5A	アンテナモジュール、盗難防止警報システム
9	25A	読書灯、自動防眩ルームミラー、センターコンソールランプ、ライト / レインセンサー、スライディングルーフ
10	40A	リアデフォッガー
11	20A	自動開閉トランクリッド
12	15A	12V電源ソケット
13	15A	マルチコントロールシートバック
14	—	未使用
15	10A	燃料給油フラップ
16	20A	オプション
17	—	未使用
18	5A	オプション
19	20A	マルチコントロールシートバック
20	7.5A	ブレーキランプ、リアブラインド

ヒューズボックス 2（ランプスイッチ横）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
21	30A	アンビエントランプ、セントラルロッキングシステム、パワーウインドウ（後席）、乗降用ランプ、ドア赤色灯
22	30A	アンビエントランプ、セントラルロッキングシステム、パワーウインドウ（後席）、乗降用ランプ、ドア赤色灯、ドアミラー
23	30A	シート調整（前席）
24	—	未使用
25	—	未使用
26	7.5A	CDチェンジャー
27	—	未使用
28	5A	ラジオ
29	7.5A	ステアリングロック、ステアリング調整
30	7.5A	診断ソケット

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
31	5A	セントラルロッキングシステム、非常点滅灯、シートヒーター（前席）、リアブラインド
32	30A	アンビエントランプ、セントラルロッキングシステム、パワーウインドウ（後席）、乗降用ランプ、ドア赤色灯
33	30A	アンビエントランプ、セントラルロッキングシステム、パワーウインドウ（後席）、乗降用ランプ、ドア赤色灯、ドアミラー
34	30A	シート調整（前席）
35	—	未使用
36	25A	シートヒーター（前席）
37	15A	AIRマティックDCサスペンション、車高調整
38	7.5A	NECK PROアクティブヘッドレスト
39	5A	AIRマティックDCサスペンション、パークトロニック
40	—	未使用
41	5A	AIRマティックDCサスペンション、アンビエントランプ、セントラルロッキングシステム、エンジンエレクトロニクス、非常点滅灯、パークトロニック、パワーウインドウ（前席・後席）、読書灯、シート調整（前席）、シートヒーター（前席）、ステアリング調整、自動防眩ルームミラー、センターコンソールランプ、乗降用ランプ、ドア赤色灯、ドアミラー、ステアリングロック、車高調整、ライト / レインセンサー、リアブラインド、スライディングルーフ
42	7.5A	エンジンエレクトロニクス

（A 211 545 06 00 2.5.2005）

知　識

仕様 / 装備などの違いにより、装備されているヒューズが異なることがあります。

注　意　！

ヒューズボックス1、2以外のヒューズには手を触れないでください。

オイル・液類

オイル・液類

必ずダイムラー社の純正品または指定品のみを使用してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

油脂類	車種	容量（ℓ）	指定品目	備考
エンジンオイル	CLS 350	約8.0	承認オイル	オイルフィルター分を含む
	CLS 550	約8.5		
	CLS 63 AMG	約8.8		
ディファレンシャルオイル	全車	―	承認オイル	ハイポイドギアオイル SAE90、85W90
パワーステアリングオイル	全車	―	純正パワーステアリングオイル	専用オイル
ブレーキ液	全車	―	純正ブレーキ液	DOT 4規格

※ 記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

油脂類	車種	容量（ℓ）	指定品目	備考
冷却水	CLS 350	約10.0	純正不凍液	• 交換時注入量（オイルフィルター分を含む） • 水に純正不凍液を混ぜて使用 • 濃度に注意
	CLS 550	約11.3		
	CLS 63 AMG	約11.8		
ウォッシャー液	全車	約7.0	純正ウインドウウォッシャー液冬用、夏用	水と純正ウォッシャー液を混ぜて使用
バッテリー	全車		12V / 90Ah、95Ah、100Ah	トランクルーム内に装備
エアコンディショナー冷媒	全車		R134a	R-12を使用しないこと
燃料	全車	約80.0	無鉛プレミアムガソリン	警告灯点灯時の残量約8.0ℓ ～約9.0ℓ（CLS 63 AMGは約14.0ℓ ）

※ 記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

注 意 !

- オートマチックトランスミッションオイルの交換については別冊「整備手帳」をご参照ください。
- オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。
- オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、指定サービス工場で点検を受けてください。
- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。
- 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンが故障したり、火災が発生するおそれがあります。
- 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用して、故障が発生した場合は保証の適用外となりますので、ご了承ください。

※ 記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

タイヤとホイール

標準タイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
CLS 350	245 / 40R18	8.5J×18	前輪 28mm 後輪 18mm
CLS 350 スポーツパッケージ	前輪 245 / 40R18 後輪 275 / 35R18	前輪 8.5J×18 後輪 9.5J×18	前輪 28mm 後輪 33mm
CLS 550	245 / 40R18	8.5J×18	前輪 28mm 後輪 18mm
CLS 550 スポーツパッケージ	前輪 245 / 40R18 後輪 275 / 35R18	前輪 8.5J×18 後輪 9.5J×18	前輪 28mm 後輪 33mm
CLS 63 AMG	前輪 255 / 35R19 後輪 285 / 30R19	前輪 8.5J×19 後輪 9.5J×19	前輪 30mm 後輪 28mm

注 意 !

- CLS 350スポーツパッケージとCLS 550スポーツパッケージ、およびCLS 63 AMGの標準タイヤ / ホイールにはスノーチェーンを装着しないでください。

- タイヤローテーションは行なわないでください。

※ 記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

タイヤとホイール

応急用スペアタイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	空気圧
CLS 350 CLS 350 スポーツパッケージ CLS 550 CLS 550 スポーツパッケージ	T 155 / 70R17	4.0B×17	34mm	4.2bar / 60psi / 420kpa
CLS 63 AMG	175 / 55-18	6.0B×18	25mm	3.5bar / 51psi

注　意　！

応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

※ 記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ウィンタータイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
CLS 350 CLS 350 スポーツパッケージ CLS 550 CLS 550 スポーツパッケージ	245 / 40R18	8.5J×18	前輪 28mm 後輪 18mm
CLS 63 AMG	245 / 40R18	8.5J×18	25mm

注 意 !

ウィンタータイヤのサイズはダイムラー社が指定するもので、日本国内で発売されているスタッドレスタイヤは、表記のサイズに対応していないことがあります。

知 識

- スノーチェーンはウィンタータイヤの後輪に装着することができます。
- ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、指定サービス工場におたずねください。

※ 記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

積載荷物の制限重量

積載荷物の制限重量

ルーフ	トランク
100kg （CLS 350 / CLS 550）	100kg （全車）

知　識

ルーフの制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

※ 記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

故障 / 警告メッセージ

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

知　識

- 故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。また、重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。
- 重要度の低いメッセージは、数秒後に自動的に消えます。
- ステアリングの ▤ ▤ や ⇧⇩、またはリセットボタン（3-62）を押すと、メッセージが消え、故障内容が記憶されます。
- 重要度の高いメッセージは、故障や異常が解消するまで、メッセージが消えない場合があります。

注　意！

- 走行する前にエンジンスイッチを**2**の位置にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを必ず確認してください。
- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車の操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。
- 表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。この故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。
- 点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えた指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

  特に安全に関わる整備については、必ず指定サービス工場で点検整備や修理を行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

文字メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
ABS	ABS, ESP ｺｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABSとESP、PRE-SAFEの機能が解除されている。同時にBASの機能も解除されている。 通常のブレーキ時の制動力は確保されている。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ABS ﾄ ESP ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ! ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、ABSとESP、PRE-SAFEの機能が解除されている。同時にBASの機能も解除されている。 通常のブレーキ時の制動力は確保されている。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ	- - -	ディストロニック＊の作動条件を満たしていない。例えば、約30km/h以下の速度でディストロニックを作動させようとした。	▶ ディストロニックの作動条件を確認してください（5-59）。 ▶ 設定可能な状況であれば、約30km/h以上の速度で走行し、ディストロニックを設定してください。
	ｺｼｮｳ	ディストロニック＊が故障している。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｹﾞﾝｻﾞｲ ｼｮｳﾌｶﾉｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	以下のときは、ディストロニック＊が解除され、一時的に作動を停止している。 • フロントグリルのディストロニックカバーが汚れている • 豪雨や雪、霧などのため、機能が解除されている • 電磁波の干渉などにより、センサーが一時的に作動を停止している • 静止物などを長時間にわたり検知していたため、センサーが先行車か静止物かを正確に検知できなくなっている	以下のときは、エンジンを再始動しなくてもメッセージが消え、ディストロニック＊が作動を再開します。 • 走行中に、しぶきなどで汚れが洗い流されたとき • センサーが再び完全に機能していることを、システムが検知したとき **メッセージが消えないとき** ▶ フロントグリルのディストロニックカバーを清掃してください（8-31）。 ▶ エンジンを再始動してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
ESP	ESP コショウ	⚠ 事故のおそれがあります 故障のため、ESPとBAS、PRE-SAFEの機能も解除されている。 ESP表示灯が点灯している。 通常のブレーキ時の制動力は確保されている。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
P	セレクタレバ゛ー P ニ シテクダ゛サイ	ホールド機能が作動しているときに以下の操作をした。 • 運転席の乗員がシートベルトを外して、運転席ドアを開いた • エンジンスイッチを0か1の位置にした • ボンネットのロックを解除した	▶ セレクターレバーをPに入れてから、エンジンを始動してください。
	プ゛レセーフ コショウ マニュアル ヲ サンショウ!	PRE-SAFEが故障している。 エアバッグなど他の乗員保護補助装置の機能は確保されている。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
	ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ ﾀｲﾔ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの空気漏れを検知した。	▶ 周囲の状況に注意しながら、急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。 ▶ タイヤを点検してください。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であればタイヤ空気圧を適正にしてください。 ▶ 必要であれば該当するタイヤを交換してください（7-6）。 ▶ タイヤを交換し、適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（4-7）。
	ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｺｼｮｳ	故障のため、タイヤ空気圧警告システムの機能が解除されている。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾀｲﾔ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｿﾉｺﾞ ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれた。	▶ すべてのタイヤの空気圧が適正であることを確認してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（4-7）。
ﾎｰﾙﾄﾞ	ｵﾌ	車が横滑りをしているか、ブレーキペダルを深く踏んだため、ホールド機能が解除されている。	▶ 安全な状況で、再度ホールド機能を作動させてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
ﾎｰﾙﾄﾞ	ｻﾄﾞｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	ホールドの作動条件を満たしていない。	▶ ホールドの作動条件を確認してください（5-41）。 ▶ ボンネットを確実に閉じてください。 ▶ 運転席ドアを閉じてください。 ▶ エンジンをかけてください。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 ▶ 必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、ホールドは作動できるようになります。
ﾎｰﾙﾄﾞ	ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	ホールド機能が故障している。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
ｽﾋﾟｰﾄﾞ ﾘﾐｯﾀｰ	ｺｼｮｳ	クルーズコントロールまたはディストロニック＊、可変スピードリミッターが故障している。	▶ 指定サービス工場でクルーズコントロールまたはディストロニック、可変スピードリミッターの点検を受けてください。
SRS	SRSｼｽﾃﾑ ｼﾃｲ ﾉ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	乗員保護補助装置（エアバッグ、シートベルトテンショナーなど）が故障している。	▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ	- - -	クルーズコントロールの作動条件を満たしていない。例えば、約30km/h以下の速度でクルーズコントロールを作動させようとした。	▶ クルーズコントロールの作動条件を確認してください（5-53）。 ▶ 設定可能な状況であれば、約30km/h以上の速度で走行し、クルーズコントロールを設定してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

故障 / 警告メッセージ

イラストメッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
		以下の原因により、バッテリーが充電されていない。 • オルタネーターの故障 • Vベルトの損傷 • 電気システムの損傷	▶ 周囲の状況に注意しながら、ただちに停車してください。 ▶ Vベルトを点検してください。 **Vベルトが切れているとき** ▶ 走行しないでください。 ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。 **Vベルトが切れていないとき** ▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
		トランクが完全に閉じていない状態で走行している。	▶ トランクを閉じてください。
		⚠ **事故のおそれがあります** ボンネットが完全に閉じていない状態で走行している。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ ボンネットを閉じてください。
		⚠ **事故のおそれがあります** ドアが完全に閉じていない状態で走行している。	▶ ドアを閉じてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
		ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。	▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。
	ｼｬｺｳ ｶﾞ ｱｶﾞﾘﾏｽ	車高が上昇している。	
	ｼｬｺｳ ｶﾞ ｱｶﾞﾘﾏｽ ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ	停車時の車高が下がりすぎている。	▶ 走行しないでください。 ▶ メッセージが消えるまで待ってください。 車高が走行に適したレベルになるとメッセージが消えます。
	ﾃｲｼｬ、ｼｬｺｳ ｶﾞ ﾋｸｽｷﾞﾏｽ!	⚠ **事故のおそれがあります** AIRマティックDCサスペンションが故障している。	ステアリングを大きくまわさないでください。フロントのフェンダーやタイヤを損傷するおそれがあります。タイヤとボディの擦れる音がしないか確認してください。 ▶ 80km/hを超えないように走行してください。 ▶ 路肩まで走行し、より高い車高レベルを選択してください。故障内容によっては、これにより車高が上がることがあります。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｺｼｮｳ	AIRマティックDCサスペンションの機能の一部が制限されている。車両操縦性に影響が出ているおそれがある。	▶ 80km/hを超えないように走行してください。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾌﾞﾚｰｷ ﾊﾟｯﾄﾞ ﾏﾓｳ	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。	▶ すみやかに指定サービス工場でブレーキパッドを交換してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
	ｽｸﾞﾆ ﾌﾞﾚｰｷｦ ﾌﾝﾃﾞｸﾀﾞｻｲ!	ホールド機能の作動中に異常が発生している。ホーンが鳴っている。	▶ マルチファンクションディスプレイの表示が消えるまで、ただちにブレーキペダルを強く踏んでください。 ▶ 車から離れるときは、輪止めを使用するなど、車が動かないように十分注意してください。
	EBV, ABS, ESP ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、EBVとABS、ESPの機能が解除されている。同時にBASとPRE-SAFEの機能も解除されている。 通常のブレーキ時の制動力は確保されている。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾌﾞﾚｰｷ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾃﾝｹﾝ	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。	▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。 ▶ 状況を問わず、ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷ ｶｲｼﾞｮ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	パーキングブレーキを解除しないで走行している。	▶ パーキングブレーキを解除してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
	ﾌｭｰｴﾙ ﾌｨﾙﾀ ｾｲｿｳ		▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬ ｼﾃ､ ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ!	冷却水の温度が高すぎる。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ メッセージが消えてからエンジンを始動してください。メッセージが消えるまで待たないと、エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
		Vベルトが切れている可能性がある。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ Vベルトを点検してください。 **Vベルトが切れていないとき** ▶ メッセージが消えない場合はエンジンを始動しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。 **Vベルトが切れているとき** ▶ 走行しないでください。 ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。

故障 / 警告メッセージ

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状	対応
ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾎｼﾞｭｳ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	冷却水量が不足している。	▶ 冷却水を補給してください（8-7）。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給している場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾋﾀﾞﾘ ﾛｰ ﾋﾞｰﾑ[1]	左ヘッドランプ(ロービーム)が切れている。	▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
ｵｰﾄﾗｲﾄ ｺｼｮｳ	ランプセンサーが故障している。自動的にランプが点灯する。	▶ マルチファンクションディスプレイの各種設定で、ランプを手動点灯に切り替えてください（4-35）。 ▶ ランプスイッチでランプを点灯 / 消灯してください。
ｴｱｸﾘｰﾅ ｺｳｶﾝ	エンジンエアフィルターの交換時期になっている。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
ｷｭｳﾕ ﾉ ｻｲﾆ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ﾃﾝｹﾝ	エンジンオイル量が限界まで下がっている。	▶ エンジンオイル量を点検し、必要であれば補給してください（8-9、10）。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、指定サービス工場で、エンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。

1）他のランプが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。
車外ランプのいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。

	ディスプレイ表示	考えられる原因および症状	対応
	ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ ｺｼｮｳ ｼﾃｲ ﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	1つ以上の電気システムがマルチファンクションディスプレイに情報を表示できない状態になっている。以下のシステムが故障している可能性がある。 • 冷却水温度計 • タコメーター • クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターの表示	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｷｰ ｦ ｺｳｶﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	キーが機能しなくなっている。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾈﾝﾘｮｳﾘｻﾞｰﾌﾞ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	燃料の残量が少なくなっている。	▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	ｳｫｯｼｬｴｷ ﾎｼﾞｭｳ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	リザーブタンク内のウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。	▶ ウォッシャー液を補給してください（8-14）。

トラブルの原因と対応

スイッチやボタンの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状	対応
シートヒータースイッチの表示灯が点滅している。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下し、シートヒーターが自動的に停止している。	▶ 必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、シートヒーターは自動的に作動を開始します。
エアコンディショナーのACスイッチの表示灯が点灯しなかったり、点滅する。エアコンディショナーのACスイッチを押しても、除湿 / 冷房されない。	エアコンディショナーの冷媒が不足している。	▶ 指定サービス工場でエアコンディショナーの点検を受けてください。
リアデフォッガースイッチの表示灯が点滅している。リアデフォッガーが短時間で停止したり、スイッチを押しても作動しない。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下し、リアデフォッガーが自動的に停止している。	▶ 必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動を開始します。

トラブル	考えられる原因および症状	対応
CLS 63 AMG： センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している。	助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されているため、助手席エアバッグが作動しない状態になっている。	
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されていない場合は、チャイルドセーフティシート検知システムが故障している。	▶ 助手席のシート座面に以下のものを置いているときは取り除いてください。 • パソコン • 携帯電話 • 磁気カードやICカード **電子機器やカードを取り除いても助手席エアバッグオフ表示灯が点灯する** ▶ 指定サービス工場でチャイルドセーフティシート検知システムの点検を受けてください。
CLS 63 AMG を除く車種： センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が一時的に点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** チャイルドセーフティシート検知システムを装備していないため、センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着しても、助手席エアバッグが作動する状態になっている。	▶ チャイルドセーフティシートを後席に装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、前向きで使用し、助手席シートの位置をもっとも後ろの位置にしてください。

トラブルの原因と対応

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状	対応
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色のABS警告灯が点灯する。	⚠ 事故のおそれがあります 故障のため、ABSの機能が解除されている。同時にBASとESP、さらにEBVとPRE-SAFEなどの機能も解除されている。 上記の機能は作動しないが、ブレーキは通常通り作動する。ただし、急ブレーキ時にはタイヤがロックする可能性がある。 ABSコントロールユニットが故障している場合は、パークトロニック、クルーズコントロール、ディストロニック＊、マルチファンクションコントローラー、オートマチックトランスミッションなどが機能しない場合がある。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。 ▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

トラブル	考えられる原因および症状	対応
⚠ エンジンがかかっているときに黄色のESP表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESPの機能が解除されている。	▶ ESPを待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。
	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESPの機能が解除されている。車が横滑りしたときや車輪が空転したときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができない。	▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ（**10-5**）に従ってください。 ▶ 十分注意して走行してください。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
⚠ 走行中に黄色のESP表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤがグリップを失いかけているか車が横滑りをしているため、ESPやトラクションコントロールが作動している。 クルーズコントロールまたはディストロニック＊も自動的に解除される。	▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESPの機能を解除しないでください（雪道などでの走行を除く）。

トラブルの原因と対応

トラブル		考えられる原因および症状	対応
(!)	走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴っている。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。	▶ パーキングブレーキを解除してください。
	エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴っている。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。	▶ 状況を問わず、走行しないでください ▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ（10-10）に従ってください。 ▶ 状況を問わず、ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
	走行中に赤色の車間距離警告灯＊が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 先行車との車間距離が短すぎる。	▶ 車間距離を長くとってください。
	走行中に赤色の車間距離警告灯＊が点灯する。警告音も鳴っている。	⚠ **事故のおそれがあります** 先行車に急激に接近している。	▶ 交通状況に注意してください。必要であれば、ただちにブレーキペダルを踏むか、回避操作を行なってください。
		⚠ **事故のおそれがあります** ディストロニック＊が走行線上に静止した障害物を検知している。	▶ 交通状況に注意してください。必要であれば、ただちにブレーキペダルを踏むか、回避操作を行なってください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エンジンがかかっているときに赤色の冷却水量・冷却水温度警告灯が点灯する。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。	▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、不足している場合は冷却水を補給してください。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給している場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。
	冷却水量が正常なときは、冷却ファンが故障している。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。	▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。
エンジンがかかっているときに赤色の冷却水量・冷却水温度警告灯が点灯し、警告音も鳴っている。	リザーブタンクの冷却水量が不足し、冷却水温度が約120℃を超えている。 エンジンが十分に冷却されないため、エンジンを損傷するおそれがある。	▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、不足している場合は冷却水を補給してください。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給している場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。
	冷却水量が正常なときは、冷却ファンが故障している。また、冷却水温度が約120℃を超えている。 エンジンが十分に冷却されないため、エンジンを損傷するおそれがある。	▶ 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。

トラブルの原因と対応

トラブル		考えられる原因および症状	対応
(エンジン警告灯)	エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下に異常がある。 • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。	▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
SRS	エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する	⚠ けがのおそれがあります 乗員保護補助装置に異常がある。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。	▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状	対応
フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	⚠ けがのおそれがあります 前席の乗員がシートベルトを着用していない。	▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
	⚠ けがのおそれがあります 助手席シートの上に荷物を置いている。	▶ 助手席シートの上に置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、警告音も鳴る。	⚠ けがのおそれがあります 前席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約25km/hを超えた。	▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
	⚠ けがのおそれがあります 助手席シートの上に荷物を置いた状態で走行し、速度が約25km/hを超えた。	▶ 安全な場所に停車してから、助手席シートの上に置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。	▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

トラブルの原因と対応

警告音

トラブル	考えられる原因および症状	対応
盗難防止警報が突然作動した。	盗難防止警報システムが待機状態のときに、運転席ドア、またはトランクをエマージェンシーキーで解錠して開いた。 盗難防止警報システムが待機状態のときに、車内のレバーを引いてドアを解錠して開くか、ボンネットのロックを解除した。	▶ キーの またはを押してください。 または ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
警告音が鳴った。	マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されている。	▶ 故障 / 警告メッセージをご覧ください（10-2～13）。
	パーキングブレーキを解除しないで走行している。	▶ パーキングブレーキを解除してください。
	車外ランプを消灯しないでエンジンスイッチからキーを抜き、運転席ドアを開いた。	▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。
エンジンを始動すると、警告音が約6秒間鳴る。	⚠ けがのおそれがあります 運転席の乗員がシートベルトを着用していない。	▶ シートベルトを着用してください。
速度が約25km/h以上になったときに警告音が鳴る。	⚠ けがのおそれがあります 前席の乗員がシートベルトを着用していない。	▶ シートベルトを着用してください。

ホーンが断続的に鳴った。	ホールド機能が作動しているときに以下の操作を行なった。 • エンジンを停止して運転席ドアを開いた。 • ボンネットのロックを解除した。	▶ ホールド機能を解除してください。

事故のとき

トラブル	考えられる原因および症状	対応
燃料が漏れている。	⚠ **火災や爆発のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクが損傷している。	▶ ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
損傷の程度がわからない。 または 損傷箇所が見当たらない。		▶ 指定サービス工場に連絡してください。
運転席と助手席のヘッドレストが前方に動いた。	追突などの事故により、NECK PROアクティブヘッドレストが作動した。	▶ NECK PROアクティブヘッドレストをリセットしてください（3-17）。

トラブルの原因と対応

燃料と燃料タンク

トラブル	考えられる原因および症状	対応
燃料が漏れている。	⚠ **火災や爆発のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。	▶ ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。	▶ リモコン操作で解錠してください。
	燃料給油フラップの開閉機構に異常がある。	▶ 指定サービス工場に連絡してください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エンジンが始動しない。	ホールド機能が作動している。	▶ ホールド機能を解除してください。 ▶ 再度、エンジンの始動操作を行なってください。
エンジンが始動しない。 エンジンスイッチを**3**の位置にするとスターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムに異常がある可能性がある。 • 燃料供給に異常がある可能性がある。	▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを**0**の位置に戻してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください（**5-4**）。 ただしエンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 **何度始動を試みてもエンジンが始動しないとき** ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。 エンジンスイッチを**3**の位置にしてもスターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低下している。	▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（**7-20**）。 **エンジンが始動しないとき** ▶ 指定サービス工場に連絡してください。

トラブルの原因と対応

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。	▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 触媒を損傷するおそれがあります。
冷却水温度が約120℃を超えている。 冷却水量・冷却水温度警告灯も点灯していたり、警告音が鳴っている場合がある。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。	▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、不足している場合は冷却水を補給してください（**8-6、7**）。
	冷却水量が正常なときは、冷却ファンが故障している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。	▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。

オートマチックトランスミッション

トラブル	考えられる原因および症状	対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。	▶ ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションに異常がある。	エマージェンシーモードにして、2速ギアかリバースギアで走行できる場合があります。 ▶ 停車してください。 ▶ セレクターレバーを P に入れてください。 ▶ エンジンを停止して、エンジンスイッチを0の位置にしてください。 ▶ 10秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ セレクターレバーを D に入れます。 2速ギアになります。 または ▶ セレクターレバーを R に入れます。 リバースギアになります。 ▶ ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

トラブルの原因と対応

パークトロニック

トラブル	考えられる原因および症状	対応
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して約3秒間警告音が鳴った。 約30秒後にパークトロニックが解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックに異常があり、機能が停止している。	▶ 指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約20秒後にパークトロニックが解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。	▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（**8-31**）。 ▶ 再度、エンジンスイッチを**2**の位置にしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が停止している。	▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（**5-75**）。

ヘッドランプ / 方向指示灯

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ヘッドランプまたはドアミラー方向指示灯の内側が曇っている。	外気の湿度が高くなっている。	▶ ヘッドランプを点灯して走行してください。 しばらく走行すると、ヘッドランプ内側の曇りは取れます。
	ヘッドランプユニットやドアミラー方向指示灯ユニットが密閉されていないため、水分が侵入している。	▶ 指定サービス工場でヘッドランプやドアミラーの点検を受けてください。

ワイパー

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ワイパーが正しく作動しない。	ウインドウに障害になる物が付着している。 ワイパーモーターの作動が停止している。	▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ 再度、ワイパーを作動させてください。
ワイパーが作動しない。	ワイパーが故障している。	▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択してください（5-30）。 ▶ 指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。

トラブルの原因と対応

ウインドウ

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ドアウインドウを閉じることができない。	⚠ **けがのおそれがあります** ドア内部のガイドレールなどに障害になる物が挟まったり、詰まっている。	▶ スイッチから手を放してください。 その位置からドアウインドウが少し開きます。 ▶ ドアウインドウを開いてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ ドアウインドウが閉じるまでスイッチを軽く引きます。 ドアウインドウに挟まれないように注意してください。
ドアウインドウを閉じることができない。	⚠ **けがのおそれがあります** 原因がわからない場合。	▶ ドアウインドウが閉じるまでスイッチを軽く引きます。 ドアウインドウに挟まれないように注意してください。
運転席ドアのドアウインドウが自動で全閉しない。	⚠ **けがのおそれがあります** 原因がわからない場合。 ドアウインドウを自動で全閉しようとすると、ドアウインドウが少し開いた状態で停止し、操作が中断される。	▶ ドアウインドウが閉じるまでスイッチを軽く引きます。 **ドアウインドウが少し開くとき** ▶ 約5秒以内に、スイッチをいっぱいに引きます。 挟み込み防止機能が働かない状態でウインドウが閉じます。 ウインドウに挟まれないように注意してください。 約5秒後に、挟み込み防止機能が働く状態になります。

ドアミラー

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ドアミラーが無理に前方 / 後方に曲げられた。		▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ(3-57)を、ギアが噛み合う音が聞こえるまで押します。

キー

トラブル	考えられる原因および症状	対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。	▶ キーの先端をフロントドアハンドルに向け、至近距離から再度リモコン操作をしてください。 **リモコン操作ができないとき** ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください **(3-26)**。 ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください **(3-13)**。
	キーが故障している。	▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください **(3-26)**。 ▶ 指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーのボタンを押しても表示灯が点灯しない。	キーの電池が消耗している。	▶ キーの電池を交換してください **(3-13)**。 電池は指定サービス工場で入手できます。
キーを紛失した。		▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 新しいキーの入手については、指定サービス工場におたずねください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。

トラブルの原因と対応

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エマージェンシーキーを紛失した。		▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 新しいキーの入手については、指定サービス工場におたずねください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エンジンスイッチがまわらない。	エンジンスイッチからキーを抜かずに0の位置で長時間放置していた。	▶ エンジンスイッチからキーを抜き、再度差してください。 ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 ▶ エンジンを始動してください。
	バッテリーの電圧が低下している。	▶ 必要のない電気装備を停止してから再度エンジンスイッチをまわしてください。 **それでもエンジンスイッチがまわらないとき** ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 または ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（7-20）。 または ▶ 指定サービス工場に連絡してください。

車を使用しないとき

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エンジンを始動しない期間が約6週間以上におよぶとき。		▶ 対応について、指定サービス工場におたずねください。 ▶ バッテリーからケーブルを外してください。

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ラ

ワ

英字

“SBC®”“ESP®”はダイムラー社の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2007年12月現在のものです。

対象モデル

CLS 350
CLS 550
CLS 63 AMG